

FD 活動報告書

2020年度

第一薬科大学

FD 委員会

Published by Daiichi University of Pharmacy
22-1 Tamagawa-cho, Minami-ku, Fukuoka 815-8511, Japan

目 次

学生授業評価アンケート報告	1
1. アンケート調査実施要領 薬学部	3
2. アンケート集計結果 薬学部	5
3. 学生コメント総括 薬学部	17
4. アンケート調査実施要領 看護学部	19
 教員相互授業参観報告	 25
1. 令和2年度「教員相互授業参観」実施要領 薬学部	27
2. 令和2年度「教員相互授業参観」感想 薬学部	30
3. 令和2年度「教員相互授業参観」実施要領 看護学部	47
4. 令和2年度「教員相互授業参観」感想 看護学部	50
 教員による授業の自己評価報告	 55
 FD 講習会報告	 61
第1回 学内FD研修会報告	64
第2回 学内FD研修会報告	65
第3回 学内FD研修会報告	76
第4回 学内FD研修会報告	77
第5回 学内FD研修会報告	84
学外FD研修会報告	90
 学生・教員懇談会報告	 93
 IR・教務・FD委員会 合同「講義形式アンケート」報告	 97

薬学部
学生授業評価アンケート報告

令和 2 年度

1.授業評価アンケート実施要領

【目的】このアンケートは授業及び実習に関し学生の率直な意見を収集し、その結果を授業及び実習の質向上を図るために実施するものである。

【実施要領】

- (1) 回答対象者：1～6 年次学生全員。
- (2) 評価対象科目：すべての授業及び実習科目（実務実習と演習科目を除く）
- (3) 実施方法：
 - ①Microsoft Forms を用いて行う。
 - ②無記名とする。
 - ③集計作業には FD 委員があたる。
 - ④授業及び実習に対する学生の意見・要望は自由記述とした。
- (4) 実施時期：講義または実習の後半とし、科目担当教員が行った。
- (5) アンケート項目：講義については、教員評価に関する質問（6 項目）、学生自己評価に関する質問（5 項目）及び自由記載欄を設けた。実習に関しては、教員評価に関する質問（6 項目）、学生自己評価に関する質問（5 項目）及び自由記載欄を設けた。
- (6) アンケート結果の集計：Microsoft Excel を用いた。
- (7) アンケート集計結果の表記：学年ごとに前期、後期に分けて、全科目の平均評定値を、グラフと表にして示した。
- (8) 調査結果の取り扱い
 - ① 各教員は Microsoft Forms 上でアンケート結果を確認する。
 - ② 授業及び実習に対するコメントは、当該教員が確認し、FD 委員が総括する。
 - ③ 各教員は調査結果を授業及び実習に反映させる。
 - ④ 学生へは、「令和 2 年度 FD 活動報告書」として図書館、国試情報センター及び第一薬科大学ホームページにて公開する。

(資料 1) 授業評価アンケート項目

<教員評価>

- ①授業中に到達目標（SBOs）がきちんと示されていた。
- ②シラバスとの整合性がとれていた。
- ③授業内容に興味がわくような工夫がされていた。
- ④授業内容を理解させる工夫がされていた。
- ⑤説明は明瞭で聞きとりやすかった。
- ⑥黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。

<学生自己評価>

- ⑦事前にシラバスを読んでこの授業に臨んだ。（頻度、程度を 5 段階で評価）
- ⑧予習をしてこの授業に臨んだ。（頻度、程度を 5 段階で評価）
- ⑨この授業の復習(動画を繰り返し視聴)をした。（頻度、程度を 5 段階で評価）
- ⑩動画を時間通りに視聴した。（頻度、程度を 5 段階で評価）
- ⑪この授業の内容を理解できた。

(資料 2) 実習評価アンケート項目

<教員評価>

- ①到達目標（SBOs）がきちんと示されていた。
- ②シラバスとの整合性がとれていた。
- ③実習内容に興味がわくような工夫がされていた。
- ④実習内容を理解させる工夫がされていた。
- ⑤技能（手技・態度）を習得させる工夫がされていた。
- ⑥黒板の文字やスライドの映像が見やすかった。

<学生自己評価>

- ⑦事前にシラバスを読んでこの実習に臨んだ。（頻度、程度を 5 段階で評価）
- ⑧予習をしてこの実習に臨んだ。（頻度、程度を 5 段階で評価）
- ⑨この実習の復習(動画を繰り返し視聴)をした。（頻度、程度を 5 段階で評価）
- ⑩動画を時間通りに視聴した。（頻度、程度を 5 段階で評価）
- ⑪この実習の内容を理解できた。

(資料 3) 令和 2 年度授業評価アンケート回答状況

令和 2 年度 前期			
学年	履修者総数	有効回答総数	回答率
1 年	2,098	488	23.3%
2 年	1,712	544	31.8%
3 年	1,880	658	35.0%
4 年	1,150	404	35.1%
5 年	—	—	—
6 年	569	185	32.5%

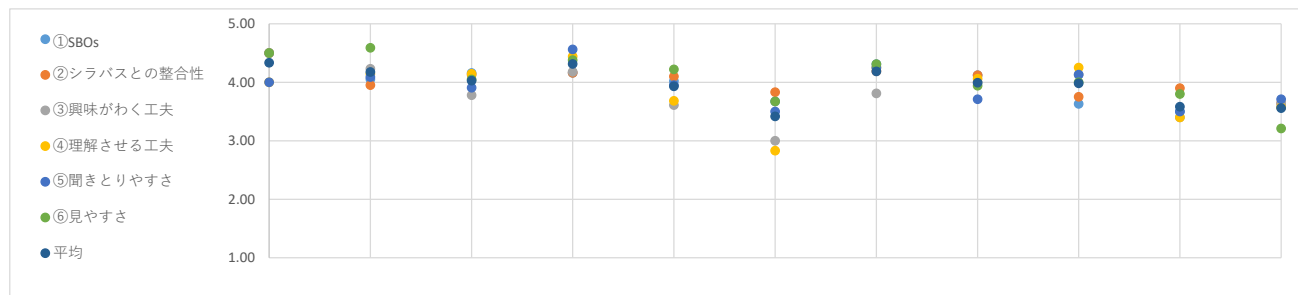
令和 2 年度 後期			
学年	履修者総数	有効回答総数	回答率
1 年	2,218	440	19.8%
2 年	1,595	420	26.3%
3 年	2,022	353	17.5%
4 年	—	—	—
5 年	—	—	—
6 年	—	—	—

2. アンケート集計結果

次ページから令和 2 年度 授業および実習評価結果のまとめを掲載する。

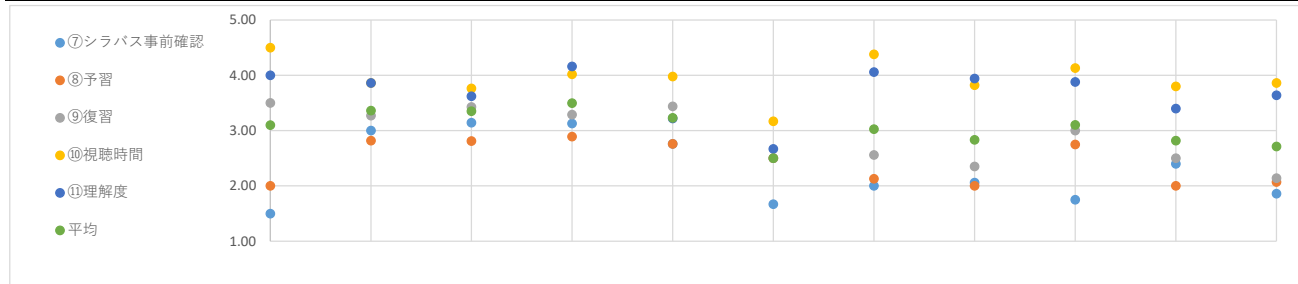
2020年度 1年生 前期 授業評価（教員評価）①

科目名	フランス語Ⅰ	英会話Ⅰ	基礎化学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	基礎物理学	経済学Ⅰ	情報処理演習Ⅰ	心理学	中国語Ⅰ	哲学Ⅰ	福祉学Ⅰ
①SBOs	4.50	4.05	4.16	4.16	4.02	3.67	4.31	4.12	3.63	3.50	3.57
②シラバスとの整合性	4.50	3.95	4.13	4.16	4.10	3.83	4.19	4.12	3.75	3.90	3.64
③興味がわく工夫	4.50	4.23	3.78	4.18	3.61	3.00	3.81	4.00	4.13	3.40	3.64
④理解させる工夫	4.00	4.14	4.14	4.44	3.68	2.83	4.25	4.06	4.25	3.40	3.57
⑤聞きとりやすさ	4.00	4.09	3.90	4.56	3.95	3.50	4.25	3.71	4.13	3.50	3.71
⑥見やすさ	4.50	4.59	4.05	4.38	4.22	3.67	4.31	3.94	4.00	3.80	3.21
平均	4.33	4.175	4.03	4.31	3.93	3.42	4.19	3.99	3.98	3.58	3.56



2020年度 1年生 前期 授業評価（学生自己評価）①

科目名	フランス語Ⅰ	英会話Ⅰ	基礎化学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	基礎物理学	経済学Ⅰ	情報処理演習Ⅰ	心理学	中国語Ⅰ	哲学Ⅰ	福祉学Ⅰ
⑦シラバス事前確認	1.50	3.00	3.14	3.13	2.76	1.67	2.00	2.06	1.75	2.40	1.86
⑧予習	2.00	2.82	2.81	2.89	2.76	2.50	2.13	2.00	2.75	2.00	2.07
⑨復習	3.50	3.27	3.43	3.29	3.44	2.50	2.56	2.35	3.00	2.50	2.14
⑩視聴時間	4.50	3.86	3.76	4.02	3.98	3.17	4.38	3.82	4.13	3.80	3.86
⑪理解度	4.00	3.86	3.62	4.16	3.22	2.67	4.06	3.94	3.88	3.40	3.64
平均	3.10	3.36	3.35	3.50	3.23	2.50	3.03	2.83	3.10	2.82	2.71



科目名	フランス語Ⅰ	英会話Ⅰ	基礎化学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	基礎物理学	経済学Ⅰ	情報処理演習Ⅰ	心理学	中国語Ⅰ	哲学Ⅰ	福祉学Ⅰ
履修者数	12	81	131	133	142	56	124	127	34	85	102
有効回答数	2	22	63	45	41	6	16	17	8	10	14
回答率	16.7%	27.2%	48.1%	33.8%	28.9%	10.7%	12.9%	13.4%	23.5%	11.8%	13.7%

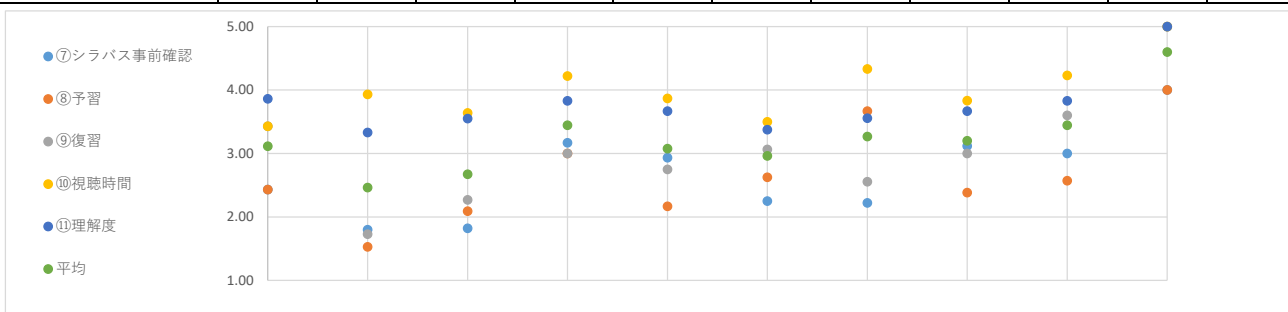
2020年度 1年生 前期 授業評価（教員評価）②

科目名	文学Ⅰ	文章表現論	法学Ⅰ	本草学	薬学への招待	薬学基礎英語Ⅰ	薬学基礎英語Ⅱ	薬用資源学	有機化学Ⅰ	倫理学Ⅰ	医療概論
①SBOs	4.00	3.13	3.82	4.17	4.05	4.00	3.33	4.22	4.26	5.00	-
②シラバスとの整合性	4.29	3.67	4.00	4.22	4.15	3.88	3.67	4.12	4.30	5.00	-
③興味がわく工夫	3.43	2.73	3.82	4.28	3.83	3.56	3.56	4.00	4.04	4.00	-
④理解させる工夫	4.00	3.07	4.00	4.22	3.82	3.63	3.33	3.98	4.34	5.00	-
⑤聞きとりやすさ	4.14	3.80	3.82	4.00	3.98	3.38	3.11	4.17	4.02	5.00	-
⑥見やすさ	4.43	3.53	3.82	4.22	4.20	4.00	3.00	4.28	4.28	5.00	-
平均	4.05	3.32	3.88	4.19	4.01	3.74	3.33	4.13	4.21	4.83	-



2020年度 1年生 前期 授業評価（学生自己評価）②

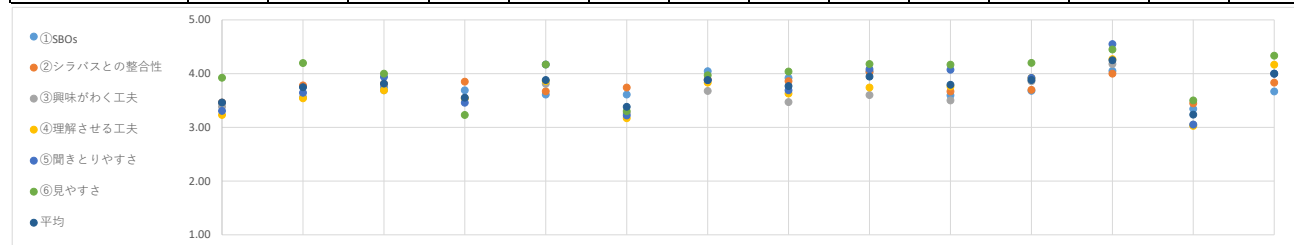
科目名	文学Ⅰ	文章表現論	法学Ⅰ	本草学	薬学への招待	薬学基礎英語Ⅰ	薬学基礎英語Ⅱ	薬用資源学	有機化学Ⅰ	倫理学Ⅰ	医療概論
⑦シラバス事前確認	2.43	1.80	1.82	3.17	2.93	2.25	2.22	3.12	3.00	4.00	-
⑧予習	2.43	1.53	2.09	3.00	2.17	2.63	3.67	2.38	2.57	4.00	-
⑨復習	3.43	1.73	2.27	3.00	2.75	3.06	2.56	3.00	3.60	5.00	-
⑩視聴時間	3.43	3.93	3.64	4.22	3.87	3.50	4.33	3.83	4.23	5.00	-
⑪理解度	3.86	3.33	3.55	3.83	3.67	3.38	3.56	3.67	3.83	5.00	-
平均	3.12	2.46	2.67	3.44	3.08	2.96	3.27	3.20	3.45	4.60	-



科目名	文学Ⅰ	文章表現論	法学Ⅰ	本草学	薬学への招待	薬学基礎英語Ⅰ	薬学基礎英語Ⅱ	薬用資源学	有機化学Ⅰ	倫理学Ⅰ	医療概論
履修者数	66	128	104	18	130	69	60	131	138	96	131
有効回答数	7	15	11	18	60	16	9	60	47	1	0
回答率	10.6%	11.7%	10.6%	100.0%	46.2%	23.2%	15.0%	45.8%	34.1%	1.0%	0.0%

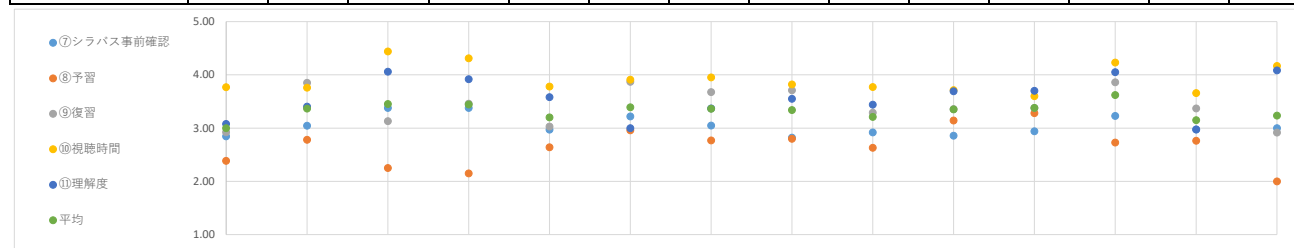
2020年度 2年生 前期 授業評価（教員評価）

科目名	漢方薬理学	微生物学Ⅰ	プレゼンテーション論	基礎統計学	機能形態学Ⅱ	物理化学Ⅰ	分析化学Ⅰ	無機化学	薬学英語	薬学英語	薬理学Ⅰ	有機化学Ⅲ	臨床心理学	
①SBOs	3.46	3.76	3.75	3.69	3.61	3.61	4.05	3.92	4.04	3.60	3.68	4.05	3.34	3.67
②シラバスとの整合性	3.46	3.78	3.81	3.85	3.67	3.74	3.89	3.86	4.03	3.67	3.70	4.00	3.45	3.83
③興味がわく工夫	3.38	3.56	3.69	3.54	3.81	3.26	3.68	3.47	3.60	3.50	3.86	4.18	3.05	4.00
④理解させる工夫	3.23	3.54	3.69	3.54	3.86	3.17	3.83	3.63	3.74	3.76	3.92	4.27	3.03	4.17
⑤聞きとりやすさ	3.31	3.64	3.94	3.46	4.17	3.22	3.88	3.69	4.08	4.07	3.92	4.55	3.05	4.00
⑥見やすさ	3.92	4.20	4.00	3.23	4.17	3.30	3.97	4.04	4.18	4.17	4.20	4.45	3.50	4.33
平均	3.46	3.75	3.81	3.55	3.88	3.38	3.88	3.77	3.95	3.79	3.88	4.25	3.24	4.00



2020年度 2年生 前期 授業評価（学生自己評価）

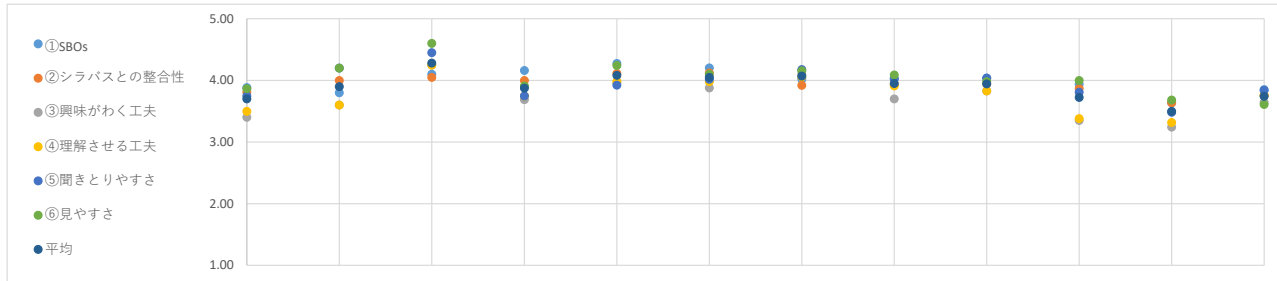
科目名	漢方薬理学	微生物学Ⅰ	プレゼンテーション論	基礎統計学	機能形態学Ⅱ	物理化学Ⅰ	分析化学Ⅰ	無機化学	薬学英語	薬学英語	薬理学Ⅰ	有機化学Ⅲ	臨床心理学	
⑦シラバス事前確認	2.85	3.05	3.38	3.38	2.97	3.22	3.05	2.82	2.92	2.86	2.94	3.23	2.97	3.00
⑧予習	2.38	2.78	2.25	2.15	2.64	2.96	2.77	2.80	2.63	3.14	3.28	2.73	2.76	2.00
⑨復習	2.92	3.85	3.13	3.46	3.03	3.87	3.68	3.71	3.29	3.36	3.38	3.86	3.37	2.92
⑩視聴時間	3.77	3.76	4.44	4.31	3.78	3.91	3.95	3.82	3.77	3.71	3.60	4.23	3.66	4.17
⑪理解度	3.08	3.40	4.06	3.92	3.58	3.00	3.37	3.55	3.44	3.69	3.70	4.05	2.97	4.08
平均	3.00	3.37	3.45	3.44	3.20	3.39	3.36	3.34	3.21	3.35	3.38	3.62	3.15	3.23



科目名	漢方薬理学		微生物学Ⅰ		プレゼンテーション論		基礎統計学		機能形態学Ⅱ		物理化学Ⅰ		分析化学Ⅰ		無機化学		薬学英語		薬学英語		薬理学Ⅰ		有機化学Ⅲ		臨床心理学			
履修者数	43		147		132		134		134		154		152		141		138		72		70		144		163		88	
有効回答数	13		87		16		13		36		23		65		49		78		42		50		22		38		12	
回答率	30.2%		59.2%		12.1%		9.7%		26.9%		14.9%		42.8%		34.8%		56.5%		58.3%		71.4%		15.3%		23.3%		13.6%	

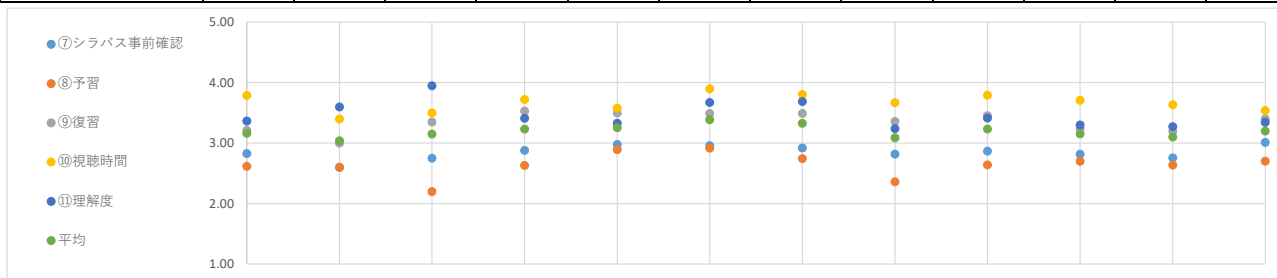
2020年度 3年生 前期 授業評価（教員評価）

科目名	薬理学Ⅲ	食品衛生学Ⅰ	薬方製剤・薬剤学	環境衛生学Ⅱ	生命科学Ⅲ	製剤学Ⅰ	病態薬物治療学Ⅲ	物理化学Ⅲ	物理薬剤学	分析化学Ⅲ	免疫学	有機化学Ⅴ
①SBOs	3.88	3.80	4.10	4.16	4.27	4.20	4.02	4.03	4.04	3.94	3.64	3.85
②シラバスとの整合性	3.81	4.00	4.05	4.00	4.11	4.12	3.92	3.94	3.94	3.87	3.64	3.76
③興味がわく工夫	3.40	3.60	4.25	3.69	3.96	3.88	4.10	3.7	3.83	3.35	3.24	3.64
④理解させる工夫	3.50	3.60	4.25	3.75	3.98	3.98	4.06	3.91	3.83	3.38	3.32	3.76
⑤聞きとりやすさ	3.75	4.20	4.45	3.75	3.92	4.02	4.18	4.03	4.04	3.81	3.48	3.84
⑥見やすさ	3.87	4.20	4.60	3.91	4.24	4.10	4.16	4.09	3.98	4.00	3.68	3.61
平均	3.70	3.90	4.28	3.88	4.08	4.05	4.07	3.95	3.94	3.73	3.50	3.74



2020年度 3年生 前期 授業評価（学生自己評価）

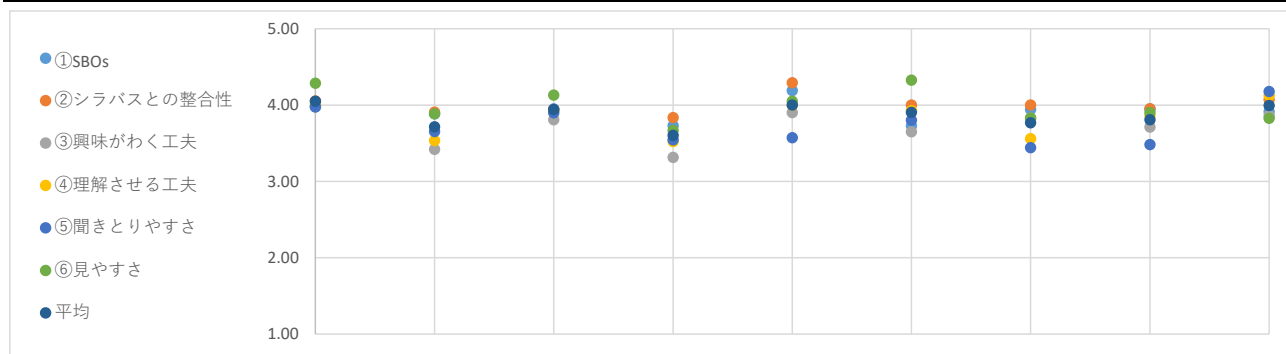
科目名	薬理学Ⅲ	食品衛生学Ⅰ	薬方製剤・薬剤学	環境衛生学Ⅱ	生命科学Ⅲ	製剤学Ⅰ	病態薬物治療学Ⅲ	物理化学Ⅲ	物理薬剤学	分析化学Ⅲ	免疫学	有機化学Ⅴ
⑦シラバス事前確認	2.83	2.60	2.75	2.88	2.98	2.96	2.92	2.82	2.87	2.82	2.76	3.01
⑧予習	2.62	2.60	2.20	2.63	2.89	2.92	2.75	2.36	2.64	2.70	2.64	2.70
⑨復習	3.21	3.00	3.35	3.53	3.50	3.49	3.49	3.36	3.45	3.24	3.20	3.40
⑩視聴時間	3.79	3.40	3.50	3.72	3.58	3.90	3.80	3.67	3.79	3.71	3.64	3.54
⑪理解度	3.37	3.60	3.95	3.41	3.33	3.67	3.69	3.24	3.42	3.30	3.27	3.34
平均	3.16	3.04	3.15	3.23	3.25	3.39	3.33	3.09	3.23	3.15	3.10	3.20



科目名	薬理学Ⅲ	食品衛生学Ⅰ	薬方製剤・薬剤学	環境衛生学Ⅱ	生命科学Ⅲ	製剤学Ⅰ	病態薬物治療学Ⅲ	物理化学Ⅲ	物理薬剤学	分析化学Ⅲ	免疫学	有機化学Ⅴ
履修者数	170	161	46	172	167	167	170	165	167	163	162	170
有効回答数	52	5	20	32	131	49	51	33	53	79	66	87
回答率	30.6%	3.1%	43.5%	18.6%	78.4%	29.3%	30.0%	20.0%	31.7%	48.5%	40.7%	51.2%

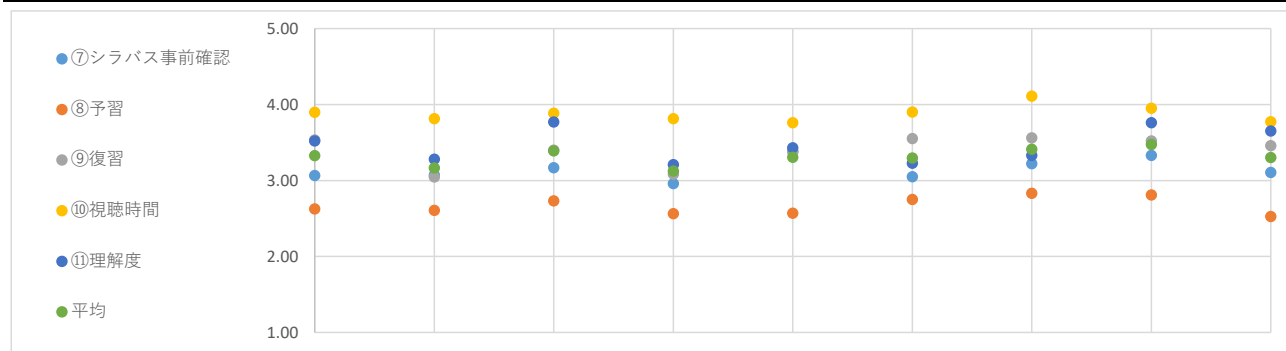
2020年度 4年生 授業評価（教員評価）

科目名	がん化学療法学	医薬品情報学	漢方治療論	薬事関係法規	薬事関係法規	薬物動態学Ⅱ	臨床薬学英語	臨床薬学英語	臨床薬物動態学
①SBOs	3.99	3.88	3.95	3.73	4.19	3.73	3.94	3.95	3.91
②シラバスとの整合性	4.05	3.91	3.94	3.83	4.29	4.00	4.00	3.95	4.07
③興味がわく工夫	3.97	3.42	3.81	3.31	3.90	3.65	3.83	3.71	3.86
④理解させる工夫	4.01	3.53	3.92	3.52	4.00	3.93	3.56	3.86	4.12
⑤聞きとりやすさ	3.97	3.65	3.90	3.54	3.57	3.80	3.44	3.48	4.18
⑥見やすさ	4.29	3.88	4.13	3.67	4.05	4.33	3.83	3.90	3.82
平均	4.05	3.71	3.94	3.60	4.00	3.90	3.77	3.81	3.99



2020年度 4年生 授業評価（学生自己評価）

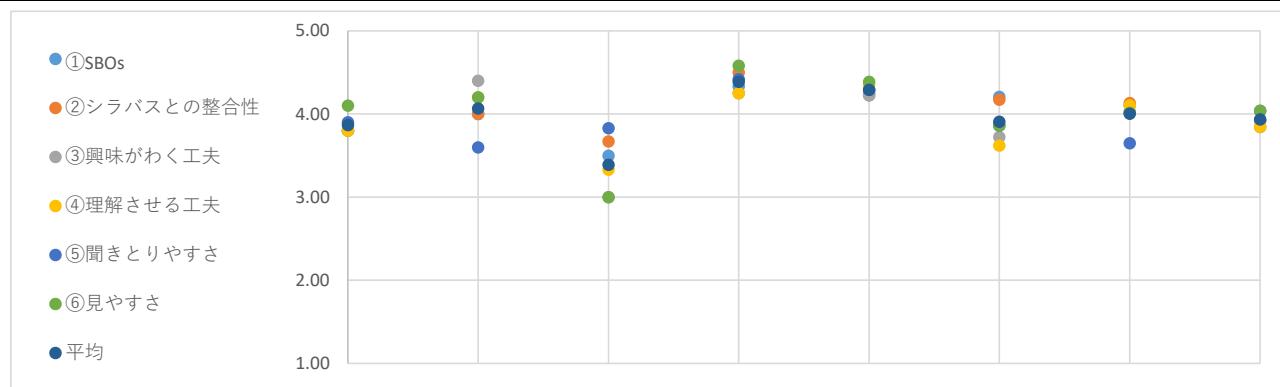
科目名	がん化学療法学	医薬品情報学	漢方治療論	薬事関係法規	薬事関係法規	薬物動態学Ⅱ	臨床薬学英語	臨床薬学英語	臨床薬物動態学
⑦シラバス事前確認	3.06	3.07	3.17	2.96	3.38	3.05	3.22	3.33	3.11
⑧予習	2.62	2.60	2.73	2.56	2.57	2.75	2.83	2.81	2.53
⑨復習	3.53	3.05	3.40	3.08	3.38	3.55	3.56	3.52	3.46
⑩視聴時間	3.90	3.81	3.88	3.81	3.76	3.90	4.11	3.95	3.77
⑪理解度	3.52	3.28	3.77	3.21	3.43	3.23	3.33	3.76	3.65
平均	3.33	3.16	3.39	3.13	3.30	3.30	3.41	3.47	3.30



科目名	がん化学療法学	医薬品情報学	漢方治療論	薬事関係法規	薬事関係法規	薬物動態学Ⅱ	臨床薬学英語	臨床薬学英語	臨床薬物動態学
履修者数	128	128	127	127	127	127	128	128	130
有効回答数	77	43	78	48	21	40	19	21	57
回答率	60.2%	33.6%	61.4%	37.8%	16.5%	31.5%	14.8%	16.4%	43.8%

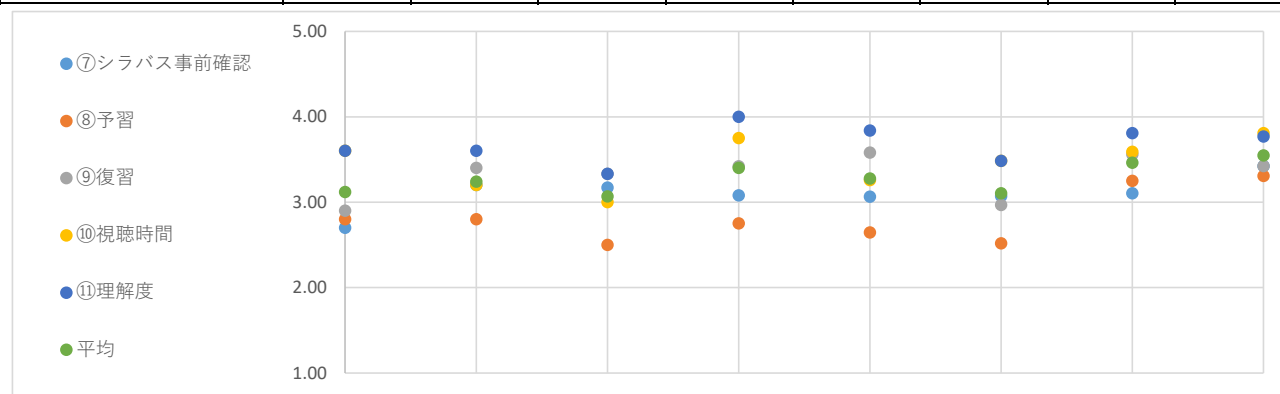
2020年度 6年生 授業評価（教員評価）

科目名	ゲノム創薬論	ターミナルケア論	医薬品開発論	漢方疾患治療論	健康管理学	健康管理学	処方解析学	臨床物理分析法
①SBOs	3.80	4.00	3.50	4.33	4.23	4.21	4.10	3.85
②シラバスとの整合性	3.80	4.00	3.67	4.50	4.26	4.17	4.13	3.92
③興味がわく工夫	3.80	4.40	3.00	4.25	4.23	3.72	4.03	3.92
④理解させる工夫	3.80	4.20	3.33	4.25	4.35	3.62	4.10	3.85
⑤聞きとりやすさ	3.90	3.60	3.83	4.42	4.29	3.86	3.65	4.04
⑥見やすさ	4.10	4.20	3.00	4.58	4.39	3.86	4.01	4.04
平均	3.87	4.07	3.39	4.39	4.29	3.91	4.00	3.94



2020年度 6年生 授業評価（学生自己評価）

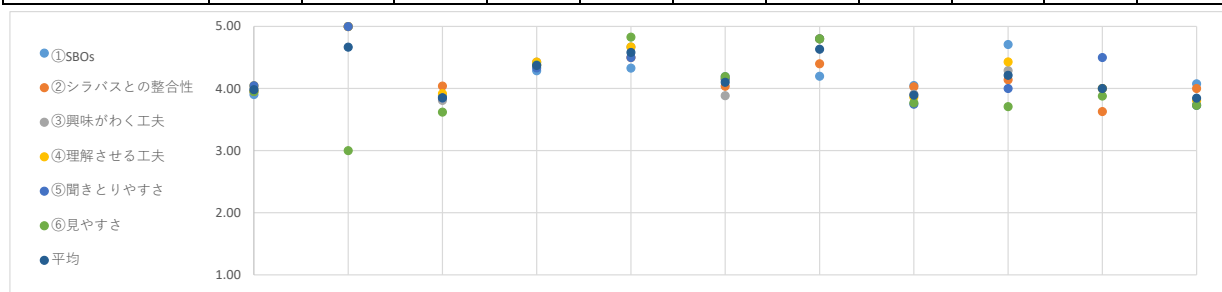
科目名	ゲノム創薬論	ターミナルケア論	医薬品開発論	漢方疾患治療論	健康管理学	健康管理学	処方解析学	臨床物理分析法
⑦シラバス事前確認	2.70	3.20	3.17	3.08	3.06	3.07	3.10	3.42
⑧予習	2.80	2.80	2.50	2.75	2.65	2.52	3.25	3.31
⑨復習	2.90	3.40	3.33	3.42	3.58	2.97	3.56	3.42
⑩視聴時間	3.60	3.20	3.00	3.75	3.26	3.48	3.59	3.81
⑪理解度	3.60	3.60	3.33	4.00	3.84	3.48	3.81	3.77
平均	3.12	3.24	3.07	3.40	3.28	3.10	3.46	3.55



科目名	ゲノム創薬論	ターミナルケア論	医薬品開発論	漢方疾患治療論	健康管理学	健康管理学	処方解析学	臨床物理分析法
履修者数	14	109	124	21	62	62	124	53
有効回答数	10	5	6	12	29	29	68	26
回答率	71.4%	4.6%	4.8%	57.1%	46.8%	46.8%	54.8%	49.1%

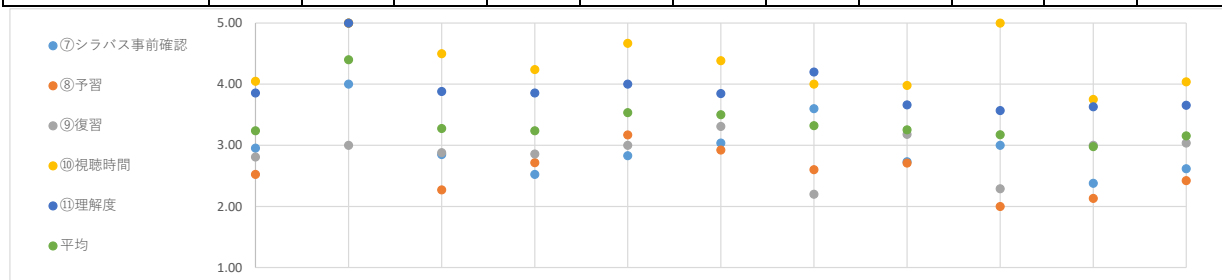
2020年度 1年生 後期 授業評価（教員評価）①

科目名	コミュニケーション論	フランス語Ⅱ	医療概論	英会話Ⅱ	漢方・民間薬概論	基礎化学Ⅱ	基礎数学Ⅱ	基礎生物学	機能形態学Ⅰ	経済学Ⅱ	情報処理演習Ⅱ
①SBOs	3.90	5.00	3.88	4.29	4.33	4.19	4.20	4.05	4.71	4.00	4.08
②シラバスとの整合性	3.95	5.00	4.04	4.38	4.50	4.04	4.40	4.03	4.14	3.63	4.00
③興味がわく工夫	4.00	5.00	3.81	4.43	4.67	3.88	4.80	3.91	4.29	4.00	3.73
④理解させる工夫	4.05	5.00	3.92	4.43	4.67	4.15	4.80	3.86	4.43	4.00	3.81
⑤聞きとりやすさ	4.05	5.00	3.85	4.33	4.50	4.15	4.80	3.75	4.00	4.50	3.73
⑥見やすさ	3.95	3.00	3.62	4.38	4.83	4.19	4.80	3.77	3.71	3.88	3.73
平均	3.98	4.67	3.85	4.37	4.58	4.10	4.63	3.90	4.21	4.00	3.85



2020年度 1年生 後期 授業評価（学生自己評価）①

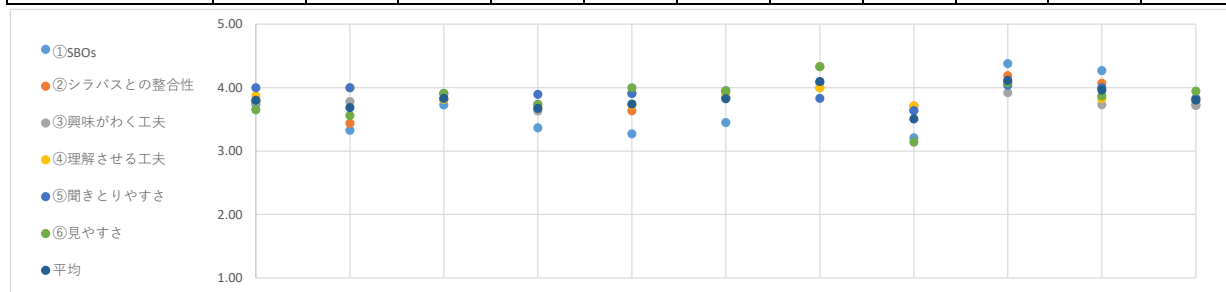
科目名	コミュニケーション論	フランス語Ⅱ	医療概論	英会話Ⅱ	漢方・民間薬概論	基礎化学Ⅱ	基礎数学Ⅱ	基礎生物学	機能形態学Ⅰ	経済学Ⅱ	情報処理演習Ⅱ
⑦シラバス事前確認	2.95	4.00	2.85	2.52	2.83	3.04	3.60	2.73	3.00	2.38	2.62
⑧予習	2.52	5.00	2.27	2.71	3.17	2.92	2.60	2.71	2.00	2.13	2.42
⑨復習	2.81	3.00	2.88	2.86	3.00	3.31	2.20	3.18	2.29	3.00	3.04
⑩視聴時間	4.05	5.00	4.50	4.24	4.67	4.38	4.00	3.98	5.00	3.75	4.04
⑪理解度	3.86	5.00	3.88	3.86	4.00	3.85	4.20	3.66	3.57	3.63	3.65
平均	3.24	4.40	3.28	3.24	3.53	3.50	3.32	3.25	3.17	2.98	3.15



科目名	コミュニケーション論	フランス語Ⅱ	医療概論	英会話Ⅱ	漢方・民間薬概論	基礎化学Ⅱ	基礎数学Ⅱ	基礎生物学	機能形態学Ⅰ	経済学Ⅱ	情報処理演習Ⅱ
履修者数	128	12	131	83	23	143	143	128	180	61	129
有効回答数	21	1	26	22	6	26	5	99	7	8	26
回答率	16.4%	8.3%	19.8%	26.5%	26.1%	18.2%	3.5%	77.3%	3.9%	13.1%	20.2%

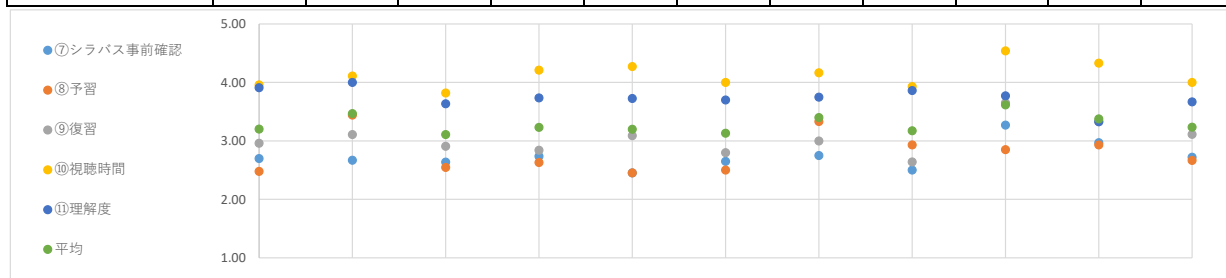
2020年度 1年生 後期 授業評価（教員評価）②

科目名	生命・医療倫理学	中国語Ⅱ	哲学Ⅱ	福祉学Ⅱ	文学Ⅱ	法学Ⅱ	薬学基礎英語Ⅱ	薬学基礎英語Ⅱ	有機化学Ⅱ	理論化学	倫理学Ⅱ
①SBOs	3.74	3.33	3.73	3.37	3.27	3.45	4.08	3.21	4.38	4.27	3.72
②シラバスとの整合性	3.78	3.44	3.82	3.74	3.64	3.85	4.33	3.71	4.19	4.07	3.78
③興味がわく工夫	3.78	3.78	3.82	3.63	3.91	3.85	4.00	3.64	3.92	3.73	3.72
④理解させる工夫	3.87	4.00	3.82	3.68	3.73	3.90	4.00	3.71	4.08	3.83	3.83
⑤聞きとりやすさ	4.00	4.00	3.91	3.89	3.91	3.95	3.83	3.64	4.04	4.00	3.83
⑥見やすさ	3.65	3.56	3.91	3.74	4.00	3.95	4.33	3.14	4.08	3.87	3.94
平均	3.80	3.69	3.83	3.68	3.74	3.83	4.10	3.51	4.12	3.96	3.81



2020年度 1年生 後期 授業評価（学生自己評価）②

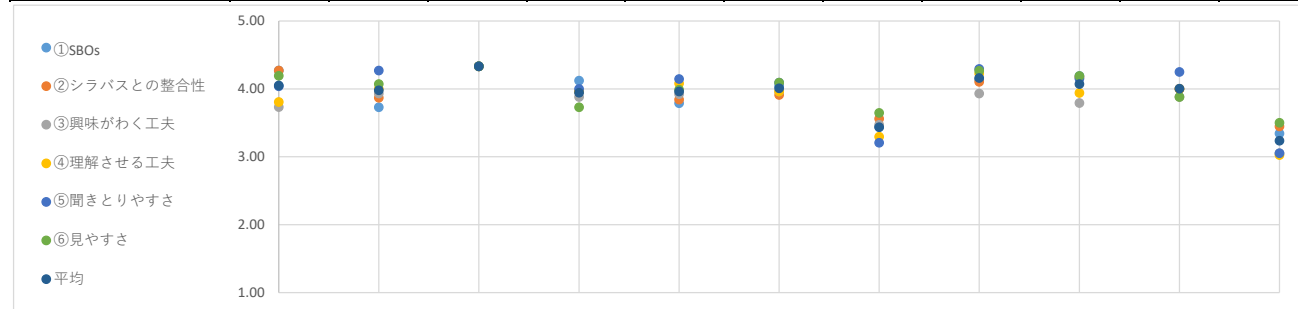
科目名	生命・医療倫理学	中国語Ⅱ	哲学Ⅱ	福祉学Ⅱ	文学Ⅱ	法学Ⅱ	薬学基礎英語Ⅱ	薬学基礎英語Ⅱ	有機化学Ⅱ	理論化学	倫理学Ⅱ
⑦シラバス事前確認	2.70	2.67	2.64	2.74	2.45	2.65	2.75	2.50	3.27	2.97	2.72
⑧予習	2.48	3.44	2.55	2.63	2.45	2.50	3.33	2.93	2.85	2.93	2.67
⑨復習	2.96	3.11	2.91	2.84	3.09	2.80	3.00	2.64	3.65	3.33	3.11
⑩視聴時間	3.96	4.11	3.82	4.21	4.27	4.00	4.17	3.93	4.54	4.33	4.00
⑪理解度	3.91	4.00	3.64	3.74	3.73	3.70	3.75	3.86	3.77	3.33	3.67
平均	3.20	3.47	3.11	3.23	3.20	3.13	3.40	3.17	3.62	3.38	3.23



科目名	生命・医療倫理学	中国語Ⅱ	哲学Ⅱ	福祉学Ⅱ	文学Ⅱ	法学Ⅱ	薬学基礎英語Ⅱ	薬学基礎英語Ⅱ	有機化学Ⅱ	理論化学	倫理学Ⅱ
履修者数	131	35	86	104	68	101	66	61	158	150	97
有効回答数	23	9	11	19	11	20	12	14	26	30	18
回答率	17.6%	25.7%	12.8%	18.3%	16.2%	19.8%	18.2%	23.0%	16.5%	20.0%	18.6%

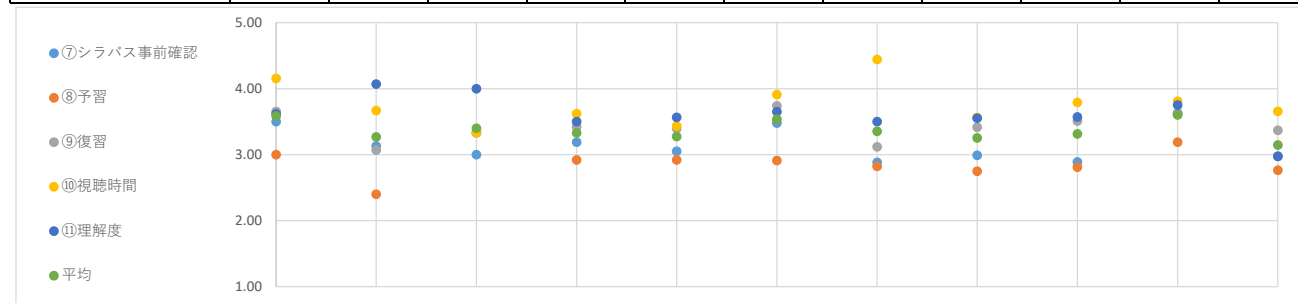
2020年度 2年生 後期 授業評価（教員評価）

科目名	医療統計学	介護学概論	漢方薬効免疫学	環境衛生学Ⅰ	生命科学Ⅱ	生薬学	微生物学Ⅱ	分析化学Ⅱ	放射化学	薬理学Ⅱ	有機化学Ⅳ
①SBOs	4.27	3.73	4.33	4.12	3.79	4.04	3.44	4.14	4.19	4.00	3.34
②シラバスとの整合性	4.27	3.87	4.33	3.96	3.84	3.91	3.56	4.10	4.17	4.00	3.45
③興味がわく工夫	3.73	3.93	4.33	3.88	3.92	3.96	3.47	3.93	3.79	3.88	3.05
④理解させる工夫	3.81	4.00	4.33	3.96	4.08	3.96	3.29	4.22	3.94	4.00	3.03
⑤聞きとりやすさ	4.04	4.27	4.33	4.00	4.14	4.09	3.21	4.29	4.15	4.25	3.05
⑥見やすさ	4.19	4.07	4.33	3.73	3.99	4.09	3.65	4.27	4.19	3.88	3.50
平均	4.05	3.98	4.33	3.94	3.96	4.01	3.44	4.16	4.07	4.00	3.24



2020年度 2年生 後期 授業評価（学生自己評価）

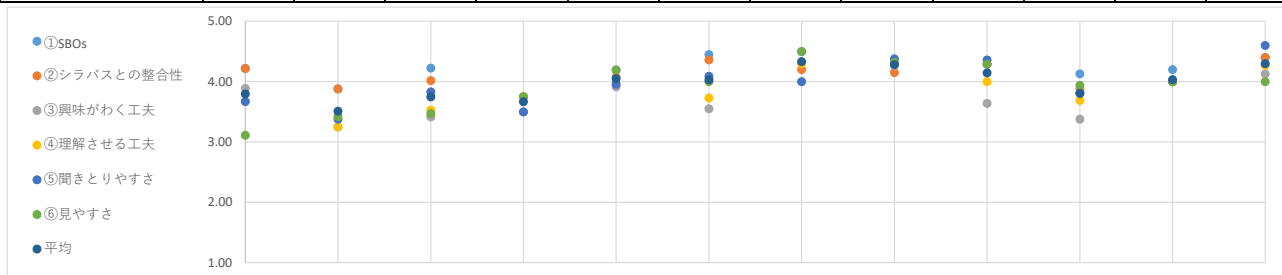
科目名	医療統計学	介護学概論	漢方薬効免疫学	環境衛生学Ⅰ	生命科学Ⅱ	生薬学	微生物学Ⅱ	分析化学Ⅱ	放射化学	薬理学Ⅱ	有機化学Ⅳ
⑦シラバス事前確認	3.50	3.13	3.00	3.19	3.05	3.48	2.88	2.99	2.89	3.63	2.97
⑧予習	3.00	2.40	3.33	2.92	2.92	2.91	2.82	2.75	2.81	3.19	2.76
⑨復習	3.65	3.07	3.33	3.42	3.39	3.74	3.12	3.41	3.51	3.63	3.37
⑩視聴時間	4.15	3.67	3.33	3.62	3.43	3.91	4.44	3.56	3.79	3.81	3.66
⑪理解度	3.62	4.07	4.00	3.50	3.57	3.65	3.50	3.55	3.57	3.75	2.97
平均	3.58	3.27	3.40	3.33	3.27	3.54	3.35	3.25	3.31	3.60	3.15



科目名	医療統計学	介護学概論	漢方薬効免疫学	環境衛生学Ⅰ	生命科学Ⅱ	生薬学	微生物学Ⅱ	分析化学Ⅱ	放射化学	薬理学Ⅱ	有機化学Ⅳ
履修者数	150	95	48	158	161	154	197	158	158	153	163
有効回答数	26	15	3	26	76	23	34	116	47	16	38
回答率	17.3%	15.8%	6.3%	16.5%	47.2%	14.9%	17.3%	73.4%	29.7%	10.5%	23.3%

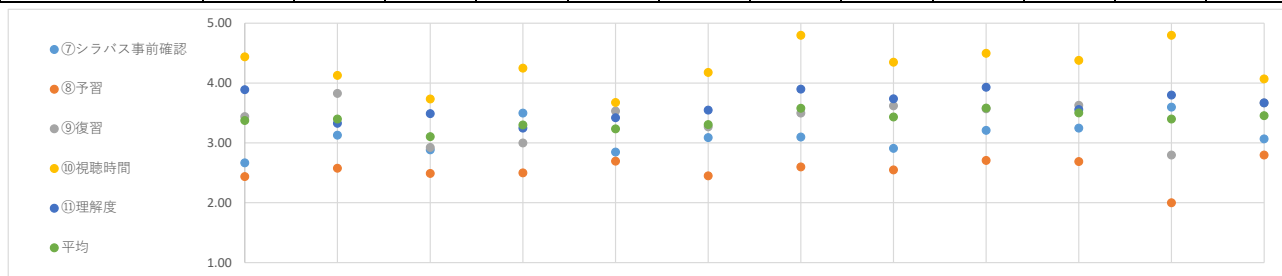
2020年度 3年生 後期 授業評価（教員評価）

科目名	医薬品化学Ⅰ	感染症治療学	公衆衛生学	食品衛生学Ⅱ	生命科学Ⅳ	製剤学Ⅱ	天然物化学	形態薬物治療学Ⅳ	分析化学Ⅳ	薬物動態学Ⅰ	薬理学Ⅳ	有機化学Ⅵ
①SBOs	4.22	3.88	4.23	3.75	4.19	4.45	4.50	4.28	4.29	4.13	4.20	4.40
②シラバスとの整合性	4.22	3.88	4.02	3.75	4.08	4.36	4.20	4.15	4.29	3.88	4.00	4.40
③興味がわく工夫	3.89	3.25	3.42	3.50	3.92	3.55	4.50	4.27	3.64	3.38	4.00	4.13
④理解させる工夫	3.67	3.25	3.53	3.75	3.97	3.73	4.30	4.30	4.00	3.69	4.00	4.27
⑤聞きとりやすさ	3.67	3.38	3.83	3.50	3.96	4.09	4.00	4.38	4.36	3.81	4.00	4.60
⑥見やすさ	3.11	3.42	3.47	3.75	4.19	4.00	4.50	4.32	4.29	3.94	4.00	4.00
平均	3.80	3.51	3.75	3.67	4.05	4.03	4.33	4.28	4.15	3.81	4.03	4.30



2020年度 3年生 後期 授業評価（学生自己評価）

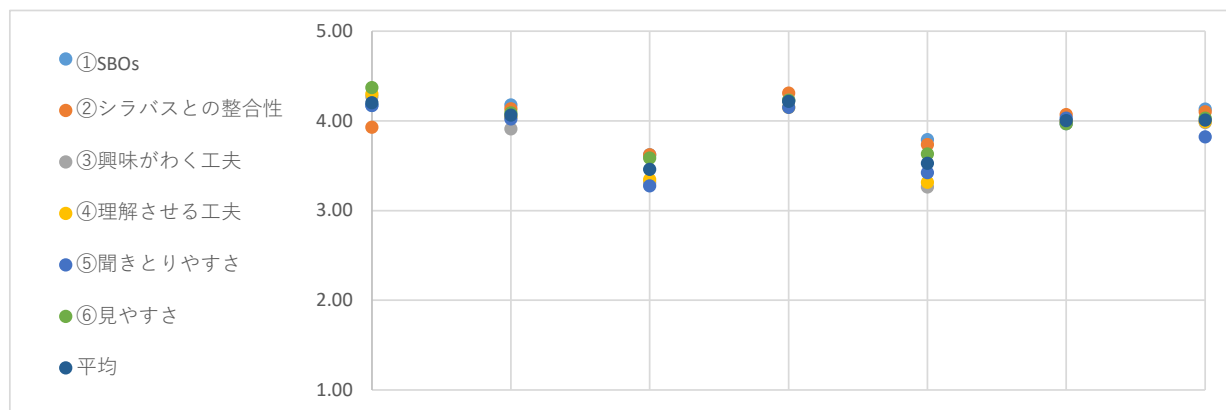
科目名	医薬品化学Ⅰ	感染症治療学	公衆衛生学	食品衛生学Ⅱ	生命科学Ⅳ	製剤学Ⅱ	天然物化学	形態薬物治療学Ⅳ	分析化学Ⅳ	薬物動態学Ⅰ	薬理学Ⅳ	有機化学Ⅵ
⑦シラバス事前確認	2.67	3.13	2.89	3.50	2.85	3.09	3.10	2.91	3.21	3.25	3.60	3.07
⑧予習	2.44	2.58	2.49	2.50	2.69	2.45	2.60	2.55	2.71	2.69	2.00	2.80
⑨復習	3.44	3.83	2.92	3.00	3.53	3.27	3.50	3.62	3.57	3.63	2.80	3.67
⑩視聴時間	4.44	4.13	3.74	4.25	3.68	4.18	4.80	4.35	4.50	4.38	4.80	4.07
⑪理解度	3.89	3.33	3.49	3.25	3.42	3.55	3.90	3.74	3.93	3.56	3.80	3.67
平均	3.38	3.40	3.11	3.30	3.24	3.31	3.58	3.43	3.58	3.50	3.40	3.46



科目名	医薬品化学Ⅰ	感染症治療学	公衆衛生学	食品衛生学Ⅱ	生命科学Ⅳ	製剤学Ⅱ	天然物化学	形態薬物治療学Ⅳ	分析化学Ⅳ	薬物動態学Ⅰ	薬理学Ⅳ	有機化学Ⅵ
履修者数	167	163	159	167	175	164	159	176	180	170	168	174
有効回答数	9	24	53	4	118	11	10	74	14	16	5	15
回答率	5.4%	14.7%	33.3%	2.4%	67.4%	6.7%	6.3%	42.0%	7.8%	9.4%	3.0%	8.6%

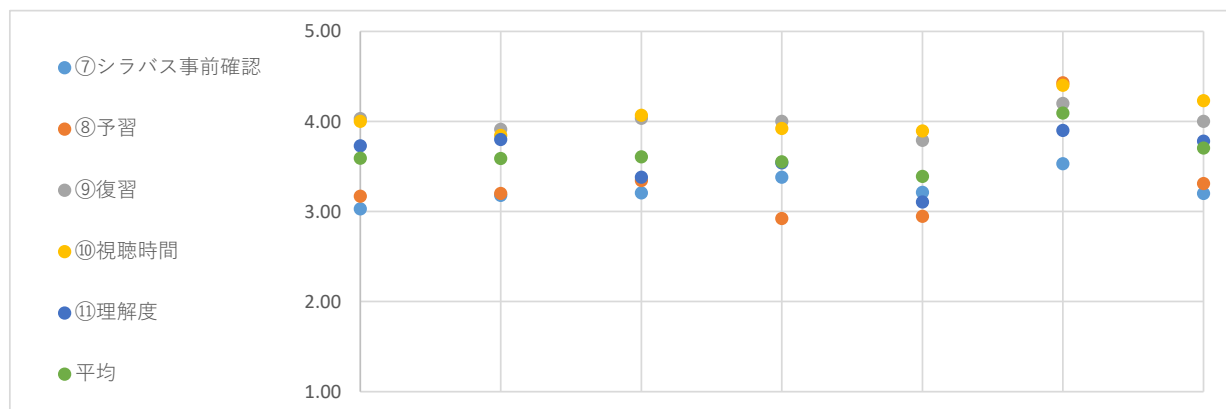
2020年度 2～4年生 実習評価（教員評価）

科目名	衛生薬学実習	生物系実習	生物系実習	薬剤学実習	薬剤学実習	化学系実習	薬理学実習
①SBOs	4.17	4.18	3.62	4.23	3.79	3.97	4.13
②シラバスとの整合性	3.93	4.13	3.62	4.31	3.74	4.07	4.10
③興味がわく工夫	4.27	3.91	3.31	4.23	3.26	3.97	3.98
④理解させる工夫	4.30	4.04	3.34	4.15	3.32	4.00	3.99
⑤聞きとりやすさ	4.17	4.02	3.28	4.15	3.42	4.03	3.82
⑥見やすさ	4.37	4.09	3.59	4.23	3.63	3.97	4.03
平均	4.20	4.06	3.46	4.22	3.53	4.00	4.01



2020年度 2～4年生 実習評価（学生自己評価）

科目名	衛生薬学実習	生物系実習	生物系実習	薬剤学実習	薬剤学実習	化学系実習	薬理学実習
⑦シラバス事前確認	3.03	3.18	3.21	3.38	3.21	3.53	3.20
⑧予習	3.17	3.20	3.34	2.92	2.95	4.43	3.31
⑨復習	4.03	3.91	4.03	4.00	3.79	4.20	4.00
⑩視聴時間	4.00	3.84	4.07	3.92	3.89	4.40	4.23
⑪理解度	3.73	3.80	3.38	3.54	3.11	3.90	3.78
平均	3.59	3.59	3.61	3.55	3.39	4.09	3.70



科目名	衛生薬学実習	生物系実習	生物系実習	薬剤学実習	薬剤学実習	化学系実習	薬理学実習
履修者数	155	155	155	127	127	136	157
有効回答数	30	45	29	13	19	30	201
回答率	19.4%	29.0%	18.7%	10.2%	15.0%	22.1%	128.0%

3.学生コメント総括

令和2年度 学生による授業および実習評価アンケートのコメント欄に記載された代表的な内容を以下に記す。

【授業】

<良かった点>	<改善してほしい点>
・説明が丁寧で理解しやすい ・重要な部分を強調した説明 ・生徒の理解度に合わせた説明 ・理解しやすい動画（音や画像の工夫）が作成されている ・繰り返し、動画が視聴できるため、復習に役立つ ・確認テストや小テスト、宿題プリントの利用 ・メール等、講義後の質問対応 ・前回の復習がある ・聞きとりやすい声 ・スライド中の写真や絵の工夫、分子模型を使った説明 ・講義内容を要約したプリントの配布がある ・学生の理解度に合わせた講義の進め方 ・理論的かつ丁寧な説明によって理解が深まる ・	・講義ペース （早すぎる、或いは遅すぎる） ・理解しやすい動画の ・作成講義動画の音声の質が低い。 ・板書方法 （文字の読みづらさ、消すタイミングなど） ・聞き取りにくい声 （マイクの音量、性能の問題を含む） ・スライドや講義資料のサーバーへのアップ時期を早く ・スライドの作り方（配置、配色、フォントサイズ） ・重要な部分とそうでない部分のメリハリがはっきりしない ・教科書の種類を変えて欲しい ・試験形式（対面試験）

【実習】

＜良かった点＞	＜改善してほしい点＞
・ 事前の動画配信による実習内用の理解 ・ 動画の工夫	・ 対面実習とオンラインでの評価（点）の違い（公平性） ・ レポートの作成方法がわかりづらい。

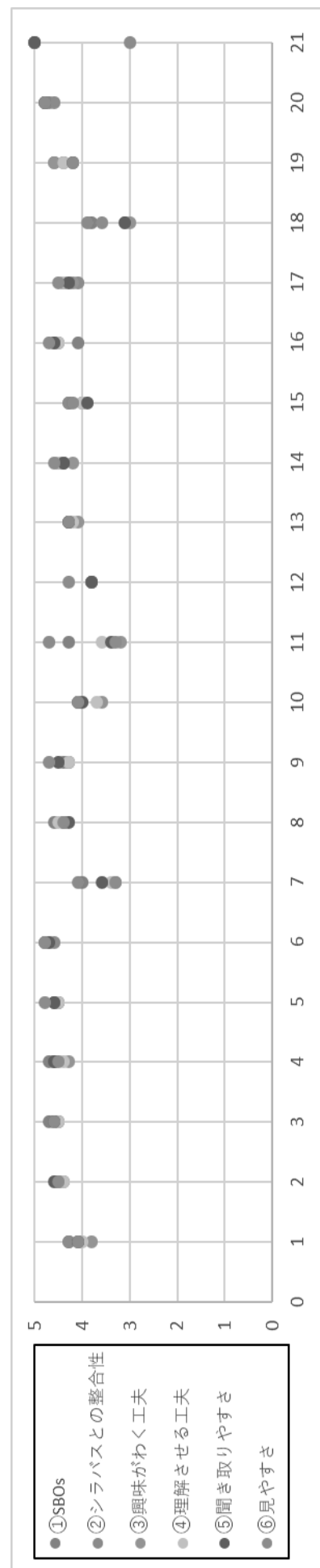
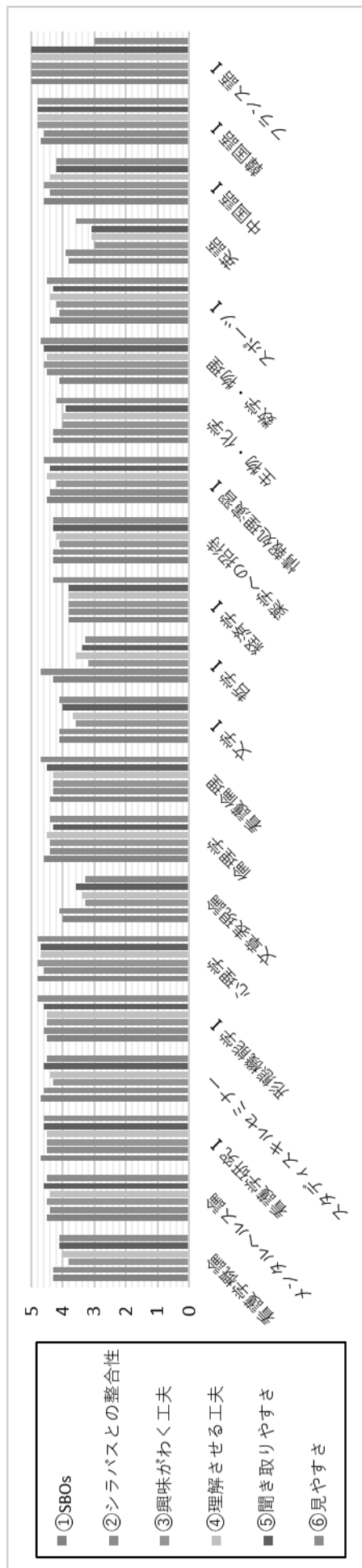
【総括】

- ・ 丁寧かつ簡潔な説明（動画）は、教科への興味と理解に結びつく
- ・ 小まめなテスト、演習問題の実施は理解度の確認に有用
- ・ 遠隔講義（動画の利用）の良い点（予習、復習に便利）、悪い点（理解出来ているのかどうか不明）が露呈した。

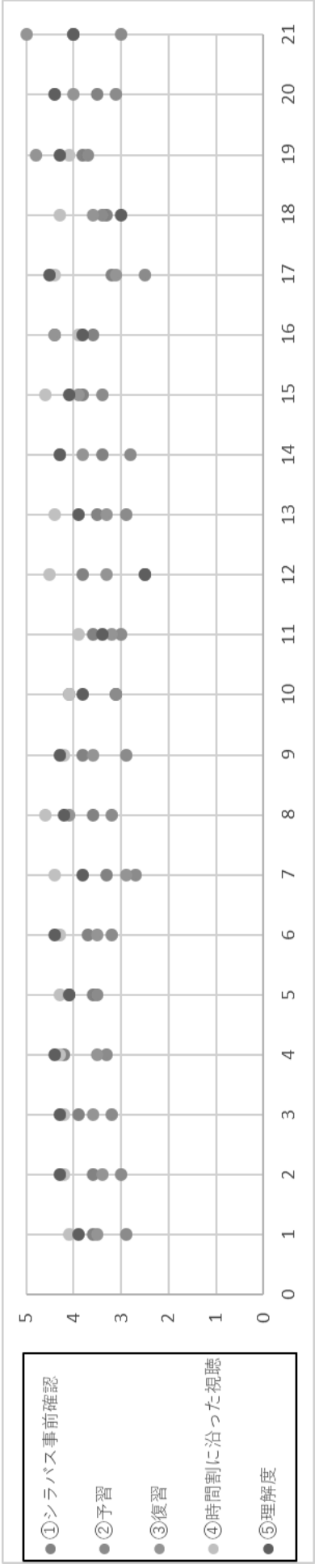
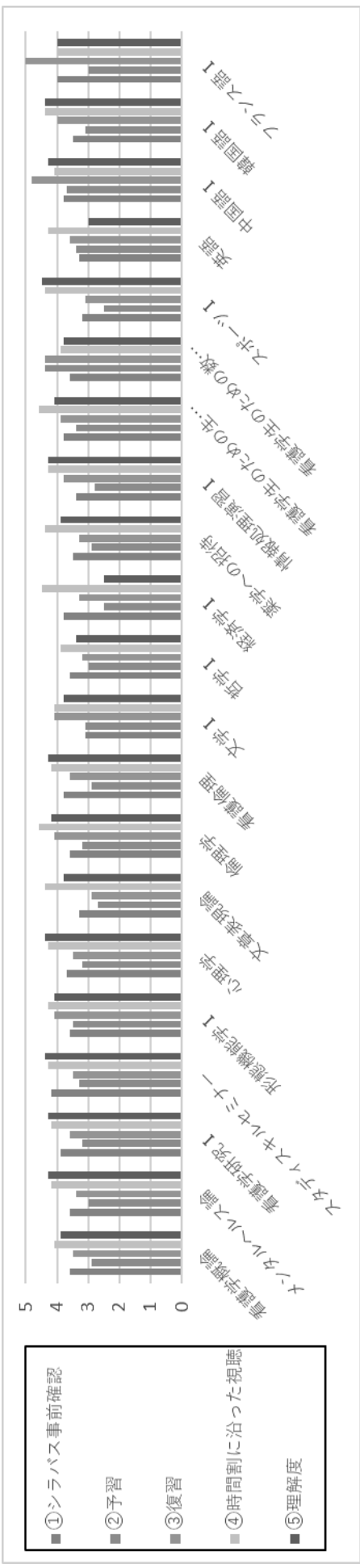
看護学部
学生授業評価アンケート報告

令和 2 年度

2020年度 看護学部1年 前期 授業評価(教員評価)														数値は平均値の小数点第2位を四捨五入								
科目名	看護学概論	メンタルヘルス論	看護学研究Ⅰ	スタディスキルセミナー	形態機能学Ⅰ	心理学	文章表現論	倫理学	看護倫理	文学Ⅰ	哲学Ⅰ	経済学Ⅰ	薬学への招待Ⅰ	情報処理解演習Ⅰ	看護学 生のための生物・化学	看護学 生のための数学・物理	スポーツⅠ	英語	中国語Ⅰ	韓国語Ⅰ	フランス語Ⅰ	平均値
クラス	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
①SBOs	4.3	4.5	4.7	4.7	4.5	4.8	4	4.6	4.4	4.1	4.3	3.8	4.3	4.5	4.3	4.1	4.4	3.8	4.6	4.7	5	4.4
②シラバスとの整合性	4.3	4.4	4.5	4.6	4.6	4.6	4.1	4.4	4.3	4.1	4.7	3.8	4.3	4.4	4.3	4.5	4.1	3.9	4.4	4.6	5	4.4
③興味がわく工夫	3.8	4.5	4.5	4.3	4.5	4.8	3.3	4.4	4.3	3.6	3.2	3.8	4.1	4.2	4	4.6	4.2	3	4.6	4.8	5	4.2
④理解させる工夫	4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.7	3.4	4.5	4.3	3.7	3.6	3.8	4.2	4.5	4	4.5	4.4	3.1	4.4	4.8	5	4.2
⑤聞き取りやすさ	4.1	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7	3.6	4.3	4.5	4	3.4	3.8	4.3	4.4	3.9	4.6	4.3	3.1	4.2	4.8	5	4.3
⑥見やすさ	4.1	4.5	4.6	4.5	4.8	4.8	3.3	4.4	4.7	4.1	3.3	4.3	4.3	4.6	4.2	4.7	4.5	3.6	4.2	4.8	3	4.3
平均値	4.1	4.5	4.6	4.5	4.6	4.7	3.6	4.4	4.4	3.9	3.8	3.9	4.2	4.4	4.1	4.5	4.3	3.4	4.4	4.8	4.7	



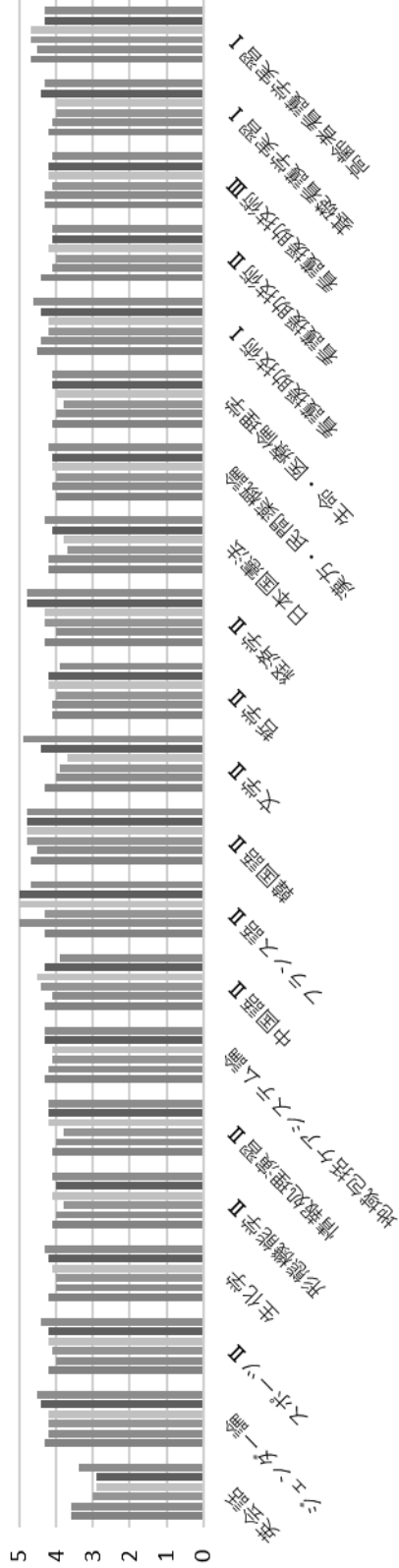
2020年度 看護学部1年 前期 授業評価(学生自己評価)															数値は平均値の小数点第2位を四捨五入							
	看護学概論	メンタルヘルス論	看護学研究Ⅰ	スタディスキルセミナー	形態機能学Ⅰ	心理学	文章表現論	倫理学	看護倫理	文学Ⅰ	哲学Ⅰ	経済学Ⅰ	薬学への招待	情報処理解演習Ⅰ	看護学生のための生物・化学	看護学生のための数学・物理	スポーツⅠ	英語	中国語Ⅰ	韓国語Ⅰ	フランス語Ⅰ	平均値
クラス	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
①シラバス事前確認	3.6	3.6	3.9	4.2	3.6	3.7	3.3	3.6	3.8	3.1	3.6	3.8	3.5	3.4	3.8	3.6	3.2	3.3	3.8	3.5	4	3.6
②予習	2.9	3	3.2	3.3	3.5	3.2	2.7	3.2	2.9	3.1	3	2.5	2.9	2.8	3.4	4.4	2.5	3.4	3.7	3.1	3	3.1
③復習	3.5	3.4	3.6	3.5	4.1	3.5	2.9	4.1	3.6	4.1	3.2	3.3	3.3	3.8	3.9	4.4	3.1	3.6	4.8	4	5	3.7
④時間割に沿った視聴	4.1	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3	4.4	4.6	4.2	4.1	3.9	4.5	4.4	4.3	4.6	3.9	4.4	4.3	4.1	4.4	4	4.2
⑤理解度	3.9	4.3	4.3	4.4	4.1	4.4	3.8	4.2	4.3	3.8	3.4	2.5	3.9	4.3	4.1	3.8	4.5	3	4.3	4.4	4	4
平均値	3.6	3.7	3.8	3.9	3.9	3.8	3.4	3.9	3.8	3.6	3.4	3.3	3.6	3.7	4	4	3.5	3.5	4.1	3.9	4	



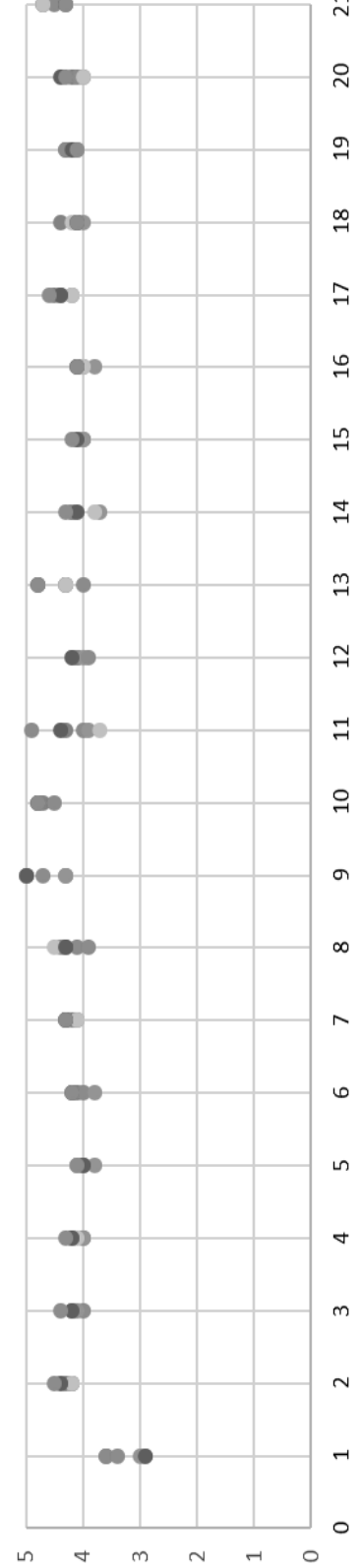
2020年度 看護学部1年 後期 授業評価(教員評価) 数値は平均値の小数点第2位を四捨五入

科目名	英会話	ジェンダー論	スポーツⅡ	生化学	形態機能学Ⅱ	情報処理解演習Ⅱ	地域包括ケアシステム論	中国語Ⅱ	フランス語Ⅱ	韓国語Ⅱ	文学Ⅱ	哲学Ⅱ	経済学Ⅱ	日本国憲法	漢方・民間薬概論	生命・医療倫理学	看護援助技術Ⅰ	看護援助技術Ⅱ	看護援助技術Ⅲ	基礎看護学実習Ⅰ	高齢者看護学実習Ⅰ	平均値
クラス	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
①SBOs	3.6	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3	4.7	4.3	4.1	4.3	4.2	4	4.1	4.5	4.4	4.3	4.2	4.7	4.2
②シラバスとの整合性	3.6	4.2	4	4	4	4	4.2	4.1	5	4.5	4	4.1	4	4.2	4.1	4	4.4	4.1	4.3	4.1	4.5	4.2
③興味がわく工夫	3	4.2	4.1	4	3.8	3.8	4.1	4.4	4.3	4.8	3.9	4	4.3	3.7	4	3.8	4.2	4	4.1	4	4.7	4.1
④理解させる工夫	2.9	4.2	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1	4.5	5	4.8	3.7	4.2	4.3	3.8	4.1	4	4.2	4.2	4	4	4.7	4.2
⑤聞き取りやすさ	2.9	4.4	4.2	4.2	4	4.2	4.3	4.3	5	4.8	4.4	4.2	4.8	4.1	4.1	4.1	4.4	4.1	4.2	4.4	4.3	4.3
⑥見やすさ	3.4	4.5	4.4	4.3	4.1	4.2	4.3	3.9	4.7	4.8	4.9	3.9	4.8	4.3	4.2	4.1	4.6	4.1	4.1	4.3	4.3	4.3
平均値	3.2	4.3	4.2	4.1	4	4.1	4.2	4.3	4.7	4.7	4.2	4.1	4.4	4.1	4.1	4	4.4	4.2	4.2	4.2	4.5	

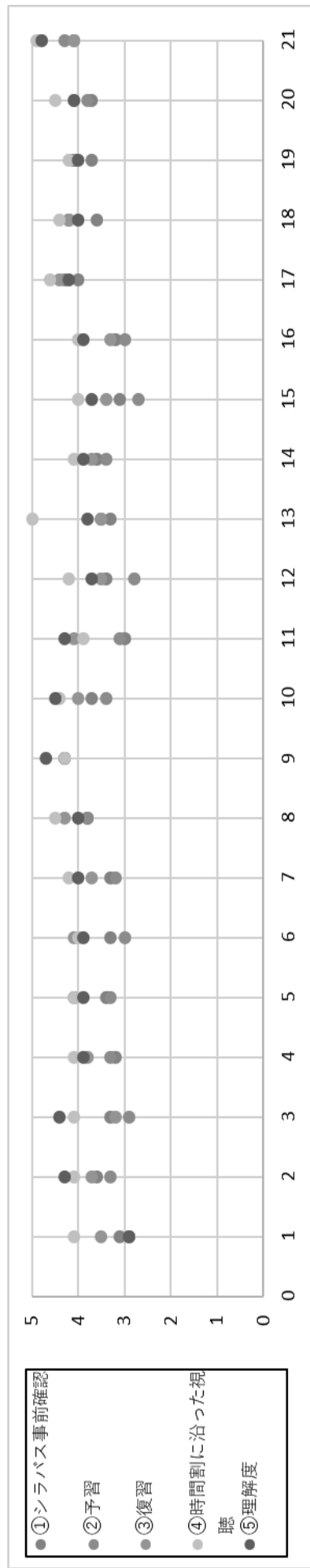
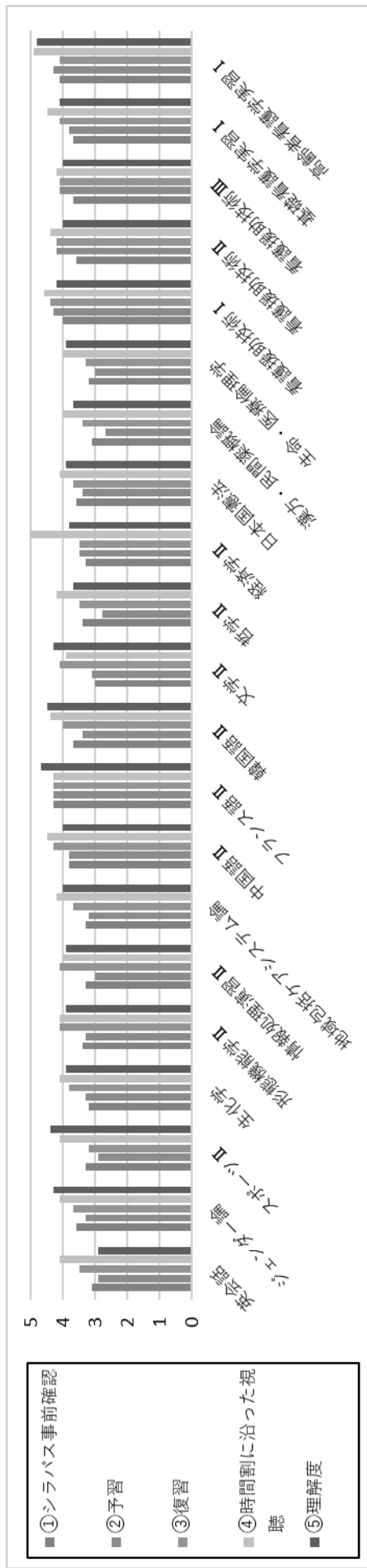
- ①SBOs
- ②シラバスとの整合性
- ③興味がわく工夫
- ④理解させる工夫
- ⑤聞き取りやすさ
- ⑥見やすさ



- ①SBOs
- ②シラバスとの整合性
- ③興味がわく工夫
- ④理解させる工夫
- ⑤聞き取りやすさ
- ⑥見やすさ



2020年度 看護学部1年 後期 授業評価(学生自己評価)													数値は平均値の小数点第2位を四捨五入									
	英会話	ジェンダー論	スポーツⅡ	生化学	形態機能学Ⅱ	情報処理演習Ⅱ	地域包括ケアシステム論	中国語Ⅱ	フランス語Ⅱ	韓国語Ⅱ	文学Ⅱ	哲学Ⅱ	経済学Ⅱ	日本国憲法	漢方・民間薬概論	生命・医療倫理学	看護援助技術Ⅰ	看護援助技術Ⅱ	看護援助技術Ⅲ	基礎看護学実習Ⅰ	高齢者看護学実習Ⅰ	平均値
クラス	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
①シラバス事前確認	3.1	3.6	3.3	3.2	3.4	3.3	3.3	3.8	4.3	3.7	3	3.4	3.3	3.6	3.1	3.2	4	3.6	3.7	3.7	4.1	3.5
②予習	2.9	3.3	2.9	3.3	3.3	3	3.2	3.8	4.3	3.4	3.1	2.8	3.5	3.4	2.7	3	4.3	4.2	4.1	3.8	4.3	3.5
③復習	3.5	3.7	3.2	3.8	4.1	4.1	3.7	4.3	4.3	4	4.1	3.5	3.5	3.7	3.4	3.3	4.4	4.2	4.1	4.1	4.1	3.9
④時間割に沿った視聴	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4	4.2	4.5	4.3	4.4	3.9	4.2	5	4.1	4	4	4.6	4.4	4.2	4.5	4.9	4.3
⑤理解度	2.9	4.3	4.4	3.9	3.9	3.9	4	4	4.7	4.5	4.3	3.7	3.8	3.9	3.7	3.9	4.2	4	4	4.1	4.8	4
平均値	3.3	3.8	3.6	3.7	3.8	3.7	3.7	4.1	4.4	4	3.7	3.5	3.8	3.7	3.4	3.5	4.3	4.1	4	4	4.4	



教員相互授業参観報告

令和 2 年度

令和2年度「教員相互授業参観」実施要領（薬学部）

FD 委員会

1. 目的

教員の講義力向上の一助とし、（対面型講義の場合は受講している学生の受講態度等を観察し、）教員が授業の現状理解を深めることを目的とする。

2. 要領

本年度は、下記の要領で教員相互形式の授業視聴（対面型講義が再開された場合は授業参観）を実施する。学生の授業評価の高い教員の教科科目や自身の専門領域や学部を超えた講義など、幅広く自由に選択できる。

○実施期間：以下の第1回目と第2回目の期間中に、年1回は視聴（参観）すること。

第1回目：6月25日～7月24日（前期、4月20日～6月24日の講義視聴も可）

第2回目：後期開始日～12月25日（後期）

○対象科目：1年生、2年生、3年生、4年生の講義授業科目

（実習科目や演習科目は除外）

参観対象科目（1～4年次の科目）から、参観したい科目を自由に選ぶこと。

○手順

手順1 Zoomを用いた講義または対面型講義の場合、視聴（参観）希望者は、前もってEメールなどで講義担当者の承諾を得ておく。

手順2 30分以上参観する。

手順3 視聴（参観）終了後、感想用紙に感想を記入し、電子ファイルをFD委員（安川；k-yasukawa@daiichi-cps.ac.jp）と参観した科目担当教員宛に添付メールで提出する。

○感想用紙：dysv10 → public_new → 委員会 → FD委員会 → 教員相互授業参観 → 令和2年度 → 「令和2年度授業参観感想用紙.docx」を使用すること。

提出は、第1回目は7月31日、第2回目は12月28日までとする。

3. 附記

- ・ 提出された感想用紙はFD委員会（委員長）が保管し、コピーを講義担当教員に渡すものとする。また翌年度の授業参観実施のための参考資料とする。
- ・ 第1回目と第2回目の感想提出教員のリスト等を、各回提出期限後に行われる教員連絡会議にて連絡することがある。

令和 2 年度「相互授業参観」感想用紙

参観日時	月 日 時限	参観者名	
学部・学年・期 講義名	学部・ 年・ 期	講義担当者	

(1) 感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。

(2) (対面式講義の場合) 参観者から見た学生の様子

令和２年度 教員相互授業参観感想の提出状況（薬学部）

	参観日	参観者	授業科目	授業形式	学部	学年	授業担当者
1	2020/4/8	跡部 秀之	形態機能学Ⅰ	オンライン	看	1	清水 典史
2	2020/4/24	入倉 充	薬物動態学Ⅱ	オンライン	薬	4	三嶋 基弘
3	2020/5/1	大渡 勝史	基礎物理学	オンライン	薬	1	藤井 清永
4	2020/5/1	藤井 清永	英会話Ⅰ	オンライン	薬	1	Epp, Denise
5	2020/5/8	池谷 幸信	漢方製剤・薬剤学	オンライン	薬	3	香川 正太
6	2020/5/26	井上 寛	基礎化学Ⅰ	オンライン	薬	1	門口 泰也
7	2020/6/1	Epp, Denise	基礎数学Ⅰ	オンライン	薬	1	井上 寛
8	2020/6/17	俵口 奈穂美	病態薬物治療学Ⅲ	オンライン	薬	3	山脇 洋輔
9	2020/6/19	長田 茂宏	環境衛生学Ⅱ	オンライン	薬	3	副田 二三夫
10	2020/6/22	小川 鶴洋	無機化学	オンライン	薬	2	古賀 和隆
11	2020/6/24	首藤 英樹	薬物動態学Ⅱ	オンライン	薬	4	三嶋 基弘
12	2020/6/25	安川 圭司	薬理学Ⅰ	オンライン	薬	2	小松 生明
13	2020/6/25	戸田 晶久	環境衛生学Ⅱ	オンライン	薬	3	副田 二三夫
14	2020/6/26	長島 史裕	有機化学Ⅴ	オンライン	薬	3	門口 泰也
15	2020/6/29	城戸 克己	薬用資源学	オンライン	薬	1	森永 紀
16	2020/6/29	副田 二三夫	食品衛生学Ⅰ	オンライン	薬	3	戸田 晶久
17	2020/6/29	松本 欣三	漢方治療論	オンライン	薬	4	城戸 克己
18	2020/6/30	久保山 友晴	薬用資源学	オンライン	薬	1	森永 紀
19	2020/6/30	中原 広道	物理化学Ⅲ	オンライン	薬	3	安川 圭司
20	2020/7/6	炬口 真理子	病態薬物治療学Ⅴ	オンライン	薬	4	小山 進
21	2020/7/7	仮屋 蘭 博子	がん化学療法学	オンライン	薬	3	炬口 真理子
22	2020/7/12	森永 紀	本草学	オンライン	薬	1	久保山 友晴
23	2020/7/13	高口 寛子	薬事関係法規・制度	オンライン	薬	4	大光 正男
24	2020/7/15	村山 恵子	病態薬物治療学Ⅲ	オンライン	薬	3	山脇 洋輔
25	2020/7/20	門口 泰也	基礎数学Ⅰ	オンライン	薬	1	井上 寛
26	2020/9/14	柴山 周乃	漢方民間薬概論	オンライン	薬	1	久保山 友晴
27	2020/9/26	原口 浩一	分析化学Ⅱ	オンライン	薬	2	横山 さゆり
28	2020/9/28	松原 大	公衆衛生学	オンライン	薬	3	小武家 優子
29	2020/9/29	有馬 英俊	薬物動態学Ⅰ	オンライン	薬	3	今井 輝子
30	2020/10/2	山脇 洋輔	放射化学	オンライン	薬	2	安川 圭司
31	2020/10/3	裏出 良博	生命科学Ⅱ	オンライン	薬	2	廣村 信
32	2020/10/12	小川 和加野	薬物動態学Ⅰ	オンライン	薬	3	今井 輝子
33	2020/10/12	三嶋 基弘	薬物動態学Ⅰ	オンライン	薬	3	今井 輝子
34	2020/10/14	炬口 真理子	生命科学Ⅳ	オンライン	薬	3	長田 茂宏
35	2020/10/22	増田 寿伸	有機化学Ⅱ	オンライン	薬	1	白谷 智宣
36	2020/10/27	大光 正男	医療概論	対面で聴講、学生はオンライン	薬	1	篠木 潔
37	2020/10/29	城戸 克己	生薬学	オンライン	薬	2	森永 紀
38	2020/11/10	横山 さゆり	分析化学Ⅳ	オンライン	薬	3	長島 史裕
39	2020/11/11	今井 輝子	生命科学Ⅳ	オンライン	薬	3	長田 茂宏
40	2020/11/16	香月 正明	病態薬物治療学Ⅰ	オンライン	薬	2	小山 進
41	2020/11/18	廣村 信	生命科学Ⅳ	オンライン	薬	3	長田 茂宏
42	2020/11/19	小武家 優子	感染症治療学	オンライン	薬	3	小川 和加野
43	2020/11/24	田島 健治	分析化学Ⅳ	オンライン	薬	3	長島 史裕
44	2020/11/24	香川 正太	分析化学Ⅳ	オンライン	薬	3	長島 史裕
45	2020/11/26	白谷 智宣	理論化学	対面	薬	1	中原 広道
46	2020/12/1	古賀 多津子	医療概論	オンライン	薬	1	薬害被害者団体 手嶋和美
47	2020/12/9	椿 友梨	薬理学Ⅱ	対面	薬	2	小松 生明
48	2020/12/14	古賀 和隆	生薬学	オンライン	薬	2	森永 紀
49	2020/12/17	岡崎 裕之	薬理学Ⅳ	対面	薬	3	有竹 浩介
50	2020/12/18	小山 進	介護学概論	オンライン	薬	2	安德 弥生
51	2020/12/18	清水 典史	環境衛生学Ⅰ	オンライン	薬	2	副田 二三夫
52	2020/12/20	古賀 貴之	環境衛生学Ⅰ	オンライン	薬	2	副田 二三夫
53	2020/12/25	戸田 晶久	医薬品化学Ⅰ	オンライン	薬	3	長 普子
54	2020/12/25	濱村 賢吾	病態薬物治療学Ⅳ	オンライン	薬	3	山脇 洋輔
55	2021/1/7	高村 雄策	薬理学Ⅱ	オンライン	薬	2	小松 生明
56	2021/1/14	鎌内 朋子	薬理学Ⅳ	Zoomオンライン	薬	3	有竹 浩介

(1) 感想(良かった点・参考になったこと等)のご記入をお願いします。「1年」

○私が担当している「やりなおし生物・化学」と並行して行われる科目で、担当講座の発展的内容なので、担当講義ではどの程度説明しておくべきかを知るためにも視聴させていただきました(大学の授業を聞く機会はなかなかなかったので、結果的には全部視聴させていただきました。)学生が高校で学んだ内容と今回新たに学ぶことになる内容とを比較・確認しつつ視聴いたしました。

一部、高校教科書と表記や表現が異なっているところがありましたが、何より内容が細かく深くなるので、高校の内容を十分復習させておく必要があると痛感しました。

講義の進め方については、学生へ伝えるべき内容が明確で、スムーズで無駄のない説明がなされていて大変素晴らしいと感心しました。液晶モニターに講義スライドを表示されて説明されていましたが、画面の反射もなく、図や活字が鮮明で大変見やすいものでした。また、用いられている図は教科書のものが中心ですが、要所では自ら作成されたであろう図や他からの図・動画も用いられていて、飽きさせず興味を抱くよう工夫されていて参考にしたいと思いました。

最後に、毎回の課題については、学生に対して過度な負担にならず親しみをもって学習が継続されるよう工夫されていると思いました。また、国試合格に向けて過去問題を提示して積極性を喚起させておられる点も参考になりました。

大変勉強になりました。ありがとうございました。

○コロナ禍により登校もできず同級生や教員との面識もないまま大学生となって最初の講義を一人で受講する困難さがある中で、多くの学生が難解と感じる基礎物理学の導入は、教員側としても非常にやりにくいものだろうと想像される。

パワーポイントへの録画で配信されている先生の講義では、スライドに多くの情報が詰まらないよう工夫して配置されていることが伝わり、教科書から取り込んだ図も大きく配置され大変視認性がよいものだった。

また、読み方は非常に丁寧で余裕があり、聞き取りやすく威圧感も無く、脳内で整理し、教科書の確認やメモの書き込みをする時間も十分に確保されていると感じられた。私は説明が早口になってしまう傾向があるため、先生のペースを参考に進めるよう気を付けたい。

○ 英会話の授業において、今回のコロナウイルスの影響により学生との相互のコミュニケーションがない一方的な動画配信による手法は、たいへん困難なものになるのではないかと予想されました。しかし、先生の動画配信による授業は、あたかも学生が目の前にいるかのような仮想的な学生との相互コミュニケーションを上手に構築されており、特に先生のカメラに向けたやさしい視線は、受講した学生を講義に引きつけ、学生は最後まで集中して受講できたのであろう、対面授業と同じ感覚の講義でした。また、

視聴側を意識したその語りはとても丁寧で、学生が反復や回答できる適切な間もあり、動画配信による授業をするうえで、先生の技法はたいへん勉強になりました。

専門科目の講義は、動画配信の授業でなくとも、一方的な知識の教授になりがちです。動画配信においてはなおのことと思い、先生の講義を参考にしたく拝聴しました。先生の講義は今後の授業改善に対する講義手法の参考になり、是非、担当する講義に役立てていきたいと思います。

○本講義は、黒板を用いた板書スタイルの遠隔講義でした。文字の大きさ・声の大きさなど聞きやすく、化学を専門としていない私にもわかりやすく伝わってきました。（私が理解しているのかは別です）特に、化学式（構造式）の説明は、大きな図を用い説明しており、遠隔講義という特殊な状況下で学生に見やすいようにという配慮が見て取れました。今後、対面式・遠隔式のどちらのスタイルで講義をしていくかどうかわかりませんが、状況に応じた学生への配慮は、講義を行う者として非常に重要なことだと思いますので、今後参考にしていきたいと思います。

○From the moment the camera went on, Dr. Inoue's presence is felt. With attention drawn in from the start, he reviews what was covered in the last class (三角数のグラフ $y = \sin x$), and states what will be covered in this class (3 graphs) and their connection. The class was easy to follow (even for me) and quite captivating! Dr. Inoue maintains eye contact with the camera as if speaking to the students directly. He makes excellent use of the blackboard with large writing, colored chalk, and stands to the side so everything can be seen. He refers to the textbook and also explains how it is applied to physics. He also clearly points out the correct responses and writing for test questions, and gives specific warnings about possible mistakes. Excellent class, Dr. Inoue!

○1年生では、構造式を理解することが難しいが、解説する情報を少なくすることで負担を少なくしていること。具体的に例を示し、視覚的に理解できるように工夫されている。

○（私にとっては）難解な生合成に関する授業をかなり分かりやすく講義をされていたと思います。国家試験で頻出する生合成経路ですが、その要点に関して、ゆっくりと何回も繰り返して講義されていたので、学生もよく頭に入ったのではないかと思います。関連する項目を全て話すのではなく、要点を絞って授業をする、というのは大変参考になりました。どうもありがとうございました。

○一年生の前期に、彼らにとっては科目名と授業内容を連想させることが難しい「本草学」について、久保山先生の本草学への学生の誘導が大変上手な授業構成・内容であると感じました。授業の最後に、その日の講義内容の復習問題を取り入れている点は、今後の参考にしたいと思いました。解説を次回の講義の際に行うので、学生も1週間勉強する時間があり、復習も兼ねており大変参考になりました。

○この日は偏微分に関する講義であり、懐かしくて学生の頃を思い出してしまいました。また、本来の趣旨とは異なるかもしれませんが、講義の方法よりも内容の方に集中してしまい、偏微分について少し勉強させていただきました。このように井上先生が聴衆を授業に引き付ける魅力は何かと、僭越ながら私なりに分析しました。

字は大きく、項目ごとに見事に分けられて板書されており、非常に見やすい印象を受けました。またクリアな発声で語りかけてくれます。これらは講義するうえで必須の注意項目かと思いますが、振り返ってみるとなかなかできていないものです。加えて、例えが絶妙でエネルギー。理解させようとする熱い気持ちがヒシヒシと伝わってきます。これが、井上先生の授業が学生から高評価を得ている理由だと思いました。イメージしにくい2変数関数については、まず「ラクダの背中」で解説。次に、化学系科目に関連する「気体の状態方程式」。最後に数式の例として、「 $f(x,y) = x^2 + y^2$ 」を挙げられていました。これらを、身振りを加えて熱く説明されていました。

私には、井上先生のような若さはないですが、身振りを加えるなどして、もう少し熱い気持ちが伝わるような授業を心掛けなければと思いました。

○スピード、声の大きさ共に非常に聴き取りやすい講義でした。オンライン講義は学生の顔が見えませんので反応もわからず私たち教員は苦勞するところですが、先生ご自身の経験やエピソードなども取り込まれ学生はより漢方医学に興味を持てると感じました。また、スライドがとても見やすく写真を随所に効果的に使用していらっしゃった点が参考になりました。鉄は熱いうちに打てといいますが、薬学部ご出身の先生が1年生の学生に「試験の時にはぎりぎりまで記憶をたどりねばること」の大切さを説いたのもとてもいいアドバイスだったと思います。日本の漢方医学事情を詳しく学ぶ機会がありませんでしたので、食薬区分、ドーピングなど自分自身とてもいい勉強になりました。今まで日本漢方医学の本をたくさん読んできましたが、講義を聴講した方が何倍も勉強になることを実感いたしました。ありがとうございました。

○令和2年度はオンライン講義のため、その提示方法が学生理解度の重要なカギになったものと思われる。その点、白谷先生の「有機化学Ⅱ（第6回求核置換反応）」では音声解説入りのスライド表示に加え、板書しながらの実写による動画が巧みに合体した講義が採用されていた。音声解説入りのスライドには用いるテキストのページ数とそこに

記載されている構造式、反応式など、重要な図が提示されていた。そのスライド説明が終了すると、場面が実写版に変わり、ここで再び同じ内容が板書する形で説明されていた。視聴する学生にとっては、スライド説明時の音声と異なり、先生の身振り手振りや抑揚のある声での説明で前のスライド内容がさらに実感できたのではないかと容易に想像できる。配信されたほとんどすべての動画が、このような2本立てで構成されており、有機化学を学ぶ1年生にとっては初めての専門用語、構造式などを理解する上で、相乗的な効果を生み出していると感じた。

また、動画の最初では、今回の流動的なオンライン講義配信のスケジュール変更、それに伴う評価法の変更、出席管理法が説明され、受講学生への注意喚起がなされていた。このため、学生は決められた受講日程を再確認し、視聴に臨もうとする姿勢を取り戻せたのではないだろうか。

○Zoomによるオンライン配信での講義形式であった。

弁護士の篠木先生より、今後薬剤師となった時に法的責任などこれから薬学を学ぶ1年生に対して、資料を活用して、画面共有しながら説明していただいた。薬局・薬剤師のための医療安全にかかる法的知識の基礎を基に丁寧に説明しており、まだ理解が難しい学生にわかりやすく説明されてあった。

薬学部では薬の知識をきちんと勉強していかないと将来訴訟などに繋がっていくことを学ばせていただき、学生の学習へのモチベーションアップに繋がっていると感じた。講義の進め方や進め方など参考にして、今後の自分の講義に活かしていきたい。

○PPTを使用し講義がされていたが、文字の大きさも適切で、また図も非常に見やすくわかりやすいスライド構成になっていた。また、スライド上で説明しながら書きこんでいくので、学生も今どこを説明しているかがはっきりするし、また、重要な部分を常に同時に追っていけるような工夫がされていて非常に参考になりました。

講義は、中間テストのフィードバックから始まり、前回の復習、講義、最後に確認テストで終わる構成になっていて、インプット、アウトプットを効率よく回した構成になっていて、学生の理解度を深めていく工夫がなされているところは大変勉強になりました。私は、フィードバックの部分がまだまだ足りないことを認識させられました。

講義内容は国家試験も意識して国家試験問題を演習として取り入れられており、1年生であったとしても早いうちから国試問題に触れさせていったほうが、学生の学習意識向上のためにも必要であると思われ、この点も見習っていきたいと思います。ありがとうございました。

○今回の授業は、講師の手島先生に大学にお越し頂き Zoom ウェビナーで行った。医療概論の授業の中でも毎年重要なテーマである。このテーマを学生がどのように受け止め

てくれたのか、課題のレポート（授業の概要と感想を 600～1000 文字でまとめる）で知ることが出来た。

フィブリノゲン製剤等による C 型肝炎ウイルス感染に、全ての学生が大きな衝撃を受けていた。危険性が分かっているながら政府がそれを黙認し、医療現場で使用され続けたこと。もっと早く使用を禁止していれば、ここまで被害が拡大することがなかったのは明らかだ。国はそのことをしっかりと反省し、二度と同じことが繰り返されないよう務めなければならないと思う。また、講義中に視聴した DVD 中での「私の生活と健康を返してください。私を元気だったあの頃に戻してください。」という被害女性の言葉が大変心に残っている。特に、将来薬剤師となって薬を取り扱う私たちは、彼女のような薬による被害者が多くいることを決して忘れず、政府と同様に、同じような薬害被害の再発防止に務める責任があると思う。そして、薬害被害の実態を未来に伝えていく必要があると思う。と多くの学生の声が届いた。私もこの授業を聞くとある日突然現場から非加熱製剤が回収されたが何の説明もなかったことを思い出す。将来医療人となる学生には必ず受講していただきたい講義であると思う。

（２）参観者から見た学生の様子（対面講義のみ）「１年」

○Zoom のため、学生の様子はわかりませんでしたが、質問がいくつもあり、弁護士の先生の講義が聴講できて勉強になりましたという感想も数名から得られた。

○対面講義を受講していた 1 年生は非常に講義に集中して聞いていて、逐次ノート等に記入をしながら受講していた。やはり講義は対面で実施したほうが教員も学生にとっても良いと思います。

（１）感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。「２年」

○過酸化合物に特化した講義を視聴したが、重要かつしっかりと覚えるべき点は繰り返し述べており、スライド上の文書にも重要なところに途中でマークを入れるなどを実施している。また、今後関連する講義などを示して講義間の関連性について述べている点も非常に良いものだと感じた。

○板書を用いたオンライン講義であり、競合的拮抗と非競合的拮抗に関する内容でした。用量作用曲線や受容体と薬物の結合を丁寧に図解しながら、ゆっくりとした口調で明かに説明されていました。 pA_2 値や pD_2 値という用語は初見でしたが、先生の説明は簡潔で分かりやすく、理解できました。数学や物理化学的には常用対数の真数に何らかの具体的な数字を入れて説明すると思われるのですが、文章 ($10^{-6} M$ よりも小さい、など) を入れて説明されたことに、目からウロコであったのと同時に、学生の数学力から考えて、確かにその方が理解しやすいように感じました。

また、国試過去問を題材とした演習問題の解説にしっかり時間を割いており、他の演習問題についても自主学習を勧めておられました。動画を視聴している学生にインプットとアウトプットの両方を実行させることで、理解を深め知識を定着させるよう工夫された講義であるように感じました。今後の講義の参考にさせていただきたいと思います。

○後期はオンライン授業（遠隔授業）を分析化学Ⅰ→分析化学Ⅱの流れで分析化学Ⅱの動画閲覧を行った。分析Ⅰが少し難易度が高い（溶解平衡の国試問題を加えたため）が、分析Ⅱについては適度にわかりやすくポイントをついて演習がなされており、理解度チェックや質問事項の紹介がなされていた。黒板も利用されていた。動画は繰り返し視聴できるのがメリットである。

学習内容は、分析Ⅰでは、前半が pH 計算、後半が滴定となっている。滴定について分析Ⅰは①中和滴定②非水滴定③キレート滴定で終了した。分析Ⅱで沈殿滴定、酸化還元滴定、溶解度、分配平衡を習得し、残りは定性試験と吸光度計算であった。実習との兼ね合いで、吸光度や分配抽出を先に講義されている。次年度は対面であっても動画の配信は継続してほしい。

○高校時代に物理を未選択であるが、高校化学での学習を踏まえながら講義を進めていくため、興味を持ちやすかった。過去の学習内容を思い出すため、私自身の勉強にもなった。きちんと順を追った説明をしているため、わかりやすかった。スライド1枚当たりの情報量が多すぎず、適切であるため視覚的な情報入力がビジーにならず声を聞くことに集中できる。また、記号の定義がスライド明示してあるため親切であると感じた。

○明るい声で聞き取りやすい講義であった。

重要な箇所に赤い下線を引くことで学生の注意を惹く方法が効果的であった。

○第5回目の授業を視聴させていただきました。音声、画像も見やすく作成されていました。教科書を中心に重要ポイントが分かりやすく説明され分かりやすかったです。

○オンライン配信でパワーポイントに音声入力をされている講義が多いなか、全身と講義スライドが撮影されており、学生は安心できると思います。また、講義の最初に前回の講義の簡単な復習と今回の講義の概要を説明されていたので、学生は学習しやすいと思います。

○聞き取りやすい声の大きさとスピード（早すぎず、丁寧）で、集中力が続きやすい話し方だった。文章で説明した後に、それについて図を用いて説明されており、理解しやすく頭に残りやすい説明だと思った。

○ナス科・リンドウ科の生薬に関する内容の講義であり、植物や生薬として使用される部位などの写真を多用することで、学生達に生薬を単に文字として学ばせるのではなく、画像としても学べるように工夫されている。この工夫により、学生達も興味を持って講義に臨めるようになっていないかと感じられる。内容としても身近にある市販薬などを取り入れたものとなっており、すっきりとまとめられて、学生達が把握しやすくなっている。動画中の重要な箇所（文章など）に配色が工夫された線や丸などが適切に記載され、それに加えて手書きの書き込みなどが散見され、デジタルで入力された文字などには見られない暖かみ（やさしさ？）が感じられ、音声も聞きやすい様に配慮されているので、視聴しやすい動画となっているのではないかと思われる。

○講義最終回（第10回）のビデオを観させていただきました。「安楽死」をテーマにしたNHKスペシャル番組の録画を教材として使用していましたが、途中で中断出来ずに最後まで視聴しました。介護学で避けて通れない終末期をどのように迎えるかに関して、患者本人と家族の視点から詳細に構成された番組を的確に選択されたと思います。視聴した自分自身ですら衝撃を受けたので、学生は尚更であったと推測します。授業では、あえて解説等を省いて、各自がこの問題に直面できるように工夫している所も流石だと思いました。私自身は映像媒体を講義に使用した経験はありませんが、定型的な講義に拘泥することなく、発想をより自由にして授業を組み立てる工夫をしても良いのだと鼓舞される思いでした。

○スライドは見やすく、重要なポイントは赤字・太字で示されていた。音声は非常に明瞭で、テンポもゆっくりで聞き取りやすかった。映像資料（当時の環境問題に関するニュース）を使用しており、学生は昔の環境問題の深刻さが実感できたと思われる。

○教科書の図や表をパワーポイントに取りこんで、青や赤のマーカーを事前に引いてあったことが良かったです。見てすぐにその表のどこが重要かがわかったので、学生も同様に重要箇所がわかりやすかったのではないかと思います。

また、方法はわからないのですが、随時手書きのコメントを書き込んでいたのも良かったと思います。学生も真似して書き込むと思うので、対面形式と同様な教科書への書き込みが達成できると思うので、今後私も採用したいと思います。

マニフェスト制度の説明では、教科書では簡略図しか載せてないところを、実物を提示することでより理解が進みました。

○自分の受け持った講義では、資料の見やすさと、講義時間内にシラバス内容を盛り込むためにパワーポイント（PP）に録音したものを動画化したものを中心に進めた。小松先生の講義は板書と口頭での説明が中心の録画であり、PP動画のものとは対照的ともいえる。田畠先生が示されたアンケートでは、板書を中心とした形式が最も学生から理解しやすいとの結果となっている。小松先生の講義では、板書と小松先生の口頭での説明により形成される情報のリズムと強弱が作られており、学生の理解力のキャパシティと集中力の維持に役立ったものと感じられた。実際自分の講義動画を作っている、膨大な情報量が淡々と垂れ流されているのを一度に吸収するのは難しいだろうと考えていたので、この点は小松先生の講義を参考にして改善したいと考えている。今回の相互授業参観で、図らずもあらためて強い注視を誘発するヒトの顔認識機構が脳の情報処理に及ぼす影響が証明されたかたちとなり、そういった点でも大変参考になった。

（２）参観者から見た学生の様子「２年」

○・厚生会館での講義だったので、後ろの方はたまに聞き取りづらいこともあったが（外の車の音がうるさかったのもある）基本的に学生はしっかり集中して取り組んでいた。授業後に質問に行く学生もいて、意欲的だった。

（１）感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。「３年」

○良かった点

- ・講義資料の字が大きくシンプルなので、学生がどれが重要な語句が即座に理解できるように工夫されています。
- ・講義資料中の重要な語句を色づけし、学生が重要箇所がどこかなのかを理解し易いよう工夫されています。
- ・講義の最後に、その日の講義の重要なことについて3問の小テストを行った後、学生が重要事項を忘れないうちに解説し、学生の記憶に残るよう工夫されています。

参考になった点

- ・講義全体を通して、重要な事項を必ず反復して説明されていることが私には大変参考になりました。
- ・「ここが重要である」と、言葉で重要箇所を学生に話されていることも学生への理解度を向上させる方法であると参考になりました。

○授業導入での話、BGM、画像処理が、学生を授業に引き込むのに有用だったと思います。国試対策についても丁寧に説明し、勉強へのモチベーションを高めていました。話のスピードも適切で、聞きやすいと感じました。講義の資料も薬ゼミの青本、臨床の写真、患者向けの説明ガイドなどを有用に活用して、臨床と薬学的知識の統合を図っておられました。最後に定期試験の対策をまとめて、復習を促していると思いました。私自身、最初から最後まで熱心に講義を拝見させていただきました。山脇先生のスキルを学びたいと思います。

○非常に聞き取りやすい音声/スピードで学生が聴く気分になると感じました。

課題の提出の説明が最初になされていましたが、方法、期限等が明確にされていました。この回の授業の到達目標が最初に明示されており、わかりやすいと感じました。教科書を利用するときはページ数が明記されており、学生が迷いにくいと感じました。一部空欄を設け、その場で書き込むことで、重要な語句の定着が行われていました。教科書の重要な点を音読されていました。読むように指示をしても読まない（読めない）学生がいることを考慮すると、非常に効果がある方法と感じました。

環境省、経産省などの行政関係の資料などが参考資料として提示されていましたが、難しくなく、理解しやすい資料が選ばれていると感じました。講義内容について、身近な医薬品（ロキソニン）を用いた説明により理解の定着が行われていました。

最後の確認試験は知識の定着/復習に役立つと感じました。さらに国試の問題を取り入れて、学生にどのように将来の試験に使われるかを例示し、説明されていました。

最後にさらに「ポイント」として一日の復習がなされており、繰り返し大事な点が説明されていました。

○先ず、授業の内容に入る前に到達目標を説明し、授業開始後では、始めに当日の講義内容に対する導入が容易になるような話をされていた。また、本配信動画においての授業は、単にパワーポイントに音声を入れて進めるだけではなく、先にダウンロードされていると思われるプリントの問題やその他の確認問題について、画面で示す単純な正解と詳細な計算の手順等の解説を加え、適宜、モニター画面に直面している学生に語りかけながら実施されており感心させられた。更に、動画における音声の音量、話し方、進行速度など全てが適切でありとても参考になりました。特に話し方は、テンポが良く、学生には分かり易く工夫された配信動画であったと思いました。個人的に、特に参考になったのが、この話し方です。学生に対する厳しさと優しさが同時に伝わる話し方であったと思います。この点に関しては、以前からなのですが、自分自身には無い物を感じました。加えて、配信授業の最後に学生からの質問事項について自身のメールアドレスを提示して学生の質問を促しており、更なる学生のモチベーションを高めるのにとても良い手法であると、とても参考になりました。今後は、自分の配信動画授業にも努力して取り入れていきたいと思っています。

○板書を使った講義であることから、黒板全体が見えるようにカメラ設定がされており、学生が視聴するうえでも配慮がされているので良かったと思います。板書の文字も解りやすく大きく書かれており、テキストのページ数を示しながら解説をされ、大事な部分はアンダーラインをひくように指示され、学生も見やすくなっていると思います。また、学生が飽きないように講義を3分割に分けられて録画されているのも良かったと思います。対面講義と違って学生の様子が確認できないので、講義の進め方に苦労されている様子がわかりました。

○まず、スライドの文字が大きく、見やすい点が挙げられます。声も明瞭かつゆっくりで、とても聞き取りやすく、非常に参考になりました。難しい用語に関しては、できるだけわかりやすく、かみ砕いて丁寧に学生に解説されており、時折教科書の図も用いて詳細に講義している点も参考になりました。食品中に含まれている無機質について、身近な話題も取り上げ、学生にわかりやすく説明されている点や重要事項を繰り返し説明されている点も参考になりました。

○講義の冒頭に10～15分かけて、前回の復習をされていたのが良かったと思います。今回は電池や膜電位の講義でしたが、かなり詳細に講義されていたようでした。動画講義形式で進められているので、学生にとっては復習として何度も視聴しなおせるので、対面式の講義よりも学生の理解度は高まるような気がした。また講義に関する課題レポートの提出を課しており、講義の理解度を確かめられてよいと思いました。COVID19の蔓延で、学生の学力低下が危惧されていますが、考えようによっては動画形式の講義

も悪くはないのではと思いました。

○第13回の「悪性腫瘍各論（6）造血器腫瘍・2」を視聴させていただきました。聞きやすいお声で明快であったことをはじめ、良かった点は数多くありましたが、主なものは、

- ✓ 図や表を多用した講義資料に教科書の当該ページ番号が記入されていたこと
- ✓ スライドの「左側の」とか、「水色で示した」など、注目すべき箇所を指示されていたこと
- ✓ 講義内容に関連する国家試験出題傾向やご自身の研究内容にも時折触れられたこと
- ✓ 授業の最後に「がん確認問題」を出題され、解答に当たっての取り組み方を述べられたこと
- ✓ 遠隔授業であることを意識されてか、比較的ゆっくりした口調ながら、滑舌よく語られたこと

などです。ありがとうございました。

○良かった点

- ・スライドや画像が美しく、非常に見やすい動画でした。
- ・声も聞き取りやすく、学生に話しかけるように説明されるので、たぶん、聞いている学生も親近感をもって動画を視聴できるのではないかと感じました。
- ・教科書のどこに書かれているか、明確に示されており、学習しやすいと思いました。
- ・重要なポイントを説明とスライドで明確にされているため、学生にとって何が重要なのかわかりやすいと思いました。
- ・授業の内容も非常に興味深いものですし、動画を視聴している学生を想定して、より興味を持ち、理解させるための創意工夫が素晴らしいと思いました。

特に参考になったこと

- ・学生が理解しにくいであろう所を想定して、繰り返し注意を喚起し、「分かる講義」を組み立てられていることが印象的でした。そのように、自分の講義も精査できればと思いました。ありがとうございました。

○講義形式は、**Stream** による動画配信であった。

第1回目ということもあり、イントロダクションが、とても丁寧に行われていた。講義内容とSBO、テキストとの連関をわかりやすく丁寧に示していた。試験対策も前年度の例を示しており、学生にとっては、最初に確認でき良いことだと思われた。また、講義のみならず、薬剤師になるための大学生としてのありかた、取り組み方など人としてなすべきことを丁寧に学生に示しており、全体を俯瞰したところからの案内であった。

講義については、スライドを利用して丁寧にわかりやすく行われていた。テキストを中心に重要箇所を示しながらの講義形式であった。国家試験問題も次回以降解説する案内もしており、講義のみならず演習も行うことは、学生としては、アウトプットに具体性が見えてくるので良いことであると思われた。

○Microsoft Stream の動画を視聴しました。図を多く取り入れ、ゆっくりと分かりやすく説明が行われていた。また確認テストも Forms で作成されていて授業の理解が確かめられている工夫がなされていた。とても参考になる良い授業であった。

○自分と同じパワーポイントに録音するタイプの講義でした。

決して派手な動画ではありませんが、図、説明口調ともわかりやすかったです。すでに講義が終わった後なので、フォームなどの問題は見られませんでした。各回終了後に復習用の小テストを設けていました。

今年は配信講義なので色々な講義を見ていますが、見た中で最も良い講義だと思いました。

○1. パワーポイントの文字や図表が見やすかった。

2. 話す速度は、聞き取りやすく、理解するのに最適な速度だと感じた。

3. 図表や文章等をポインターで指し示しながら、説明を加えていた。

4. 教科書のページ数を言うことで、今、どこを説明しているかわかるように話していた。

5. 演習問題の説明も丁寧であった。

6. 最後に、理解度を確かめるために、確認テストを導入していたのは、すごく良かった。

7. いかに学生に理解させるかを考えて動画を作成していた。

○生命科学Ⅳ 第3回を視聴しました。

- 講義の冒頭では、前回の課題に対する解答が、学生の解答をフィードバックしながら丁寧に示されていた。
- 話すスピードは、スライドの文字を目で追うのに丁度よく、理解しやすい話し方であった。
- 生命科学Ⅲで学んだ内容を復習しながら新しい内容を説明されており、理解しやすいと感じた。
- 重要なポイントを何度も強調しながら話されており、メリハリが利いてとても分かりやすかった。
- 最新のトピックスを講義内容に関連した形でわかり易く紹介、説明されていた。

- 知識定着のため、復習問題を出題されていた。

今後、自身が講義を実施していくうえで大いに参考になりました。

○申し訳ありませんが、箇条書きで記入させていただきます。ご無礼をお許してください。

- 講義進行のテンポが良い（歯切れが良い）。
- 全体的にスライドが見やすい（ごちゃごちゃしていない）。
- 機器の写真や模式図をスライド内に多く取り入れてあるため、イメージがつかみやすい。
- 必要な部分とそうでない部分を学生に伝えている。
- スライドに先生が書き入れることで、学生もただ視聴しているだけでなく、記憶につながる「書く」動作を取り入れる工夫がされている（同時に、学生に書き入れる時間を取っている）。

など、今後の参考になりました。ありがとうございました。

○1. 授業に対する学生からの質問を取り上げて、丁寧にコメントされているのが、学生の理解を深めるために非常に良いと感じた。

2. 前回の講義の復習をなさっていること、授業を始めるまえに、課題を与えることで、学生の集中力を増させておられるのが参考になった。

3. 話す速度は、聞き取りやすく、理解するのに最適な速度だと感じた。

4. スライドの文字が大きく、大事な箇所は色分けされており、わかりやすかった。

○パワーポイントを基本とした講義であったため、イラストなどが多様であり、かつ、見やすく、内容がイメージとして捉えやすい講義であった。

組換え医薬品に関する講義内容であったが、指定教科書の講義だけでなく、副読本からバイオ医薬品の命名法などを紹介することで学生の理解度を図っていた。この時、「どの出版社の、このタイトルの本」というように実際に引用しているテキストも一緒に紹介していたので、さらに本を読みたいと思った時に、学生が調べやすいと思った。自分自身も指定教科書以外からも情報を利用しているが、実際のテキスト紹介までいていないため、今後は「どんなテキストか」などの紹介も取り入れていきたいと思います。

○【良かった点】

1. 第7回目の講義であったが、済んだ講義回と今回の講義内容との紐づけが出来ていた点。

2. 講義の最後に「今回の復習ポイント」が具体的に書いてあった点。

3. 2を基に、講義の最終目標「知識の組合せと治療薬を導き出すこと」を明示していた点。

4. 覚えること、理解することが、分かりやすく丁寧に説明されていた点。

5. 配布資料の一部を空欄にして、書き込みながら視聴出来るようになっていた点。

6. 感染症において、母子感染や性感染症など「公衆衛生学」講義にもつながる講義内容になっていた点。

【参考になったこと】

1. 説明に入る前に、thinking time(30 秒)を取っていたこと。

2. 復習ポイントが、明示されていたこと。

3. スライドを一部改変して空欄にするなど、配布資料に工夫が見られていた点。

○パワーポイントに対して、書き込みを行う講義形式であった。パワーポイントは図や表が多く、適宜書き込みを行うことにより、講義が単調にならず、集中して話を聞くことができた。また、確認問題があり、復習しやすい工夫がなされていると感じました。また、パワーポイントのスライドのみを表示しているため文字が読みやすく、文章を読むときでも下線を引きながら説明することで、どの部分を説明しているかが明確になるように考慮されていると感じました。

○タブレットを使用して、学生が穴埋めに記載していく方法と同様に講義を行うことで、学生の理解スピードに合わせて講義を進めているという感じがして、教員の一方的な講義進行とは違う感覚があった。テキストのページ数が記載されており、後から復習するにあたり、テキストをトレースすることが可能である。大事なフレーズを繰り返し使用して学生に伝えることで、何が重要なのかを十分にアピールできている。講義に出てくるフレーズが他の科目とリンクする場合、その講義名を挙げて、復習がしやすいように工夫されている。現在、スライドのどこの部分の話をしているか、そこにタブレットで文字を書き加えていくことで、先生の解説とスライドが平行に動いており、注目する点が理解しやすい。

○講義は対面式と配信の併用で行われており、また配信もビデオを使って先生の顔と板書が見られるように配慮と工夫がなされていました。

教科書と事前に IPo にアップロードされた配布資料を併用し、スライドでの解説に板書を追加しての説明は薬理学の難しい内容を学生にわかりやすくまとめられていると感じました。

参観した講義ではホルモンとその調節機構についての話題でしたが、調節機構の基本となるフィードバック制御について、単に教科書的な解説だけではなく、例え話なども交えた解説により学生にその意味が掴みやすくなるように感じました。

○自身の担当科目と異なる教科・領域の科目の授業の動画を視聴させて頂きました。
まず、良かった点としては、自身の担当科目との関連性や連動する内容も多く含まれており、その内容を再確認すること出来たことです。
また、その都度教科書の頁を示して説明を進めておられ、教科書に準じた授業の進め方や視聴している学生への語りかけが優しく非常に温和であり、説明が分かりやすく極めて参考になりました。
さらに、実際のパワーポイントを映写しながら、教員の顔が見える形式での動画であり、教員の顔が見えないパワーポイントのみの形式の動画よりも、学生にとっては、より実際の講義を受講している感覚が得られて良いのかもしれないとも思いました。今後リモートによる講義が継続するようであれば、学生が最も希望する動画の形式を考慮する必要があるのかもしれない。

○オンライン講義をやってみて、どうしても講義が単調になったり、また学生の反応がないためにテンションが上がらないのが悩みだった中で、山脇先生はいかにして好評な講義を展開されているかを知りたくなり視聴しました。

講義は、音声に雑音がなくクリアでラジオを聴いているかのように聴きやすく、また、講義の最後で問題を解いたり、メリハリがあり参考になりました。また、授業アンケートの結果をいち早く取り入れ、顔出しをするようにしたりと柔軟に対応されているのが勉強になりました。

来年度の講義形式は不透明ですが、日々柔軟にアップデートすることが重要だと分かりました。

○Zoom を用いた同時双方向型の授業でした。オンデマンド型の授業より、リアルタイムで教員の顔が見えるし、時間割と同じ時間に配信されるので、普段受けている授業と同じ感覚で受けられることが良いと感じました。画面共有されたパワーポイントもとても見やすく、ポインターだけでなく、ペン機能を用いてスライド上に書き込みながら説明されており、学生も理解しやすいと感じました。声の大きさも話すスピードもちょうどよく聞き取りやすかったです。

(2) 参観者から見た学生の様子「3年」

○ 対面講義の聴講学生は 21 名でした。

多くは講義を聴きながら必要に応じてメモを取り真面目に取り組んでいましたが、教科書、配布資料、筆記用具のいずれも机に出さず座っているだけの学生が 1 名いたのが気になりました。

(1) 感想 (良かった点・参考になったこと等) のご記入をお願いします。「4 年」

○演習問題を実施する際、十分に間を取り、学生の理解と進度に合わせるように努力していた。スライドのアニメーションを活用するなど、わかりやすくするための工夫がされていた。学生が目の前にいるような語り口で聞き取りやすかった。国家試験問題を多く引用し、国家試験に対する意識を高めるように努めていた。ノートをとる時間をとり学生に配慮していた。ポイントとなる箇所を赤字で示すなど、学生の理解に努めていた。

○説明がとても丁寧で、話すスピード・進め方 (問題⇒解説⇒記入時間の設定) 等、学生の理解が深まるような配慮・工夫が十分になされており、とても勉強になった。前任地で「薬物動態解析学」の講義を担当していたが、一方的に解説することが多かった。現在、6 年次の「処方解析学」の講義を担当しているが、次年度もオンラインでの講義が続く可能性が高いと思われるので、先生のような配慮・工夫を参考にして、講義資料の作成・講義方法等を再検討したい。

○今回、城戸先生の漢方治療論を拝聴させていただきました。第 2 回講義では中医や漢方の成り立ち、気血水、五臓六腑をはじめとする中医・漢方理論、そして証としての病態把握・病態表現など、一般には大変理解の難しい箇所です。本講義では、工夫を加えられた図表を駆使されるとともに、丁寧な言葉づかいで説明されておられましたので、大変分かり易く、お聴きすることができました。

11 回目の講義では、石膏剤、人参剤をはじめ、主薬の特徴、それらが適用となる患者病態の診断ポイント、さらに類似した方剤のもつ特徴、差異など、具体的に説明されたうえで、将来の薬剤師として実践的な知識として蓄えておくべき要点を明確に挙げられている点は、学生にとっても重要な “Take home message” となり、大変感銘を受けました。是非、今後の講義に参考にさせていただきたいと思います。

今回、動画配信では、説明の繰り返し、言葉のスピード、抑揚、閑話休題、質問受付など本来、対面で学生の様子を踏まえた工夫がでなかった分、講義が一方通行となりアフターケアの難しさを感じていたところです。今後、対面方式の講義に戻った折には城戸先生の講義を参考に是非改良させていただきます。

○病態薬物治療学 I ～IV の総まとめである症例検討の講義であった。

- Zoom による講義であったが、常に画面の向こうの学生に視線を向けて話されていた。
- 話すスピードは、スライドの文字を目で追うのに丁度よく、理解しやすい話し方であった。
- 先生ご自身が考えられたであろう 3 つの症例には、病態薬物治療学 I ～IV で学んできた要素がふんだんに散りばめられており、実臨床 (症例) から学ぶことにより、これ

まで得てきた知識が深まるものと感じた。

- 一見難解そうな症例も、臓器の構造、画像診断図等を示しながら、これまでに学んできたことを説明した後に再度説明されるので、大変分かり易かった。
- 重要なポイントを何度も強調しながら話されており、メリハリが利いてとても分かりやすい講義であった。

今後、自身が講義を実施していくうえで大いに参考になりました。

○パワーポイントを表示しながら説明を行う授業スタイルのため単調になりがちのところ、動画の時間を 30 分程度ずつにわけられており、学生の集中力が切れないようにされていた点が良かったと思います。また、スライドの説明途中で教科書のページ数を伝えられている点も、教員の顔が見えず単調になりがちなパワーポイントのみの講義動画において、学生の意識を授業に向けるために良かったと思います。

（２）参観者から見た学生の様子「４年」

該当なし

令和2年度「教員相互授業参観」実施要領(看護学部)

FD 委員会

1. 目的

令和2年9月14日（看護学部教員連絡会議）

教員の講義力向上の一助とし、（対面型講義の場合は受講している学生の受講態度等を観察し、）教員が授業の現状理解を深めることを目的とする。

2. 要領

本年度は、下記の要領で教員相互形式の授業視聴（対面型講義が再開された場合は授業参観）を実施する。学生の授業評価の高い教員の教科科目や自身の専門領域や学部を超えた講義など、幅広く自由に選択できる。

○実施期間：以下の期間中に、年1回は視聴（参観）すること。

後期開始日～12月25日（後期）

○対象科目：1年生の講義授業科目（実習科目や演習科目は除外）

参観対象科目は看護学部で実施されている教科科目で、看護学部専任教員の
実施科目（必修科目）から、参観したい科目を自由に選ぶこと。今年度は
終了した教科科目のうち、streamで残っている科目を含める。但し前期科目
は科目担当者が授業参観を了承した科目のみとします。

*前期開講科目で了承が得られた科目は、

看護学概論、看護援助技術Ⅰ～Ⅲ（長家先生）

看護学研究Ⅰ（渡邊先生）第1回～第4回、or 第13回～15回から選択視聴
メンタルヘルス論（安藤先生）

スタディスキルセミナー（山本先生他）

地域包括ケアシステム論（西地先生）後期はグループワークのための授業と非常勤講師の担当なので、前期の視聴を希望（何回目視聴か連絡を）

○手順

手順1 Zoomを用いた講義または対面型講義の場合、視聴（参観）希望者は、前もってEメールなどで講義担当者の承諾を得ておく。

手順2 30分以上参観する。

手順3 視聴（参観）終了後、感想用紙に感想を記入し、電子ファイルをFD委員
（西田; k-nishida@daichi-cps.ac.jp）と参観した科目担当教員宛に添付メールで提出する。

○感想用紙：dysv10 → public_new → 委員会 → FD委員会 → 教員相互授業参観 → 令和2年度 → 「令和2年度授業参観感想用紙.docx」を使用すること。
提出期限は、12月28日までとする。

3. 附記

- 提出された感想用紙は看護学部FD委員会（委員長代理西田）が保管する。また参観を受けた教員はその感想用紙の内容を、翌年度の授業参観のための参考資料とする。
- 感想提出教員のリスト等を、提出期限後に行われる教員連絡会議にて連絡することがある。

令和 2 年度「相互授業参観」感想用紙

参観日時	月 日 時限	参観者名	
学部・学年・期 講義名	学部・ 年・ 期	講義担当者	

(1) 感想（良かった点・参考になったこと等）のご記入をお願いします。

(2) (対面式講義の場合) 参観者から見た学生の様子

令和2年度 看護学部 相互授業参観 報告書

番号	学年	参観日	参観者	授業科目	授業担当者	備考
1	1	4月29日	西地令子	地域包括ケアシステム論	園田和子	
2	1	4月29日	岸本香代	看護援助技術Ⅱ	長家智子	
3	1	6月24日	園田和子	地域包括ケアシステム論	西地令子	
4	1	6月25日	溝口晶子	基礎看護学概論	長家智子	
5	1	10月15日	竹井千里	看護援助技術Ⅱ	長家智子	
6	1	10月31日	丸山智子	看護援助技術Ⅱ	権藤多栄	
7	1	11月14日	姜 旻延	看護援助技術Ⅱ	権藤多栄	
8	1	11月14日	長家智子	看護援助技術Ⅱ	権藤多栄	
9	1	11月21日	権藤多栄	看護援助技術Ⅲ	山口今日子	
10	1	11月21日	中村眞理子	看護援助技術Ⅲ	山口今日子	
11	1	11月25日	山口今日子	看護援助技術Ⅲ	権藤多栄	
12	1	11月25日	井上由美子	看護援助技術Ⅲ	丸山智子	
13	1	12月9日	栗原はるか	看護援助技術Ⅲ	井上由美子	
14	1	12月11日	小川有希子	地域包括ケアシステム論	園田和子	
15	1	12月14日	安藤満代	薬学への招待	池谷幸信	
16	1	12月21日	川口弥恵子	看護学研究Ⅰ	渡邊美保	
17	1	12月22日	安藤満代	地域包括ケアシステム論	西地令子	
18	1	12月18日	山本弘恵	看護学研究Ⅰ	渡邊美保	
19	1	12月22日	渡邊美保	メンタルヘルス論	安藤満代	
20	1	12月22日	西田和子	地域包括ケアシステム論	西地令子・園田和子	
21	1	1月5日	小山記代子	地域包括ケアシステム論	西地令子	

令和2年度 看護学部 教員相互授業参観感想 総括 (21名分)

- ・看護者の安全について、抗がん剤暴露に対する安全性、放射線暴露に対する安全性、感染に対する安全性に分けて説明されており、学生にとっては安全に気をつける場面が解り易かったと思われる。学生が重要なことを理解しやすいように、簡潔に整理して表示する方法は参考になった。それぞれどのような場面で暴露あるいは感染の危険性が潜んでいるのか、説明されていたので、学生は実践の場で気をつける場面を認識できたと思われる。

講義内容からは知識がないと危険なことが多くあることが分かる。学生は、正しい事を知ってこそ必要以上に怖がらずに様々な場面に対応できる、ということが理解できたのではないだろうか。また、この講義を聞いたのちの学内演習(実践)を通して、気をつける場面を実感できると考える。Web 授業なので、学生にとっては少し文字が多いように感じた。もう少し絵やイラストの挿入や、例題を増やした説明を入れると、より興味を持って受講できると感じた。

- ・ゆっくりと話をされていて、対面ではないので学生がついていけているか確認できないため、どの学生にもついていきやすく、丁寧で聞き取りやすい印象を受けた。ポインターを使い、今どこの説明をしているのかがわかりやすかった。「後で説明します」「前に説明しました」というだけでなく、何枚目の資料で出てくるのかを示しており、学生が振り返りやすくなっていた。学生は初めて聞くことばかりだったと思うのでゆっくりと説明すること、対面ではないのでどこで説明したのかを提示することなど参考になりました。
- ・学生は専門的知識や手技を理解し修得してもらわなければならないため、視覚や聴覚からの情報をうまく活用する必要があると思います。先生の講義はゆっくりと話され聞き取り易く、また講義資料は写真で手順やポイントについて丁寧に示されているため理解し易かった、これらのことは次の演習に繋げやすいと思いました。またポインターを使い、今どこの説明をしているのかもわかりやすかった。
- ・看護技術において基本となる感染防止の意義と基本概念について最初に紹介されたため、学生が本教科と本単元で学ぶべき内容が把握しやすいと思った。講義で話すスピードと声の大きさが聞き取りやすかった。スライドの構成（内容の配置、字の大きさと色）が見やすく、内容ごとに分かりやすかった。滅菌物の取り扱いと注意点は演習・実習・国家試験につながる重要な内容であり、その手技と環境調整について詳しく説明されたことで看護実践レベルの理解が容易であると感じた。講義内容の中に学生が初めて耳にする概念・用語、機材・器械、物品・薬品が多いが、図・表・写真を適宜提示することで理解しやすい工夫がなされてよかった。
- ・これまでの学び（形態機能学）と今回の学びを結び付けて学べるように、導入部分で意識付けさせていた。酸素療法も「薬」という言葉は、学生にとっては印象に残り、良い意味で緊張感をもって学ぶことができるのではと感じた。重要な数値は、繰り返し伝えることで、学生も重要箇所と認識できると感じた。実際に使用する写真を多く提示することで、臨床をイメージしながら学べるのではないかと。PPT ページごとに教科書のページが記してあったこと、PPT がシンプルかつ、図や写真を適宜掲示されているため、とても見やすかった。課題提示時に、ヒントも明示してあった。また、そのヒントは教科書であったため、ストリームを聞くだけでなく、教科書を必ず手に取るよう工夫されていた。
- ・講義の初めに前回のまとめがあり、詳しく解説されていた。本日の講義目標は3つ、今回の講義で何を学ぶのか要点が示され講義を受けやすいと感じた。パワーポイントについて、グラフや図の使い方が工夫されていた。図や表の説明では、レーザーポイントを使用しており、どこの部分を説明しているのかがわかりやすかった。歴史上の人物については名前だけでなく写真を使用して説明があった。私は学生時代に人物と時代背景その方の業績など関連づけて覚えることが苦手でしたが、園田先生の講義は視覚と聴覚から入るため、興味関心を引き起こし記憶に残りやすいと感じた。講義の説明、話すスピードが丁度良く、聞

き取りやすかった。パワーポイントの作成の方法について、一枚のスライドで何を伝えたいのか、伝えたいことの表現の仕方、文字の大きさ、図表や写真の挿入の仕方について、今後の参考としたい。

- 教科書のページを明確に指示していたところ、ポインターを適切に使用していたところが良かったと思います。話す声の大きさや速さもわかりやすく参考になりました。
- コロナ禍のため Web 授業であったが、授業展開は、指導内容を系統的、論理的に提示され、わかりやすい内容であった。指導過程では、食事・栄養の意義について、栄養状態のアセスメント、摂食・嚥下能力のアセスメント、食事摂取の介助、摂食・嚥下訓練、非経口的栄養摂取の援助についての指導内容の考察が十分になされていた。視覚的に大項目の際に下位項目を示し、今、学習している内容の位置づけが理解できるような工夫がされてあった。方法として、ポインターを活用しポイントをわかりやすくする工夫がなされていた。最後に、次時の演習についての説明が具体的に明示されており、学生の準備が進めるように配慮されてあった。以上のように良かった点を今後、自分の授業に参考にさせていただきたい。
- 「第 15 回目 看護学研究 I のまとめ」を視聴させていただきました。講義の内容は、質問に対する Q&A、第 1～14 回までの振り返り、研究に発展させるための問いと思考について、課題レポートについてでした。コロナ禍の影響によりすべての講義が遠隔講義になり、講義に対する学生のレスポンスをキャッチすることや学生同士の情報共有が難しいと感じていました。しかし、このように最後にまとめて情報共有する方法はとても良いと思いました。学生からの質問内容に合わせ、タイムリーに学生に返す方法と、まとめて説明する方法を選択すればよいと参考になりました。第 1～14 回までの振り返りについても、授業計画を 1 枚にまとめたスライドを提示しながらの説明もとてもわかりやすく、学生さんも振り返りやすかったのではないのでしょうか。非常に参考になりました。
- 看護技術において、医療事故や薬剤曝露や職業感染は大変重要なことで、看護業務を行うときには必ず知識として理解しておくこと、また、対策を実施することが重要となってくるため、我々看護職に必要な知識と技術が網羅されていたと思います。患者を守るためでもありまた、我々医療従事者を守ることになるので、どのような影響があり、それを防止するにはどのようにしたら良いかについて、詳しく分かり易く説明されており、順序だてて理解することが出来ました。また、看護協会や厚生労働省などからの情報も活用され、最新の知見を基に講義が構成されており、大変と良かったと思います。
- Web 講義資料のパワーポイントが大変見やすく、少ない言葉で的確に説明内容が表現されている。そのため「本日の学習目標」も今から何について学ぶのかイメージし易いと感じた。さらに、学習目標に沿って章立てするようなスライドの作りとなっており、カテゴライズされて記憶に留まりやすかったと感じた。さらにオートシェイプと色の使い方で、カテゴリー感が演出されており、視覚的にもインプットされやすかった。レーザーポインターを使いながら、経験談も含めてグラフや表を説明されたり、新聞記事などを用いて学生がいかに身近なこととして感じ取ってくれるかなど工夫が凝らされていた。これらの視覚と聴覚に働きかける講義により、学生たちは興味深く関心を引き起こされ、記憶に残りやすかったと感じた。私の資料は自分が説明しやすいように作ってしまう癖があるが、もっと学生の捉え方を考えながら作成しなければならないと感じた。障害者に関する講義のため法律の説明が多いが、一法律を一枚のスライドで簡潔に説明するように工夫（シンプルであるが内容が全て網羅）されており、参考にさせて頂きたいと思っている。また、国民衛生の動向の説明文を学生にわかりやすく図式化してスライドに盛り込んであるので、どのようなスライドを作成すると、学生の頭づくりになるかを考え講義資料を作成していこうと考えている。

- ・初めて、漢方についての講義を拝聴させていただきました。大変興味深く、時々目にする漢方薬について改めて知ることができました。以下、感想を述べさせていただきます。教員の紹介などがあり、誰が講義しているか、リモートでも親しみがもてた。植物、薬、などの写真やイラストが多く、大変分かりやすかった。西洋医学と東洋医学の漢方の考え方が、患者のためになっていることがわかった。例えば、検査値に異常がなくても、患者には主観的症状があるとき、漢方で保険内で処方できることは、患者にとって非常に重要なことだとわかりました。精神看護学で、西洋の薬しか考えていなかったのも、漢方という考えもあるのだと改めて知ることができました。薬学部の学生にも、看護学部の学生にも配慮し、「看護師も・・・できる」など、看護も関係していることがわかった。「薬学に強い看護師」のイメージが少しできた。どうもありがとうございました。
- ・地域包括ケアシステム論の第6回目の「ヘルスプロモーション」に関する講義を拝聴させていただきました。大変興味深く視聴させていただきました。専門外ですが、いかに感想を述べさせていただきます。パワーポイントの資料で図や写真等をうまく組み合わせて、興味や関心をひくものだと思います。どのようにして地域の問題を解決していくのか、例えば「禁煙」を例にして、その活動などが具体的に、また身近に感じることができ、学生にも理解がしやすいと感じました。さらにプライマリヘルスケアの問題は、世界的な問題と関連していること、持続可能なものである必要性など、広い視野にたったことも話をして、日本だけにとどまらないこともよく理解できる内容になっていると感じました。私もこれらを参考にさせていただき、授業づくりをしたいと思いました。視聴させていただきました。どうもありがとうございます。
- ・感染防止の技術1・2は繋がりのある講義であり、3限目4限目共に視聴した。3限目で感染の基礎知識として感染とは何か、感染の成立の輪、感染の予防目的、院内感染について、理論と実際の現場である病院の組織を用いて講義が行われていた。この単元は、看護概論と同じ時期で行われており、関連付けて講義を行う事で、学生が知識として習得しやすくなる工夫がしてあると感じた。また、実際の臨床現場はまだわからなくても、今後の発展科目で学習するための想起する知識になると感じた。講義の組み立て方も、感染の基礎的知識～現場～感染予防の原則～スタンダードプリコーションの必要性・内容～自己の振り返り～正式な方法と学生が順序だてて考え易いような構成であり、また、手指衛生方法の実際をパワーポイントと共に先生の説明も加わり習得しやすい工夫がされてあった。今後、演習で行っていく為のポイントや、手指衛生のタイミング、アルコール性手指消毒剤の使用方法等の講義内容が、今まで日常何気なく行ってきた手洗い方法や擦式手指消毒方法を振り返りながら講義を受ける内容となっており、学生が考え学ぶことが出来る工夫がしてあり参考になった。
- ・学生の学びを概観した後、具体的にナイチンゲールの考えについて時代背景を鑑みた考察を学生に教授されていた点、Web講義で、学生のレポートの書き方、改善点や学生の捉え方を共有できるように講義資料を用いて教授している点は、グループワークと遜色なく良かった。学生は自分自身の学びを振り返りやすく工夫している点、話し方に抑揚があり、説得力がある点、授業構成について参加になりました。どのように学生がナイチンゲールの著書を読んで考えたかについて全体で共有する手法が参考になりました。
- ・動画での授業なので、学生の反応が見られない分、教員が自分のペースになってしまいがちだと思っていましたが、学生の気持ちを代弁するようなスライドを作成することで、学生自身のモチベーションが保てるように工夫してあると感じました。動画を1回35分程度にすることで、学生の集中力も保てると感じました。私自身、介護保険制度が難しくて苦手だったのですが、要点がはっきりとしていることや進むスピードが適切で、わかりやすい授業だったと思います。他にもスライドが、見やすくわかりやすい点など、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

- ・図表を使って見やすい資料となっている。医療法や医療計画という難しい内容を分かり易く丁寧に教授している。実際の県内の医療圏や病院などを例にして学生がイメージしやすいように工夫している。録画であるが、ゆっくりとはっきりとした口調、高すぎず低すぎない声のトーンも、学生にとって抵抗感なく伝わりやすい話し方になっている。最後に学生の学習到達度の確認として簡単な課題（○×）を提示し、学生が分からないところは復習できるよう図っている。以上のことから、今後も授業方法については、現状に満足することなく自己研鑽を継続しなければならないと改めて感じました。
- ・1年生の前期ということで、非常に伝えるのに難しい講義内容であったと思われますが、先生が順序だて、丁寧に伝えてくださっていることで、非常にわかりやすい内容になっていたと思います。具体的には、ゆっくりとしたわかりやすい説明の仕方です。授業が行われている、教科書との対応箇所を示している。動画を視聴するだけでなく、ノートを取ったりマーカー引く、あるいは静かなところで集中して聞くなど学習方法について示している。伝えたいことが明記されたPPTを使用している。適時、小テストを行うなどアウトプットを実施している。などの点が特に印象的でした。視聴の機会をいただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・学生のレディネスや、遠隔授業という環境のもとで、様々な授業の工夫を知り大変勉強になりました。例えば、学生にとって身近な状況（SNSや友人との喧嘩、ネット依存など）を例に挙げて説明されており、メンタルヘルスが病気の人だけでなく誰でも起こりうる身近なテーマであることが伝わってきました。学生にとって身近な例があると、メンタルヘルスという概念もスムーズに頭に入り、授業への関心も高まると思うので、学生がイメージしやすい状況を例えに出すことの重要性を学びました。また、コロナ禍で遠隔授業がスタートしたばかりの時期で、学生も教員も講義準備が大変な時期だったと推察します。しかし、そのなかでも、前回の授業の復習を踏まえ、大事なところはカッコ抜きで示すなど、学生が一方的に授業を聞くだけでなく、思考の整理やワークを取り入れている点が大変参考になりました。声のトーンやスピードもとても聞きやすく、理解しやすい内容でした。今回、授業参観で学ばせていただいた内容を自分の授業のなかでも活かしていきたいと思います。
- ・コロナ禍の遠隔授業、Zoomでのグループワークでここまでできるというのにまず驚きです。内容的には指導を入れていないということですが、授業の1つ1つのキーワード、支援の考え方の枠組みがしっかり押さえてあった成果ではないかと感じしております。自発的に考える・まとめるということが1年の仕上がりとして見て取れたという印象です。かなり事前の指導の賜ではないかと推察しております。この上に2年の教科目を進めればよいという理解もでき、大変参考になりました。プレゼン能力も随分高まったように思います。全員で他グループの発表を聞き、意見交換によって、考え方の広がりが期待できる授業展開だったと思います。
- ・説明が明確で理解しやすい。さらに、援助技術のエビデンスが明確であり、なぜそうしなくてはならないかがよく理解できた。エビデンスの提示については、特にデータが明示されていて、大変学習になった。また、このデータの出典についても明らかにされていて、信ぴょう性のあるデータであることも、判断できた。これらのことが、大学教育で必要なことであると理解できた。援助技術は講義と技術演習の連結が必要であるが、講義の中で演習についても学生が理解できるように、説明がなされていた。演習計画、教科書、講義資料に無駄がなく、理解が深まる内容となっていた。学生への指示が明確であった。教科書のP数、行数が示され、Webであっても学生が戸惑わないように講義されていた。「大切なので線を引く」等も指示されていて、対面授業でないために細部にわたり説明することが質の保証につながると考えた。以上のことを受けて、自分の講義においても演習内容を盛り込むようにした。エビデンスの示し方については今後の課題であると考えている。

教員による授業の自己評価報告

令和 2 年度

令和 2 年度 教員による授業の自己評価について

教員の教育力向上を目的として行われてきた「学生による授業アンケート」「学生アンケートに対する教員コメント」の取り組みと合わせて、さらなる教員の教育力改善のため、専任教員を対象として「教員自身による授業の自己評価」を平成 26 年度より開始した。

平成 26 年度は「教員による自己評価」及び「次年度への計画」が記載項目として挙げられていたが、平成 27 年度は、「学生による授業評価に対するコメント」を追加した。これにより、授業に対する PDCA サイクル(授業(D)、自己評価及び学生評価(C)、次年度への計画(A/P))を 1 枚のシートで確認することができるようになった。平成 28 年度からは、自己評価の項目を①授業に対する自己評価、②学生による授業評価に対するコメント、③昨年の授業計画に対する自己評価、④次年度へ向けての改善計画の 4 項目とし、「③昨年の授業改善計画に対する自己評価」を追加した。これにより、昨年の自己評価による改善計画(P)、授業の実施(D)、授業の自己評価(C)、昨年の改善計画の自己評価(C)、次年度への改善(A/P)と、教員自身の授業に対する PDCA サイクルがさらに充実した。学生評価を加味することでさらに自己点検の際、学生の意見に対する振り返り効果も得られるものである。

平成 30 年度は、各教員に対して「教員による授業の自己評価」に関するアンケートを実施し、自己評価の有用性についての検証を行った。その結果、教員は前年の自己評価に基づき、授業改善に努めていることが明らかとなった。また、前年度から継続して講義を担当している教員の全員が授業に対する改善を行ったと、自己評価していた。これらのアンケート結果は、「教員による授業の自己評価」が、教員の授業の改善に有用であることを示している。令和 1 年度は、「教員による授業の自己評価に関するアンケート」をもとに、自己評価シートに「教員による授業評価に対するコメント」の記入欄を次年度から追加することとした。また、令和 2 年度には看護学部が新設されるため、看護学部と共通のフォーマットを作成した。

令和 2 年度は、本年度から改定した新しいフォーマット(図1)で「教員による授業の自己評価」を行った。本年度の改定では、「教員による相互授業参観に対するコメント」を取り入れた。本自己評価シートは授業に対する PDCA サイクルを確認できるが、「教員による相互授業参観に対するコメント」を取り入れることによって、相互授業参観についても、授業・授業見学(D)、他教員による授業評価(C)、相互授業参観に対するコメント(A)、次年度に向けての改善計画(P)と、PDCA サイクルに組み込むことができた。前期・後期終了後、学内サーバー(DYSV-10)の FD 委員会内フォルダーに教員個人が提出する方法で実施された。

令和 2 年度は薬学部が前期 53 件、後期 38 件が提出された。看護学部は開学初年度であることや COVID-19 の影響によるオンライン授業開始もあり前期は様子を見、後期のみの実施とした。また本年度の学生は 1 学年のみのため、授業を担当した看護学部の教員から 8 件中 7 件、薬学部の教員から前期は 3 件、後期は 2 件の自己評価が提出された。

教員による自己評価は、印刷物として図書館で、学生・教職員を問わず、誰でも自由に閲覧できるよう設置している。

2020 年度 教員による授業の自己評価

所属 担当者名	(薬・看護)	年 度	2020 年度	前期 ・ 後期
担当科目・ 授業回数	学部 薬学部 ・ 看護学部	科目名	(回)	学 年

1. 教員による授業評価

- (1) 授業計画と講義内容について説明しましたか。 ☐はい ☐いいえ
- (2) 学生の理解度を深めるための講義の工夫について、自己評価（該当箇所に○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当せず
	0	1	2	3	4	5	
① 配付資料のわかりやすさ							
② 板書の読みやすさ、わかりやすさ							
③ 講義で使用したスライドのわかりやすさ							
④ 重要な事項の強調方法の適切さ							
⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節							
⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫							

2-1. 学生による授業評価に対するコメント

--

2-2. 教員による相互授業参観に対するコメント（ある場合のみ）

--

3. 昨年の改善計画に対する自己評価

--

4. 次年度へ向けての改善計画

--

図1 R2 年度（2020 年度） 教員による授業の自己評価 フォーマット

2020 年度 教員による授業の自己評価

所属 担当者名	(薬・看護)	年 度	2020 年度	前期 ・ 後期
担当科目・ 授業回数	学部 薬学部 ・ 看護学部	科目名	(回)	学 年 年

1. 教員による授業評価

- (1) 授業計画と講義内容について説明しましたか。 ☐はい ☐いいえ
- (2) 学生の理解度を深めるための講義の工夫について、自己評価（該当箇所に○）を行って下さい。

	改善が必要 ←————→ 改善不要						該当せず
	0	1	2	3	4	5	
① 配付資料のわかりやすさ							
② 板書の読みやすさ、わかりやすさ							
③ 講義で使用したスライドのわかりやすさ							
④ 重要な事項の強調方法の適切さ							
⑤ 学生の理解度に応じた講義スピードの調節							
⑥ 試験内容や試験方法に対する工夫							

2-1. 学生による授業評価に対するコメント

--

2-2. 教員による相互授業参観に対するコメント（ある場合のみ）

--

3. 昨年の改善計画に対する自己評価

--

4. 次年度へ向けての改善計画

--

FD 講習会報告

令和 2 年度

令和2年度FD・SD研修会報告

1. 第1回 FD研修会（教務課長）

日 時：6月26日（金）13:00～

目 的：新任教員のための講習会

対 象：令和2年度新着任教員

2. 第2回 FD・学生合同研修会（学生委員会・FD委員会）

日時：8月1日（土）～8月31日（月）

場所：ビデオ視聴

講師：臨床心理士・カウンセラー 神近裕樹先生

テーマ：「現代の大学生の心理的特徴と支援について～援助希求行動の視点に焦点を当てて～」

参加者 72名（薬49、看護14、事務9）

3. 第3回 FD研修会（看護学部）

日時；2020年9月19日（土）9:30-12:45

場所；看護学部棟 2階 講義室1・2

講師名；第一薬科大学看護学部教授 長家智子先生

テーマ；「看護過程の展開」

参加者24名：教員（薬2名、看護21名）事務1名、合計24名

4. 第4回 FD研修会（薬学部）

日時：2020年9月28日（月） 13:00 ～ 14:30

場所：Zoomによる研修会

講師：野呂瀬崇彦 先生 北海道科学大学 薬学部薬学科 薬学教育学部門

テーマ：学生の『能力』を把握するための教育評価の考え方～ルーブリックを中心に

対象：全教員 視聴者86名、アンケート提出 58名

5. 第5回 FD研修会（薬学部）

日時：令和2年11月9日（月）13時～14時30分

場所：薬学部 新館3F 模擬病棟

テーマ：卒業研究発表会・卒業論文の評価用ルーブリックを作ろう

1卒業論文評価用ルーブリック

2卒業研究発表評価用ルーブリック

対象：薬学部教員 参加者 教員 14名

第1回学内FD委員会報告

新任・転任教員のためのFD講習会

教務課長

<開催情報>

日 時：6月26日（金）13:00～

目 的：新任教員のための講習会

対 象：令和2年度新着任教員

（傍聴）事務職：今尾先生、千北先生、太田先生、荒木先生、榎先生、

場 所：zoomを使用

<講習会詳細>

1. 薬学部長挨拶 13:00-13:10（10分）（小松先生）
2. 看護学部長挨拶 13:10-13:20（10分）（平田先生）
3. 厚生部長からの説明 13:20-13:40（20分）（戸田先生）
4. 教務部長からの説明 13:40-14:00（20分）（松原先生）
5. 学生部長からの説明 14:00-14:20（20分）（村山先生）
6. 教員による授業自己評価の説明 14:20-14:30（10分）（村山先生）
7. 学生授業評価アンケート等のご説明 14:30-14:40（10分）（有竹先生）
8. 教員相互の授業参観の説明 14:40-14:50（10分）（安川先生）
9. 図書館長からの説明 14:50-15:00（10分）（原口先生）
10. Campus planの利用方法説明 15:00-15:30（30分）（井川先生・真鍋先生）

第2回 FD・学生委員会 合同研修会 報告書

日時：令和2年8月1日 ～令和2年8月31日

場所：オンデマンド配信

演者：神近 裕樹 先生（臨床心理士・カウンセラー）

演題：現代の大学生の心理的特徴と支援について～援助希求行動の視点に焦点を当てて～

参加者：教員（薬学 49名、看護 14名）63名 事務職員 9名 合計 72名

アンケート結果

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか？

- ① 非常に役立った 39 ② 役立った 31
③ あまり役立たなかった 1 ④ 全く役立たなかった 0 無回答 1
(一般的な学生に対する内容ではないと感じた)

2. 講演時間は適切でしたか？

- ① 長すぎる 0 ② 適切 70 ③ 短すぎる 0 無回答 2

(①,③を選択された方は、望ましい時間を書いてください： 時間)

・0.5～1時間： 0名 ・1時間： 0名 ・1.5時間： 0名

3. 今後、希望する講演などがありましたら、ご記入ください。

- ・学生のコミュニケーション力向上のための工夫について
- ・今後、薬学部と看護学部との連携でできる教育に関する講演
- ・オンライン講義の上手なやり方 2
- ・精神的なストレスを持つ学生対応について
- ・コロナ対応/遠隔指導時代の学生指導 学習教育編・学生生活指導編
- ・学生のモチベーションを高める働きかけについて
- ・コロナ状況下における学生のメンタルヘルス
- ・学生に勉強させる方法
- ・メンタルケアについてチームで対応したケース等の紹介
- ・呼びかけや問いかけに無反応な学生に対する対応
- ・うつ病、ボーダーライン型人格障害の学生対応
- ・新型コロナによる長期休校が学生の就学態度や生活に及ぼす影響やその対応
- ・アカデミックハラスメント防止、ペップトークの教育効果、評価対象に適したループリック評価作成方法・留意点
- ・学生のレジリエンスに対する支援について
- ・ハラスメントについて

4. その他 FD 委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。

- ・アンケートはフォームなどを用いては？
- ・講演型の研修はオンラインが望ましい。2
- ・FD 研修会はためになるので今後も継続してほしい。
- ・いつもありがとうございます。

本日の流れ

- 現代の大学生の心理的な特徴
- 援助希求行動の視点から見た行動化の理解と支援

現代の大学生の心理的特徴と 支援について

～援助希求行動の視点に焦点を当てて～

学生相談室カウンセラー（臨床心理士）
神近 裕樹

現代の大学生の心理的特徴

これまでよく使われてきた表現（青年期）

- アイデンティティの確立（拡散）
- モラトリアム
- 疾風怒濤の時代
- （スチューデント）アパシー
- 心理的離乳



⇒「自分とは何者か？」というテーマについて、悩み、葛藤し、
自己の確立や親からの自立を目指す。

1. 現代の大学生の 心理的特徴



現代の大学生の心理的特徴

近年の学生の特徴で指摘されていること

- 「自分の問題を表現できない学生」や「自己理解の過程がうまく進まない学生」(川上,2013)
- 葛藤を抱えたり、「悩む」というより「落ち込む」または、「身体化」する傾向 (吉米地,2006)
- 新たな来談学生の典型像として、「問題解決のハウツーや正解の提供を求める性急な学生」上、「漠然と不調を訴え、何が問題なのかが見えていない学生」の2極化 (高石,2009)
- 訴えが不明瞭で何を悩んでいるのか、本人自身もわからない (福田,2007)



「悩めない学生」(主体的に悩めずに身体化・行動化しやすい)の存在 (高石,2009; 桐山,2010)

いのちに関わる行動化

全国の自殺者数の調査の概要 (警察庁「自殺統計」より)

- 全体的な人数はH22からR1まで減少傾向 (約3万2千人から約2万人へ)
- 女性より男性の方が多い (約2.4倍)
- 未成年の自殺者数は増加している
- 福岡県は全国で9番目に多い
- 職業別で見ると、「無職者」が最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」「自営業・家族従業員」「学生・生徒等」の順になっている (高校生から一気に増加傾向にある)。
- 「学生・生徒等」の自殺理由は「学校問題」が一番多い。
- 件数として夏季休暇など長期休暇後が多い傾向が見られる。

昨今の社会情勢下でより一層注意が必要

現代の大学生の心理的特徴

①身体化

- 明確なものから曖昧なものまで見られる (下痢、腹痛や頭痛～疲労感、だるさなど)
- 自分が身体化していることに気付かない場合も少なくない。

②行動化

- 引きこもり
- 自傷行為
- 暴力
- 過食や拒食
- ギャンブル

自身で問題や課題を意識していると来談に至ることもあるが、
身体化・行動化によって周りの人間が心配
して来談に繋がる人が多い印象



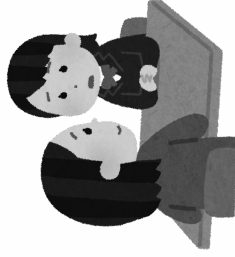
ただし…

必要はあるのに相談や支援に繋がらない学生の存在

- ストレスや葛藤などをしっかりと抱えられない
- 「助けを求める」「相談する」「人の手を借りる」への抵抗
これまで相談して良い経験がない
- 人の手を借りることへの抵抗 「自分の力でやりたい」
そもそも「相談する」ことが対処の選択肢にない
話をしても変わらないと考えている などなど

では、どうするか？

困った時など必要な時に誰かに
「助けを求め」「相談する」(援助
希求行動)力を身につける、伸ば
していく！



ちょっと考えてみましょう…

下記の行動はどういった行動でしょうか？

頭や手など体を硬いものに打ち付ける

抜毛 (髪・まつげ・眉毛など)

爪噛み

体を火傷させる

自分の体を切りつける

「自傷行為」＝ 対処行動

2. 援助希求行動の 視点から見た 行動化の理解と支援



自傷行為について

■自傷 (行為) とは？

「自殺以外の目的から、非致死性の予測をもって (「このくらいであれば死ぬことはない」と予測して)、故意に自らの身体に直接的に軽度の損傷を加える行為のことであり、

その行為が心理的に、あるいは対人関係的に好ましい変化をもたらすことにより、この効果を求めて繰り返される傾向がある」

(松本, 2009)

自傷行為の理解①

●自傷行為の理由

「不快な感情をやわらげるため」

他には…

「さらに頑張るため」

「つらさに負けないため」

「泣き言を言わないため」

「自分に気合いを入れるため」

など、肯定的な意味を持つ側面もある。

※身体の痛みで心の痛みを蓋をする

自傷行為の理解③

●自傷は、エスカレートする。

これまでの「鎮痛効果」が持たなくなる、刺激に慣れてしまうと、回数や自傷の方法が変化し、以前よりささいなことで行為に及ぶことも。

⇒「切ってもつらいが、切らないとなおつらい」

⇒「切っても楽にならないが、切るのをやめることができない」と追い詰められた心境へ。

“自傷に自分がコントロールされている”状態

①「生きる」ためから「死ぬため」の自傷行為へ

②周囲に見つかり“周囲をコントロールする”自傷へ

自傷行為の理解②

●自傷は、孤独な対処策

誰かと一緒にすることはない。自分一人で問題を解決しようとする傾向（援助希求能力が乏しい）。

⇒相談する、助けを求める力を育てる

●自傷によって苦痛から一時的に解放される感覚（「鎮痛作用」）

「ほっとする」「すっきりする」「落ち着く」「元気になる」

⇒この感覚を求めて自傷は繰り返され、習慣化してしまう。

●自傷に対する他者の反応が持つ意味

「自傷がもつ他者に対するパワー」を学習した場合に、

他者の視線や反応を意識したアピールの自傷へ変化することがある。

自傷行為への対応

○3つの視点

①予防教育の実施や環境の把握

②早期発見と対応

③行為への支援やフォローアップ

①予防

予防教育や環境の把握

- ・全学年対象のメンタルヘルスに関する講習（心理教育）
- ・メンタルヘルス調査（k10）
- ・「話す」場の設定

など

②早期発見と初期対応

早期発見と初期対応

- ・日頃の生徒・児童との関係の構築
- ・日常的な生徒・児童の把握と変化への気付き
- ・自傷行為のアセスメント（緊急度の把握）
- ・自傷行為が発覚した時の対応
- ・保護者への説明と協力を求める
- ・ケース会議

自傷行為のアセスメント（簡易版）

①援助希求

自傷を隠す、傷の処置をしない、人に相談しない

②コントロール

乱雑で汚い傷、服で隠れない場所の傷、決意してから実行までの時間が短い

③エスカレート

複数の身体部位の傷、複数の方法による自傷

④解離（※）

痛覚麻痺、記憶脱落

⑤間接的な破壊的行動（※）

食行動異常、物質乱用の存在、過量服薬の既往

「死にたい気持ち」を聴くとき（基本的な対応）

- ・誠実な態度で接する。
- ・話をそらさない。
- ・（最初から批判したり、激励したりしないで）一生懸命に訴えに耳を傾ける。
- ・絶望的な感情を理解するように努める。
- ・自殺の危険の程度を推定する。
- ・秘密のままにしておかない。
- ・必要があれば専門家に援助を求める。
- ・援助者は一人で対応せず、組織全体で状況を共有し、チームで対応を考えていく。

自傷行為が発覚したら…

初期対応で心がけること

- ①頭ごなしに「自傷をやめなさい」と言わない
- ②援助 希求行動を評価する
- ③自傷の肯定的な面を確認し、「共感」する
- ④エスカレートに対する「懸念」を伝える
- ⑤「もうしない」などと無意味な約束はしない（※）

自傷行為が発覚したら…

②援助 希求行動を支持する

自傷する若者は援助希求能力が乏しい人が多い
⇒行動自体を肯定することで能力を伸ばしていく

“切るのがやめられない”“また切ってしまった”

「そういうふうに言えることはとても大切」

「今は切る、切らないよりも、信頼できる人に心を開けることの方がずっと重要なこと」

自傷行為が発覚したら…

①頭ごなしに「自傷をやめなさい」と言わない

誰の助けも得られない状況の中で、何とかして過酷な日々を生き延びるための行ったこと

⇒苦労や努力を否定することに繋がる

「頭ごなしに」＝虐待・いじめ、管理・支配などの体験

「あなたのことを知りたいと思っている」という姿勢が伝わるような姿勢で関わる

自傷行為が発覚したら…

③自傷の肯定的な面を確認し、共感する

自殺しないために切っている

人に暴力を振るってしまいそうになるのを抑えている

つらい感情を誰の助けも借りずに克服する

「そうやってつらい毎日を生き延びてきたのは、本当に大変だったね」

“大変な状況に耐えて生き延びてきたこと”への肯定

自傷行為が発覚したら…

④エスカレートに対する懸念を伝える

「あなたは違いかもしれないけど…」

「こういった行動のように”身体の痛み”で”心の痛み”に蓋をしていると…」

「だんだんと効き目が弱くなってしまって、エスカレートしてしまう傾向がある」

「切っても”心の痛み”が『消えたい』『いなくなりたい』って考えや気持ちばかりつくなっていく治らなくなると、こともある」

「あなたがそうになったら…と思うと心配」

「親に内緒にして欲しい…」

○信頼関係か、リスクヘッジか

自傷する子どもが何を恐れて「親に内緒」にしてほしいと考えているのかわかることが大切

子どもは「自分の子どもが自傷している」という事実を知った親がとる反応を恐れている

これらを考慮してどんなふうに保護者に話を行うと良いか一緒に決めていく。

自傷行為が発覚したら…

⑤無意味な約束はしない（※）

『もうしないって約束する』

自傷行為にはアディクション（嗜癖）の性質がある

習慣性・反復性を持っている行動

⇒『約束を破ってしまった』と強い自責へ繋がる

“自傷しないこと”より援助を“継続していること”

「そんな約束はしないで良いよ。それよりも、もしも自傷してしまった時は、必ず報告に来て欲しい。できれば自傷しなくなった時に、実際に自傷してしまっ前に来てくれたらなお良いけど、たとえ自傷したとしてもそのことをちゃんと報告して欲しい」

保護者にどう伝えるか

●伝えるべき4つのポイント

①自殺とは異なること

②けっしてアピールの行動ではない

③なんらかの苦痛が存在するサインであること

④この苦痛を放置すれば将来的には自殺につながると考えている

※同席面接が行えない場合は、子どもがいる前で電話を通して伝えることが望ましい。

⇒援助者とのやり取りを通して、「すべての大人が自分の親とは同じではない」と感じてくれるだけでも、その子どもの援助希求能力を伸ばすことに貢献できる。

継続的な支援

行為への支援やフォローアップ

- ・生活（現状）の見直し
- ・援助希求能力の向上
- ・置換スキルの獲得
- ・保護者との連携や支援の継続
- ・チームで対応する（継続的なケース会議）

援助希求行動の向上

自傷は「孤独な対処策」

信頼できる人に話す，相談する力を高める。

（できればそういう相手が複数いると良い。中には専門家などいると援助者の負担も減る。）

切ってしまう前に話せると良いし，切ってしまった後でもそのことを告白できることも大事。

「自傷したい気持ちになる原因」＝「現在のつらい問題」を話せるともっと楽になることが期待される。

生活の見直し

行動観察表をつけていく

いつ，どこで，何をしていたか，自傷行為を行なった（したくなった）回数，などを記録していく。

⇒自傷行為の「トリガー」や「アンカー」の発見，行為の背景の手がかりとなる。

行動観察表をもとに，どのような時に自傷行為を行いやすいのか，反対に行っていない時間はどんな時なのか，客観的に理解していく。

※記録をつけていく中で解離症状（「記憶が飛んでいる時間」）についても把握できることもある。

置換スキルの獲得

- 「トリガー」となる状況から引き起こされる感情の波から距離をとるスキルの獲得が必要。

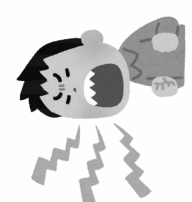
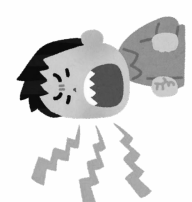
⇒自傷行為の代わりとなる行為を身につけることが大切になってくる。

- 2 種のスキル

刺激的置換スキル：より安全な知覚刺激に置き換える。

鎮静的置換スキル：焦燥，緊張，怒りといった感情を鎮める。

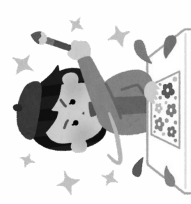
刺激的置換スキルの例

- スナッピング 
- 香水やアロマを嗅ぐ 
- 紙や薄い雑誌を破る 
- 大声で叫ぶ 
- 筋トレ 

スキルの効果的な使用方法

- それぞれのスキルを組み合わせる
当面は刺激的置換スキルで対処しながら鎮静的置換スキルを練習する。
- 練習は気持ちが穏やかな時に行う
- 「セーフティボックス」を作る
手頃な箱に「お守り」となるような大切な人からもらった手紙や写真、思い出の品などを入れて、気持ちや感情が不安定になったら箱から取り出し、切りたい気持ちをそらす。

鎮静的置換スキルの例

- 深呼吸 
- 気持ちを文章にして書く 
- 絵を描く 
- 音楽を聴く

最後に…

援助者も助けを求めることが大事

「複数であたること、チームを作ること、心理的な余裕を持つ」

様々な人との話の中から支援のヒントに繋がることもある。
一人で抱え込まずに同僚や上司、相談員、そして、地域の保健所や精神保健福祉センターなどに話してみてください。

主要参考文献

- 福田真也(2007)現代の大学生気質とこころの病気『大学教職員のための大学生のこころのケア・ガイドブック 精神科と学生相談からの15章』金剛出版 pp.11-15.
- 川上華代(2013).現代学生の特徴と学生相談についての一考察 問題や症状が維持され、変わらない学生の姿から見えてくるもの 和光大学現代人間学部紀要, 6, pp.141-154.
- 桐山雅子(2010).現代の学生の心理的特徴 日本学生相談学会 50周年記念誌編集委員会(編)(2010)-学生相談ハンドブック 学苑社 pp.30-34.
- 鳴澤實編集著(1986).学生・生徒相談入門―学校カウンセラーの手引きとその実際― 川島書店
- 松本俊彦(2014).自傷行為の理解と援助 日本評論社
- 松本俊彦(2014).自傷・自殺する子どもたち 合同出版
- 松本俊彦(2015).自分を傷つけずにはいられない 自傷から回復するためのヒント 講談社
- 苦米地憲昭(2006).大学生:学生相談から見た最近の事情 臨床心理学, 6, pp.168-172.
- 高石恭子(2009).現代学生のこころの育ちと高等教育に求められるこれからの学生支援 京都大学高等教育研究, 15, 79・8.

ご清聴ありがとうございました

第3回FD委員会 研修会報告書

日時：令和2年9月19日（土）

時間：9：30～12：45

場所：看護学部棟 2階 講義室1・2

講師名；第一薬科大学看護学部教授 長家智子先生

講習会テーマ； 「看護過程の展開」

プログラム

9:00-受付開始

9:30-講演開始 講師紹介

1. 看護過程とは
2. 看護過程の展開方法

11:00-11:15 休憩

3. 看護過程展開における指導のポイント
4. 質疑応答

まとめ

12:45-終了

参加者：教員（薬学 2名、看護学部 21名）事務職員 1名、合計 24名

アンケート提出：薬学部教員 2名、看護学部教員 16名

第4回 FD研修会 2020 報告書

日時：2020年9月28日（月） 13：00 ～ 14：30

演者：野呂瀬 崇彦 先生（北海道科学大学 薬学部薬学科 薬学教育学部門 薬学教育学分野 薬学教育開発・支援室 准教授）

演題：「学生の『能力』を把握するための教育評価の考え方 ～ルーブリックを中心に」

視聴者：86名

FD講習会アンケート結果

（回収 58名）

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか？

- ① 非常に役立った 27 ② 役立った 28
③ あまり役立たなかった 2 ④ 全く役立たなかった 0 無回答 1

2. 問1で③,④を選択された場合、理由をお聞かせください。

3. 講演時間は適切でしたか？

- ① 長すぎる 1 ② 適切 56 ③ 短すぎる 0 無回答 1

（①,③を選択された方は、望ましい時間を書いてください： 時間）

・オンラインなら質疑応答込みで1時間

4. 今後、希望する講演などがありましたら、ご記入ください。

ルーブリック

- ・他大学のルーブリックの実際やその運用が知りたい
- ・ルーブリックの具体的な活用事例

オンライン講義

- ・インターネット利用講義の実践方法
- ・リモートによる講義・試験の有効な実施法と問題点の解決法等について
- ・how to use Microsoft Teams in our online teaching
- ・オンライン講義に関するもの(学生に効果的な作成や事例について)

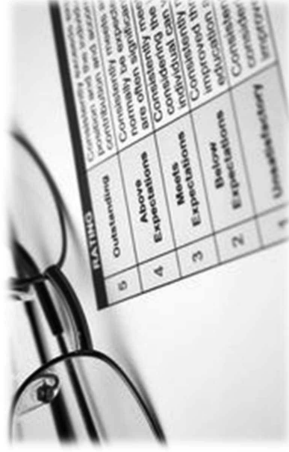
その他

- ・学生へのフィードバックの方法 論（方略）について

5. その他FD委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。

- ・アンケートは無記名で良いのではないのでしょうか

学生の「能力」を把握するための評価の考え方 — ルーブリックを中心に —



令和2年 9月 28日 (月)

北海道科学大学薬学部
薬学教育学分野
野呂瀬 崇彦

自己紹介

野呂瀬 崇彦 (のろせ たかひこ) Ed.D. MBA 薬剤師

- 昭和43年11月 長野県生まれ、高校まで群馬育ち
- ドラッグストアチェーンでOTC4年、調剤4年。転職して経営コンサルティング会社で経営コンサルタント。平成16年1月フリーのコーチ、経営コンサルタント
- 平成18年4月より現職 学内にて学習支援、FDを担当 (今年は遠隔授業も)
- 専門 医療コミュニケーション、薬学教育方法論
- 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会、日本薬学教育学会、日本医学教育学会、日本社会薬学会、日本保健医療行動科学会 など

今日の流れ

1. 教育評価とは？
2. ルーブリックとは？
3. ルーブリック作成事例
4. Pitfall (体験を踏まえて…)
5. 質疑応答

【今日の研修の目標】

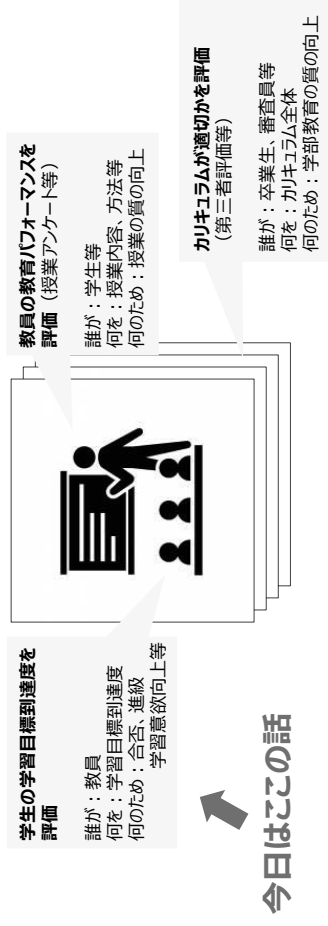
- 教育評価の種類とその目的を概説できる。
- 学習目標に合わせた評価方法を選択できる。
- ルーブリックの特徴と限界を踏まえ、自身の教育領域においてルーブリックの作成を試みる。

今日の流れ

1. 教育評価とは？
2. ルーブリックとは？
3. ルーブリック作成事例
4. Pitfall （体験を踏まえて…）
5. 質疑応答

「教育評価」とは？

- 教育について「誰が」「何を」「何のために」評価するのか？

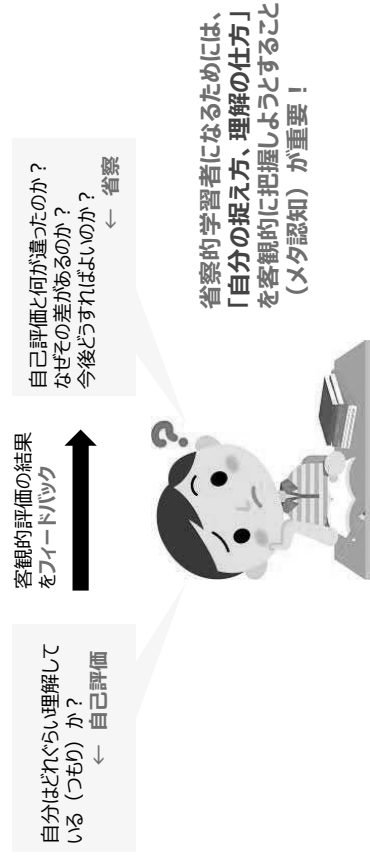


教育評価の機能

ある科目について…



自己評価、フィードバックの重要性



「評価観」の変遷（参考までに）

戦前：「絶対評価」

→ 評価者の「主観的」「恣意的な」評価への批判

戦後：「相対評価」

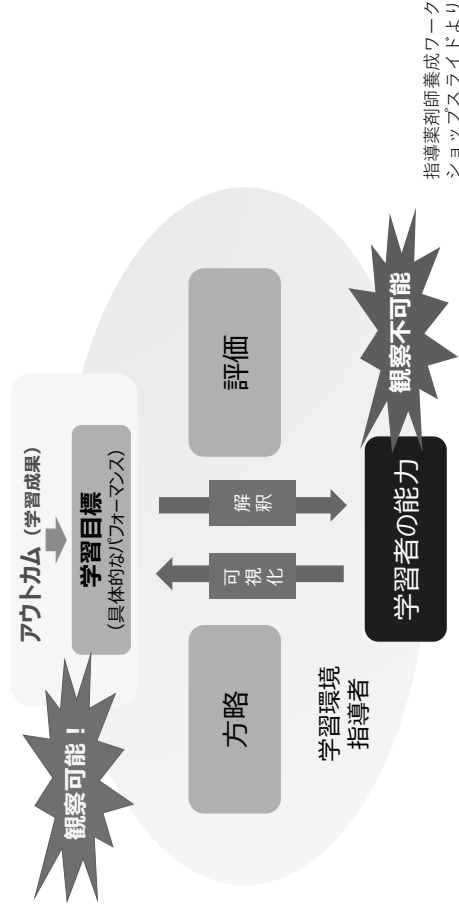
→ 「集団内の競争」、「個人内評価との整合」への批判

1970s以降：「到達度評価」（ブルームのタクソノミー）

※ 医療者教育においてもこの考え方が主流（コアカリ）

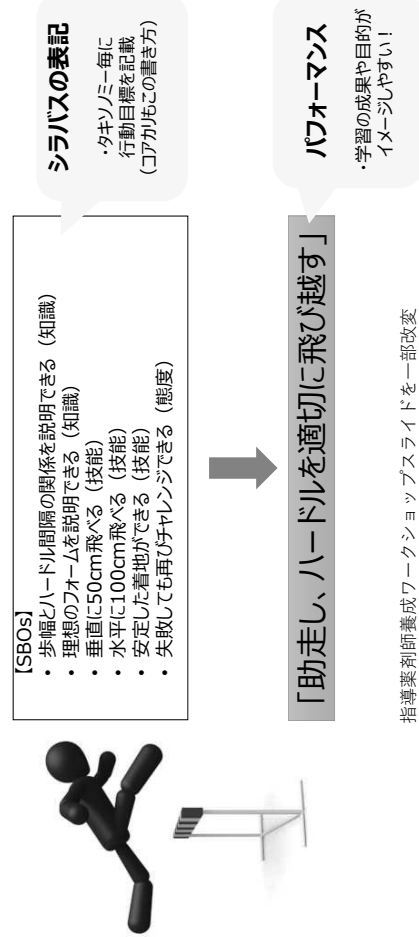
→ 「目標からはみ出す成果を見落とす」とへの批判もある

「到達度」＝学習目標をどのように設定するか？



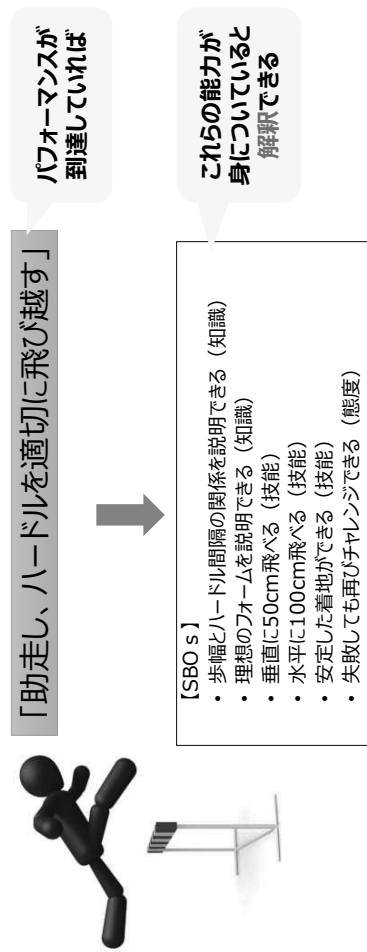
指導薬剤師養成ワーク
シヨップスライドより

学生に示す学習目標は「パフォーマンス」で表現するとイメージしやすい



指導薬剤師養成ワークシヨップスライドを一部改変

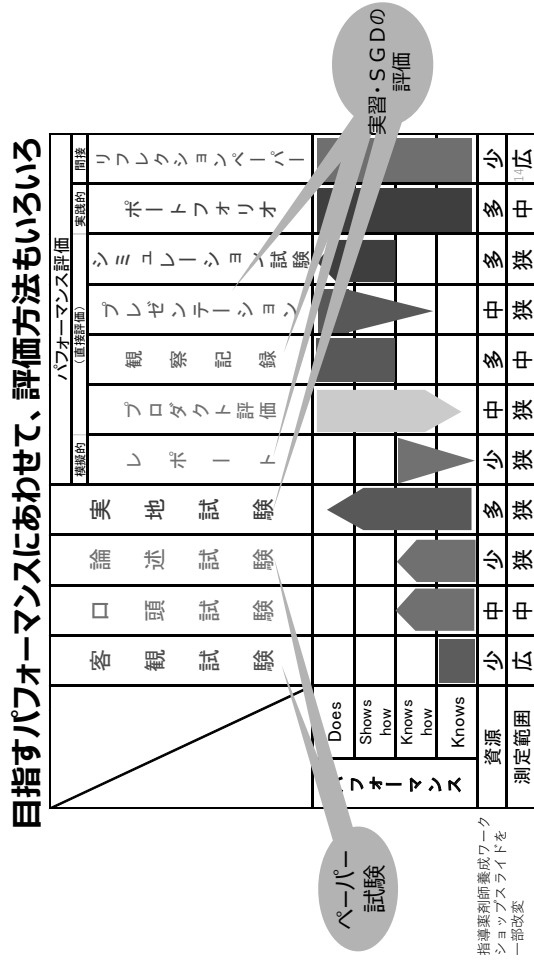
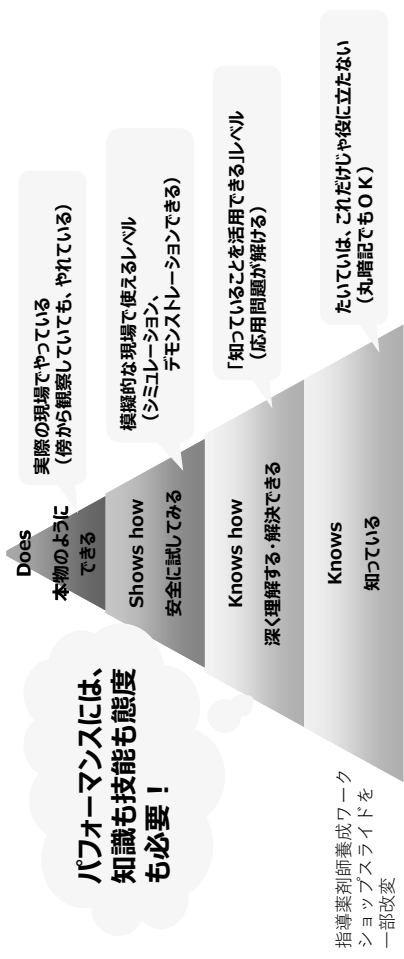
パフォーマンスが身についている ⇔ 個々の能力が身についている



指導薬剤師養成ワークシヨップスライドを一部改変

目指すパフォーマンスの度合いはいろいろ

パフォーマンススレベ



今日の流れ

1. 教育評価とは？
2. ルーブリックとは？
3. ルーブリック作成事例
4. Pitfall（体験を踏まえて…）
5. 質疑応答

- ## 2. ルーブリックとは？

- ### 3. ループバック作成事例

- ## 4. Pitfall (体験を踏まえて…)

- ## 5. 質疑応答

評価ツールとしてのルーブリック

ルーブリックとは・・・

- ① パフォーマンスを評価する尺度の一つである
→ **知識試験で測るのが難しいものが対象**
- ② 教員と学生が、到達目標と到達度合いを「共有する」ツールである
→ **学生が「何を」「どの程度」できるようにいけばよいのかイメージできる内容**
- ③ 仮説的尺度である
→ **質的評価である以上明確なカットオフの基準はない（柔軟に対応）**

- ↑ 知識試験で測るのが難しいものが対象

- ② 教員と学生が、到達目標と到達合いを「共有する」ツールである

- ↑ 学生が「何を」「どの程度」でできるようになればよいのかイメージできる内容

- ③ 仮説的尺度である

- ↑ 質的評価である以上明確なカットオフの基準はない（柔軟に対応）

ルーブリックの設計と活用

(1) ルーブリック設計の手順

(2) ルーブリックの構成要素

- 目指すパフォーマンス
- 評価観点（規準）
- 到達レベル（基準）

(3) ルーブリック作成例



(2) ルーブリックの構成要素

目指すパフォーマンス（評価するテーマ）

	S	A	B	C
規準 (1)	評価基準	評価基準	評価基準	評価基準
規準 (2)	評価基準	評価基準	評価基準	評価基準
...	...	...	...	...

- S: 特に優れている
- 期待を超えるプラスが見られる
- A: 十分達成されている
- 期待する活動や要素が十分見られる
- B: 概ね達成されている
- 期待する活動や要素は見られるが、未到達な部分もある
- C: 努力を要する
- 期待する活動や要素は見られない

(1) ルーブリック設計の手順

- 1 何を測るルーブリックかを確定する。
 - どの科目のどのSBOs?
- 2 評価対象の活動（実習等）について、目指すべきパフォーマンスを明確にする。
 - そもそもその実習において、学生が身に着けているべきものは何か
- 3 評価観点（規準）をいくつかに分割して、各々、タテの欄に記入する。
 - 2のパフォーマンスを構成する要素にわたる（5つ程度が限界）
- 4 各評価の観点の到達レベル（基準）をつくり、ヨコの欄に記入する
 - 「理想像」と「未到達」を決めてから間をつくる（1～3段階が限界）
- 5 1～4 の整合性とバランスをはかりながら、文言などを調整する。

つまり・・・

・ルーブリックとは、点数化しにくいパフォーマンスの達成度を測定するツールである。

- シラバスの「到達目標」、「パフォーマンス」、「評価の観点」がすべてリンクしていること
- 授業の最初から学生と共有することが大切！
- 無理してルーブリックでなくてもOK！ 評価の対象となる能力にあわせてた評価方法を組み合わせて、適切な総括評価を！

今日の流れ

1. 教育評価とは？
2. ルーブリックとは？
3. ルーブリック作成事例（当日提示：配布資料なし）
4. Pitfall（体験を踏まえて…）
5. 質疑応答

今日の流れ

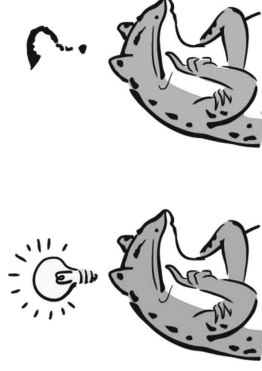
1. 教育評価とは？
2. ルーブリックとは？
3. ルーブリック作成事例
4. Pitfall（体験を踏まえて…）
5. 質疑応答

ルーブリックを「活用」しよう！

ルーブリックに「使われない」ために…

1. 「何のために」を大切に
→ 学習到達度のフィードバックにより省察を促す
2. 「もれなく」評価はできない
→ 他の評価方法と組み合わせで評価する
3. 「できあがり」を想像しながら
→ 評価対象物（レポート等）の出来上がりで評価場面を想像しながら作る
4. 「キャリアブレーション」は必要（だけど完全ではない）
→ 複数教員で評価するときは、まず一人分をみんなで評価して擦り合わせる
5. 「最初に」示して評価したら「すぐ」学生に開示（フィードバック）する
→ フィードバックは早ければ早いほど省察に役立つ

5. 質疑応答



【参考】

- ・ 田中耕治「教育評価」岩波書店（2008）
- ・ ダネル・ステイブンス他「大学教員のためのルーブリック評価入門」玉川大学出版部（2014）

第5回 FD 委員会 研修会報告書

日時：令和2年11月9日（月）

時間：13時～14時30分

場所：新館3F 模擬病棟

テーマ：「卒業研究発表会・卒業論文の評価用ルーブリックを作ろう（薬学部教員対象）」

1 卒業論文評価用ルーブリック

2 卒業研究発表評価用ルーブリック

タイムスケジュール：

13：00～13：15 全体説明（下記ルーブリック作成上の注意を参考に作成してください。）

ジャンケンかくじ引きでテーマを決める。

13：15～14：15 SGD

14：15～14：28 発表および全体討議（3分発表+2分討論/グループ）

14：28～14：30 アンケート

参加者：教員（薬学 14名）合計14名

アンケート結果

1. この講習会はあなたにとって役立ちましたか？

- ① 非常に役立った 9 ② 役立った 5
③ あまり役立たなかった 0 ④ 全く役立たなかった 0 無回答 0

2. 講演時間は適切でしたか？

- ① 長すぎる 0 ② 適切 14 ③ 短すぎる 0 無回答 0

3. 今後、希望する講演などがありましたら、ご記入ください。

- ・Office365のFormsやStream等の有効な使用法
- ・ストレスコーピング（メンタルヘルスが悪くなった学生が多かったなのでその対応方法として）
- ・オンライン講義の具体的実践法
- ・ルーブリックの作成のコツがわからないので、作成の実際を順を追って説明してほしい。

4. その他FD委員会に対する要望等がありましたらご記入ください。

- ・FD研修会の実施・準備、ありがとうございました。
- ・今回の結果のフィードバック
- ・とてもいい勉強になりました。
- ・卒論の評価方法を見直すことができた。

第 5 回 FD 研修会
ループリックワークショップ

年月日：2020 年 11 月 9 日（月）

時間：13 時～14 時 30 分

場所：新館 3F 模擬病棟

テーマ：「卒業研究発表会・卒業論文の評価用ループリックを作ろう」

1. 卒業論文評価用ループリック
2. 卒業研究発表評価用ループリック

タイムスケジュール：

13：00～13：15 全体説明（下記ループリック作成上の注意を参考に作成してください。）

ジャンケンかくじ引きでテーマを決める。

13：15～14：15 SGD

14：15～14：28 発表および全体討議（3 分発表+2 分討論/グループ）

14：28～14：30 アンケート

ループリック作成上の注意

1. 進行・発表係を決めてください。書記は FD 委員が担当します。
2. 最初に、現在の評価表の評価の観点を見直し、作成してください。
3. 次に観点ごとにループリックの評価の基準を記載してください。
4. ループリックは 3～5 段階にしてください。
5. 最も評価の高いものから作成し、次に、最も評価の低いものを作ります。そのあと、中間段階を作成してください。それぞれに配点をつけてください。
6. 合格の基準を示してください。（合計点や欠格事項など、必要があれば作成する。）

以上

A グループ 卒業論文評価用ルーブリック

	卒業研究論文	古賀 ^(貴) (進行)、中原(発表)、松原、池谷、小武家、入倉、村山(記録)			
No	評価の観点	8 点	6 点	4 点 (合格)	2 点
1	研究目的を理解している	研究の背景が十分に記載され、背景をもとに、研究の立ち位置を明確に記載したうえで研究目的を明確に記載している。	研究の背景がある程度記載され、研究の立ち位置を概ね理解したうえで研究目的を記載している。	研究の背景と目的をある程度理解したうえで記載している。	研究の目的のみが記載しているが、目的が十分に理解していない。
2	研究調査の方法を適切に記載している。	研究の目的・背景をもとに、適切な方法を選択し、方法の原理を必要に応じて記載し、研究・調査の方法を明確・適切に記載している。	研究の目的・背景をもとに、研究・調査の方法を明確・適切に記載している。	研究の目的・背景をもとに、研究・調査の方法を記載している。	研究方法を理解していない。実験方法が十分に記載していない。
3	結果に対する考察が的確である	目的に基づいて、得られた結果を正しく解析し、適切に考察する。	目的に基づいて、適切に考察する。	ある程度考察しているが、目的に基づいていない。	思いだけで、考察が不十分である。
4	フォーマットに基づいて記載されている。論旨や文献・出展・資料などの表現が的確である				参考文献が記載されていない。
5	結果を的確に表現できる	得られた結果に対して適切な図表や文章を用いて、客観的かつ正確でわかりやすく記載している。	得られた結果に対して適切な図表や文章を用いて、わかりやすく記載している。	得られた結果をわかりやすく記載している。	得られた結果を明確に記載していない。

B グループ 卒業研究発表評価用ルーブリック

戸田(進行)、岡崎(発表)、柴山、藤井(清)、久保山、小川(和)、濱村(記録)

評価表の観点

- ・今回は、通常のポスター形式での開催を想定（オンラインではない）
- ・【総合評価】の項目が特に曖昧では？

1. 発表ポスター形式

- ・フォントの種類やサイズの統一性、見やすさ
- ・参考文献の書き方がバラバラ（まとめて最後、その都度？、そもそも入れる？）
- ・図表がわかりやすい（略語、縦横軸、適切な位置にコントロール）
- ・文字がわかりやすい（重要事項が強調）
- ・目的（背景）、方法、結果、結論（考察）がきちんと示されている

5点：目的（背景）、方法、結果、結論（考察）が全て明示され、図表や文字がわかりやすく、フォントの種類やサイズに統一性がある。

3点：目的（背景）、方法、結果、結論（考察）全ての記載がある。図表や文字の一部がわかりにくい。

1点：目的（背景）、方法、結果、結論（考察）が明示されていない。図表や文字の全てがわかりにくい。フォントの種類やサイズに統一性がない。

2. 説明（プレゼンテーション）

- ・実験内容を理解しているかどうか
- ・目的（背景）、方法、結果、結論（考察）を理解しているかどうか
- ・わかりやすい表現（専門外の人が聞いても理解できるレベル）で説明できる

5点：目的（背景）、方法、結果、結論（考察）の全てを十分理解しており、自分の言葉でわかりやすい表現（専門外の人が聞いても理解できるレベル）で説明できる。

3点：目的（背景）、方法、結果、結論（考察）を部分的には理解しており、用意した原稿等を用いればわかりやすい表現で説明できる。

（丸覚えした場合は？）

1点：目的（背景）、方法、結果、結論（考察）の全てを理解していない。説明がわかりにくい（専門家が聞いても理解できない）。

3. 発表態度（プレゼンテーション）

- ・はっきりと話しているか？
- ・熱意を持って発表できている
- ・アイコンタクトができている（メモ<文章>を見ながら発表していない）
- ・身だしなみ
- ・姿勢

5点：姿勢がよく身だしなみが整い、熱意を持ってアイコンタクトをしながらはっきりと発表することができる。

4点：メモなし

3点：身だしなみは整っているが、メモを見ながら、一時アイコンタクト

1点：身だしなみが整っておらず、相手の目を見ることもなく、聞き取りづらい声量で発表している。

4. 質疑応答

- ・誠意を持って回答している（話を最後までよく聞く、目を見て話す）
- ・質問内容に対して適切、的確に（話がかみ合う）<これを基準に良い点の場合他の項目を追加>
- ・専門用語（正しい科学用語）を使えているか？
- ・もたつかない（スムーズ）
- ・わからない時もフォローができている（今後の展開を述べることができる）
- ・現状の限界を理解している

5点：正しい科学用語を使い、スムーズに、質問内容に対して適切、的確に誠意を持って回答ができる。

1点：正しい科学用語を使えず、回答にもたつき、

5. 総合評価

- ・削除

「第 24 回 FD フォーラム 大学におけるダイバーシティ」 報告

日時：平成 30 年 3 月 2、3 日

会場：立命館大学 衣笠キャンパス

参加者：田畠健治

主催：大学コンソーシアム京都

(報 告)

1.シンポジウム①

メインテーマ：「大学に集う人々の多様性に以下に向き合うか」

内容：今後、大学が国際化していく中で、国際基準の人権の観念やダイバーシティに対する考え方を日本の大学も共有していく必要があるとの趣旨のもと、京都精華大学学長 ウビス・サコ先生をはじめとした 4 人のシンポジストが自身の体験や考えについてそれぞれ次のタイトルで講演が行われた。「大学における多様性の課題と意識改革 ―留学生から大学教員までの経験を通して―」、「LGBTs が思春期・青年期に直面する生きづらさ」、「大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか～合理的配慮は「転ばぬ先の杖」か?～」、「大学に集う人々の多様性にいかに向き合うか」

最後に、会場をまじえて質疑討論が行われた。

2.分科会①

教学 IR：ケーススタディーから学ぶデータの活用法

大阪大学では入学時および、卒業・修了時に大学独自のアンケートを実施しているほか、海外研究大学とのベンチマーキングをおこなう目的で SERU という調査を行っていることが特徴である。また、GPS Academic, PROG といった外部調査を用いて、学修成果の評価が可能なのか、現在分析中であるという説明もなされた。

次に大阪府立大学では、GPA、IR コンソーシアムの共通調査、大学独自の卒業時アンケートといったデータを分析し、教育改善活動につなげている。そのなかで、大阪府大における「初年次ゼミナール」導入や英語科目の改革といった実例を挙げ、可視化したデータをいかに教育改善につなげていくかが重要であると講演された。

京都光華女子大学短期大学部における総合的評価提示システムについての紹介があった。京都光華女子大学短期大学部では、各科目の到達目標をディプロマ・ポリシーと紐付けする試みが行われ、同ポリシーの達成度を外部テストである PROG を用いて検証するという取り組みが行われている。

最後に、龍谷大学における教学 IR の取り組みについての説明があり、教学 IR を実施するうえでは数々の問題点があることを指摘された。また、大学 IR コンソーシアムの学生行動調査を実施して集めたデータを、機械学習手法を用いて分析した結果、ボトルネックになっている科目を特定するなど、学生調査のデータを実際に活用するための一例が示された。

以上

外部研修参加報告書

研修項目:内閣府主催 令和2年度

「性暴力、配偶者暴力等被害者支援のためのオンライン研修」

年月日:令和3年3月1日(月)～令和3年3月31日(水)

実施場所:オンデマンド研修

参加者:薬学部2名、看護学部7名

実施内容:新型コロナウイルス感染予防の観点及び多くの相談員等が研修を受けられるようにする観点から、若年層に対して教育・啓発の機会を多く持つ指導的立場にある者、地方公共団体において若年層を対象とした女性に対する暴力の予防啓発事業を担当している行政職員及び若年層を対象とした女性に対する暴力の予防啓発事業を行っている民間団体を対象とした、効果的な予防啓発手法等を習得するためのオンライン研修が実施された。

研修の内容は下記の項目である。

<研修プログラム>

番号	形式	タイトル
1	講義・ワーク	デートDV予防(防止)教育に関する取組(基礎編)
2	行政説明	若年層における女性に対する暴力の現状及び主な取組等
3	講義	若年女性における暴力被害とアウトリーチ
4	講義	若年女性のリプロダクティブ・ヘルスとリプロダクティブ・ライツ
5	講義	若年女性における性暴力被害と妊娠・中絶・出産
6	講義	学校における被害者支援の現状と課題
7	講義・ワーク	若年層におけるデートDV、性暴力被害予防に向けた取組
8	講義・ワーク	効果的な予防啓発の取組

研修参加者:

看護学部:安藤満代、川口弥恵子、園田和子、溝口晶子、栗原はるか、中村眞理子、
溝口晶子

薬学部:小武家優子、村山恵子

報告

- 研修は、「デート DV 予防教育に関する取組み」を視聴した。学生のデート(付き合い)において、DV があることを恐らく多くの学生は認識がないのではないかと思った。「付き合っ

ている相手の自由を拘束することがDVにあたること」「別れるのに承諾はいらないこと」など、知識が普及していないだろうと感じた。今後、本学の学生がデートDVに関する知識を持つことは、人権を守ることに繋がり、学生にも講座などがあると良いと感じた。

- 新型コロナウイルス感染拡大の状況下において推奨されるステイホームは、DVや虐待などの事案を増加させている。大学生も同様にオンライン授業などで、在宅時間が多くなり、密室での恋人間の暴力に遭遇する機会が増えている可能性がある。大学教員は、そのような可能性をいつも念頭に置いておくことが必要であり、細かく学生の様子に気を配り、相談があった時には丁寧に適切に対応することが重要であると改めて感じた。そのためのNPOの活動や公的な施策などの新しい情報を知ることができて大変勉強になった。
- リプロダクティブ・ヘルスやリプロダクティブ・ライツなどの新しい概念を学んだ。特に若年女性については重要な問題であると思ったが、倫理的問題も含まれており、実際の教育等については、大学では、どこでどのように実施するのか、課題であると感じた。
- 学校における被害者支援の現状については、虐待やハラスメントだけではなく、いじめ防止対策推進法の対象にもなり、学内だけでなく学外の問題に対しても、組織的な対応が極めて重要であること、支援には、詳細な事実調査と心理を把握して対応する必要があることを認識した。さらにDV被害に対する取り組みの難しさを認識し、また、さまざまな固定観念にとらわれがちな考え方は、被害者や加害者だけではなく、すべての人々が認識する必要があると思った。また、学生などにどのように対応すればよいか貴重な情報を得ることができた。今後の対応に活用したい。
- デートDV及び性暴力被害予防については、教育の重要性を感じた。今まで考えられている男性・女性に関する伝統的な役割分担などに基づく社会通念や思い込みが性暴力に結び付く可能性があり、これらの固定概念から解放されて、個々の人間としての自由と安全を確保することが必要であることが分かった。また、暴力とは力によるものだけではなく、言葉によるものも暴力であることをすべての人が理解することが必要であり、そのための教育が重要である。
- 若年女性の被害者支援から見える問題・生きづらさにおいて、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響が見られることを学んだ。特に、ステイホーム中の若者の居場所としてSNS関連のトラブルも多数あることを知り、本研修を、日常業務における学生支援に活かしていきたい。
- 高校、大学生間でのデートDVが多いこと、また、幼児期に親のDVを(多くの場合、父親から母親がDVを受けているケース)を目撃している学生には、そのことをどのように考え、意味づけていくかの支援が求められると考え、アドバイザーの学生への対応に必要と思い受講いたしました。DVを受けた女性は、一時的に避難し、警察に届けたとしても、また相手が変わり被害を受けるという点について、効果的な予防啓発が必要と思いました。
- デートDVについてはハラスメント防止・対策の一環として、以前から研修を受けていたが、

今回は被害者への具体的な対応方法について学ぶことができた。また、若年層のデートDV や性暴力、学内での暴力等に対して、教員としてどのように対応すべきか、自分のできることは何か等、考える示唆を得ることができた。

- 本研修を終え、改めて若年女性が様々な暴力被害にあう可能性の高さと、その可能性は誰にでも身近にあることを認識した。実際に自分が臨床で対応した事例や、他大学で対応してきた学生の事例の支援を振り返るきっかけにもなった。今回は、若年女性に焦点化された箇所が多かったが、ジェンダーレスの現在では人は誰しもが被害者にも加害者にもなりうる。性差を意識化しすぎること、また支援から漏れる人を生み出さないように考えながら支援にとりくみたいと思う。

以上

学生・教員懇談会報告

令和2年度

令和2（2020）年度 第1回学生・教員懇談会報告書

1. 日 時 令和2年9月19日（土）12：00～13：00
2. 場 所 厚生会館2Fサクララウンジ（桜の間）
3. 教 職 員 FD委員：小松、村山、有竹、藤井、安川、岡崎、濱村、松延、加来野、
荒牧（欠席 豊原）
オブザーバー：松原教務部長 計 11 名
4. 学 生 1～4年（各学年2名）から選出 計 8 名
5. 懇談テーマ 「前期オンライン授業や実習について」

Q1. オンライン授業で良かった点、悪かった点について？

◎ 良い点

- ・動画は、何度も見直せるため、その都度確認出来たり、試験前の復習に役立った。
（多数）

● 悪かった点（要望事項含む）

- ・1・2年生は知らない先生がほとんどだと思うので、授業のはじめに先生の自己紹介動画があったら良かった。
- ・動画の時間が課目の先生によってバラツキ（30分～90分）があった。
- ・ネット環境などによって個人が受けた授業・テストに差が生じた。
オンライン（Zoom）授業で音声のみで画像が映らない授業があった。
テスト時に問題にあるグラフなどの画像が出ない事があった。
- ・出席状況の確認ができなかった。
- ・最初の頃は、緊張感があったが、時間が経過するうちにマンネリ化した
- ・単調な授業（変化が少ない動画）だと頭に入りにくいところがあった。
- ・実習の授業は、レポート作成に集中することになり内容が入らないことがあった。
また周りの人と相談もできないため考察が難しかった。
- ・実習は、実際にやってみなければわからないことから対面授業が良かった。
- ・レポート、課題の提出先が先生によってeポートフォリオだったりGoogleフォームだったりして迷うことがあったので統一してほしい。
- ・勉強の場所として自宅しか使えないため、従来のテスト勉強（学校での勉強、友達との共有）が出来なかった。

Q2. 講義動画の時間は、どのくらいの長さがよいか？

- ・60分～80分の時間範囲が適当である。
- ・授業によっては授業、復習部分の入った動画もあったので授業編、復習編に分けるやり方もあった。

- ・見直しの時に検索が容易なように動画は1つにまとめてもらったほうが良かった。
- 一方、分割したほうが集中できるので良いという意見もあった
- ・授業の内容が判るタイトル（第・回だけでなく授業内容が判るように）にしてほしいかった。

Q 3. モチベーションを高める動画とは

- ・単調な動画とならないように声などにメリハリをつけてほしい、
- ・長すぎない動画（集中力の維持）

Q 4. オンラインテストについて

- ・勉強が身につくのは対面試験の方が良いが、コロナ感染予防という状況を考えると今回のオンラインテストという選択は仕方がなかった。
- ・授業ごとの小テストは、オンラインテストが良いが、期末テストは、対面試験の方が良かった。
- ・オンライン試験の後に、理解度を確認する復習のテストをするやり方がある。

Q 5. コロナ感染状況がどのくらいだったら普段通り学校に行けるとの基準はあるか？

- ・電車で通学しているため、リスク（もし感染した場合の風評被害など）もあるので、感染者がゼロに近づくか薬が開発されるまでは、オンライン授業のほうがありがたいと思っている。
- ・親が通学を反対している学生はいなかったが、自分が通学して感染したら、親や家族の受験生に迷惑をかけるという不安を持っている。

Q 6. 授業Webアンケートについて（教員からの要望）

- 講義に関する細かい要望事項は、授業評価アンケートを活用してほしい
- 前期は、準備が遅れて時期を失した面もあったが、後期は、アンケートの準備は出来ているので周りの学生にも周知してほしいとの要望があった。

最後に

学部長が今回の意見を参考に大学として出来る対応策をとっていくと回答した。

以上

IR 委員会、教務委員会、FD 委員会 合同

「講義形式アンケート」報告

令和 2 年度

IR 委員会、教務委員会、FD 委員会 合同 「講義形式アンケート」

実施期間：令和3年 1月7日（木）～18日（月）

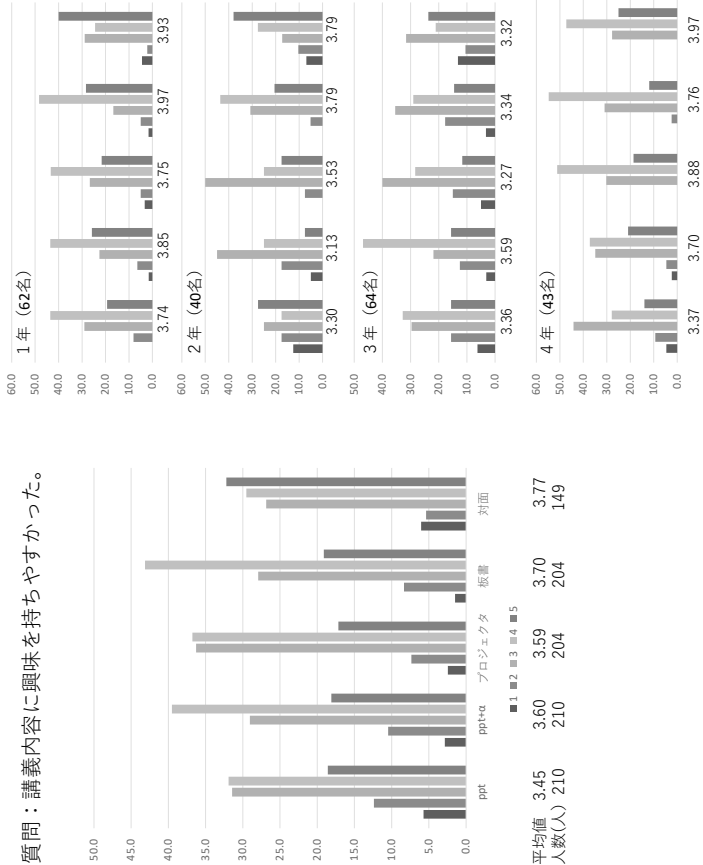
対象学生：薬学部、看護学部の1～4年生

実施内容：「オンライン授業や対面授業の講義形式別の理解度や授業満足度についてのアンケート調査」

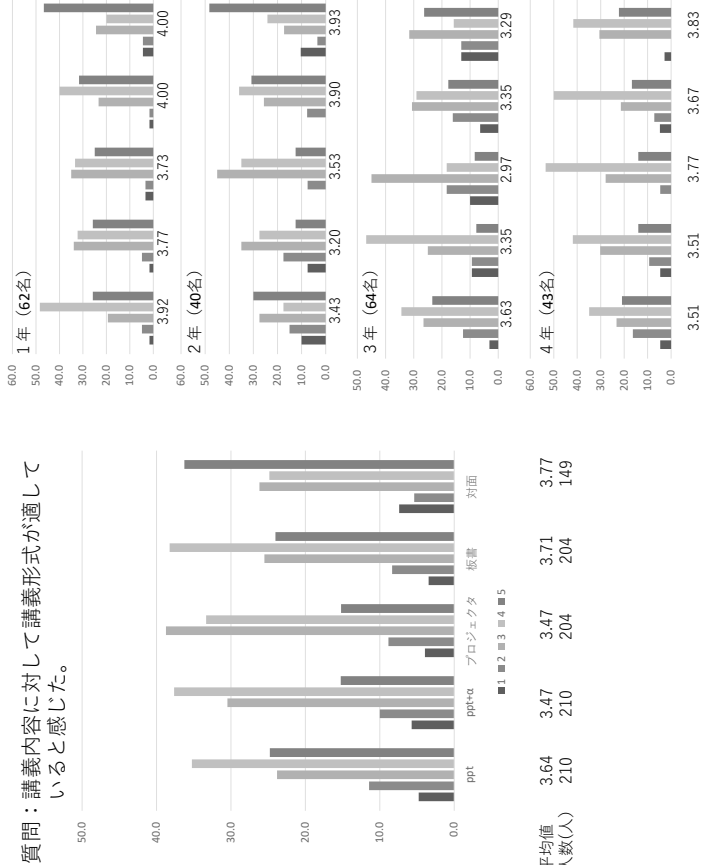
講義形式の種類：

1. オンライン：パワーポイントへの音声吹込みのみ
2. オンライン：パワーポイントへの音声吹込み+α（zoomによるリアルタイム形式、スライドへの書き込みや教員の顔の表示など）
3. オンライン：スライド（プロジェクターやディスプレイ）+教員
4. オンライン：黒板+教員
5. 対面式

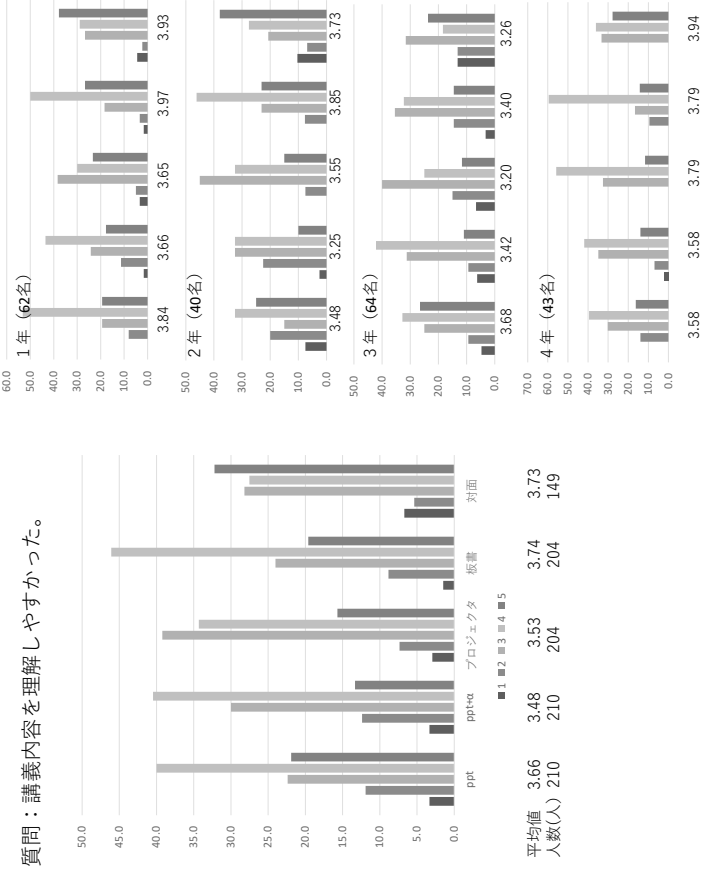
質問：講義内容に興味を持ちやすかった。



質問：講義内容に対して講義形式が適していると感じた。



質問：講義内容を理解しやすかった。



パワーポイントのみの講義に対する自由記述

この講義形式についてよかった点

- ・ パワーポイントだけが画面に映るため、画面の反射や文字の小ささとかの問題が無く理解しやすかった。
- ・ 黒板よりも身近で聞いている感じがして聞き取りやすかった。

この講義形式について改善すべき点

- ・ 講義中に手を動かさないことが多い、集中が途切れることがある
- ・ 雑音
- ・ 言葉が聞き取りづらいことがあった。
- ・ 先生方の表情が見えないため、何がどう大切なのか分からなくなった。
- ・ 授業を受けている自覚が薄くなり、頭に入らなくなった。時々、何と喋っているのか分からない部分があった。
- ・ どこを指してるか分からないことが多い
- ・ 読み上げるだけの授業はやめた方がいい

パワーポイント + α の講義に対する自由記述

この講義形式についてよかった点

- ・ スライドメインで文字は見やすく、大事な所に印や線をつけてくれたので興味を持ちやすかった
- ・ スライドに書き込んで付け足して貰えるので、理解がしやすかったです。
- ・ 顔が拝見できることで安心(?)感があった
- ・ zoomがあるとメリハリがついて良かった。
- ・ チャット等を通して質問ができること

この講義形式について改善すべき点

- ・ 固まりやすいのでzoomでなるべく行わないで欲しい。
- ・ ネットワークの接続が悪いと、途切れて聞こえたりする。
- ・ オンライン授業に比べ、ノートをとる時間があまりとれず、授業のペースに追いつけない場合があったため、資料にしてもらった方が良かった。
- ・ zoomでのリアルタイムでは1度しか聞けないため、集中して聞こうという姿勢になるが、それではオンライン講義のメリットを活かしていないと思う。リアルタイムでの講義をするのであれば、録画して、その後でも見れるようにして欲しい。

板書による講義に対する自由記述

この講義形式についてよかった点

- ・ 黒板を使用した講義であるため板書の時間が十分に確保されていて、理解もしやすかった。
- ・ 講師の顔が見れて、孤独感が減ってよかった。
- ・ 大学の授業を受けている実感が一番あった。
- ・ 講義を先生と講義を受けているという感覚があって楽しかったです。
- ・ 先生が直接黒板に書いてくれるのはどこが重要か理解しやすかった。

この講義形式について改善すべき点

- ・ チョークの色によって見やすいものと見にくいものがある。
- ・ 遠くで見えにくい部分が多々あった
- ・ オンラインの生徒たちもボイスのみでいいから参加出来たらよかったかと。
- ・ 数字や記号が小さく書かれることが多くばやけて+か-どちらなのか2なのか3なのかよくわからないことがあった。小さく書くときは読み上げてほしい。

プロジェクタの講義に対する自由記述

この講義形式についてよかった点

- ・ 先生が、図に指をさして説明してくれるのでこのことを言っているのか分かりやすかった。
- ・ 先生の顔を見ながら一緒に授業を受けている感覚だった。
- ・ いつも学校で受ける授業そのもので、自然と集中力が上がった
- ・ 先生の顔が見える点やどの部分について話しているかの視覚化が可能な点

この講義形式について改善すべき点

- ・ 場所によっては先生でスライドが見えない
- ・ パワーポイントの音声よりも声が聞き取りづらい時がたまにある。
- ・ パソコンの全面で見ても字が小さい時があり見にくい場合もあった。
- ・ プロジェクターの字が見にくかったです。
- ・ プロジェクターの雑音が大きく、聞こえにくい。
- ・ 黒板に写したものと光の当たりによっては見えにくかった。

対面式の講義に対する自由記述

この講義形式についてよかった点

- ・ オンラインより適度な緊張感があってよかった
- ・ 看護科の援助技術の講義は対面でないとできないので適している。
- ・ 周りの生徒も頑張っているのやる気は出る
- ・ 授業を受けている、という感覚が強くあり、大学に行く意義を感じることができた。
- ・ 疑問に思ったことをすぐに解決できる。

この講義形式について改善すべき点

- ・ 席によって板書等が見辛い点
- ・ コロナウイルス感染者が増加しているの、対面はすごく抵抗がある。

編集委員

第一薬科大学 FD委員会

委員長（薬学部長）小松 生明

委 員（薬学部） 村山 恵子 有竹 浩介 藤井 清永
安川 圭司 岡崎 裕之 濱村 賢吾
松延 千春 荒牧 治 豊原 敬三

委 員（看護学部）平田 伸子（看護学部長）
西田 和子 山口今日子

発行人

福岡市南区玉川町22-1 第一薬科大学内 小松 生明

印刷所

福岡市南区清水3-20-10 ㈱甘棠社

（非売品）

令和3年3月31日印刷

令和3年3月31日印行

発行所 福岡市南区玉川町22-1 第一薬科大学